

- スハシ印ヲ捺シ受取證書トトモニ振出局ニ差出シ爲替金ヲ受取ルヘシ
- 第三 電信爲替差出方
 - 八 電信爲替證書一枚ノ金高ハ參拾圓迄ヲ限リ壹圓ニ滿タサル端數ヲ差出スヘカラス
 - 九 爲替料ハ路程ノ遠近ニ拘ハラズ左ノ割合ニ從ヒ郵便切手ヲ以テ納ムヘシ
 - 爲替金高五圓迄 貳拾八錢 同 拾圓迄 參拾錢
 - 全 全貳拾圓迄 參拾五錢 全參拾圓迄 四拾錢
 - 十 電信爲替ノ差出方ハ通常爲替ト同様郵便局ニテ爲替證書ヲ用紙ヲ申受之ニ金高其他差出人受取人ノ住所氏名等ヲ認メ其差出人受取人ノ宿所氏名ニハ片假名ヲ付ケ爲替料トトモニ郵便局ニ差出シ受領證書ヲ受取ルヘシ
- 第四 電信爲替受取方
 - 十一 電信爲替證書ハ拂渡局ニテ調製爲替金高其他ヲ受取人ニ通知スルモノナレバ受取人ハ其通知ノ日付ヨリ七日内ニ拂渡局ニ到リ通知書ニ差出人ノ宿所氏名等ヲ明カニ認メ之ヲ差出シ爲替金ヲ受取ルヘシ
 - 十二 受取人爲替金ヲ受取ルキ又ハ差出人爲替證ノ返戻ヲ受ルトキハ渾テ通常爲替同様切手額ヲ爲ス
 - 十三 拂渡局ニテ爲替證書ヲ受取人ニ渡シ難キトキハ拂出局ヲ經テ差出人ニ之ヲ

渡スヘシ

- 十四 差出人前項ノ通り拂出局ヨリ爲替證書ヲ渡サレタルトキ尙其爲替證書ヲ受取人ニ送ラントスルトキハ通常爲替ト同様ノ手續ニテ送ルヘシ
- 第五 小爲替差出方
 - 十五 爲替證書一枚ノ金高ハ三圓迄ヲ限リ端數ハ厘位ヲ限ルヘシ
 - 十六 爲替料ハ爲替證書一枚ニ付金三錢郵便切手ヲ以テ納ムヘシ
 - 十七 爲替ヲ差出スモノハ爲替金爲替料トトモニ爲替ヲ取扱郵便局ニ差出シ爲替證書及ヒ受領證書ヲ受取ルヘシ
 - 但爲替金ヲ拂渡スヘキ郵便局ヲ指シ定メ爲替證書ニ其局名ノ記入ヲ受クヘシ
 - 十八 差出人ハ爲替證書ノ表面受取人ノ部ニ受取人ノ宿所氏名ヲ明カニ認メ自費ニテ受取人ニ送ルヘシ若シ自身ニテ認メ難キトキハ振出局ニ其認メ方ヲ請フヘシ
- 第六 小爲替受取方
 - 十九 受取人爲替金ヲ受取トキハ爲替證書ノ裏面ニ設ケアル受取人ノ部ニ宿所氏名ヲ書シ印ヲ押シ之レヲ拂渡局ニ差出シ爲替金ヲ受取ルヘシ
 - 二十 差出人爲替金ノ返戻ヲ要スルトキハ爲替證書ヲ裏面ニ設ケアル受取人ノ部ニ宿所氏名ヲ書シ印ヲ捺シ之ニ受領證書ヲ添ヘ何地ニテモ其受取方ニ便利

ナル爲替ヲ取扱フ郵便局ニ差書シ爲替金ヲ受取ルヘシ

第七 爲替金渡濟通知

- 二十一 差出人爲替金ヲ受取人ニ渡濟トナリタルコトヲ承知シタルトキハ爲替ヲ差出ストキ振出局ニ通知料ヲ納メ豫テ其由ヲ申立置クヘシ
- 二十二 爲替金渡濟ノ通知料ハ爲替證書一枚ニ付金二錢トス其通知料ハ郵便切手ニ換テ納ムヘシ

二十三 通知料納濟ノ爲替ニハ必ラス振出局ニテ爲替證書電信爲替ハ受領證書ニ通知料納濟ノ印ヲ捺シテ渡スヘキニ付篤ト其印ヲ改メ受取ルヘシ

二十四 受取人渡濟通知ヲ要スル爲替ヲ受取ルトキハ拂渡局ノ求ニ從ヒ同局ニ備ヘアル通知書ニ氏名ヲ認メ印ヲ押シ又小爲替ナルトキハ差出人ノ所氏名ヲモ申述ヘシ

第八 爲替證書拂渡請求方

- 二十五 爲替證書ヲ失ヒ又ハ證書ノ金高印章番號ノ類ヲ郵便局ニテ調ヘ難キ程ニ破レ損シ又ハ汚シタル片又ハ爲替金ノ拂渡期限ヲ過キ又證書ハ小爲替ヲ除クニ記ナル拂渡局ニテ爲替金ヲ受取ニ不便ナルトキハ次ノ定メニ從ヒ郵便爲替金局ニ再渡ノ證書又ハ書替ヲ請求スヘシ
- 二十六 爲替證書ノ書替又ハ再度ノ證書ヲ要スル片ハ最寄ノ爲替ヲ取扱フ郵便局

コトヲ請求書ノ用紙ヲ申受ケ之レニ書替又ハ再度ノ證書ヲ要スル譯柄等ヲ認メ郵便局ニ差出シ預書ヲ請取ルヘシ

但再度ノ證書ハ差出人ヨリ請求スヘシ

二十七 郵便局ニテ受取タル預リ書ハ新證書ヲ渡ストキ之レト引換ニ納ムヘキモノニ付キ大切ニ保存シ置クヘシ

二十八 爲替證書ノ書替又ハ再度ノ證書ヲ請求スルモノハ更ニ爲替料ヲ郵便局ニ納ムヘシ

二十九 小爲替證書ヲ失ヒ證書再度ヲ請求シタルモノハ其證書ノ日付ヨリ百二十日ヲ經タル上ナラテハ證書ヲ渡ササルヘシ

第九 雜則

三十 爲替ヲ差出ストキ振出局ヨリ渡シタル受領證書ハ後日其爲替金ノ返戻又ハ再渡ノ證書ヲ請求スルトキ等ノ證擧トナスヘキモノニ付キ其證書ニ設ケアル差出人受取人宿所氏名ノ部ヘ其差出人及受取人ノ宿所氏名ヲ書入レ之レヲ大切ニ保存シ置クヘシ

三十一 通常爲替電信爲替ハ其證書ノ日付ヨリ百二十日又小爲替證書ハ六十日以内ニ爲替金ヲ受取ルヘシ

三十二 代人ニテ爲替金ヲ受取ルトキハ爲替證書ノ裏書ニ代人某受取方ヲ委任セ

シ旨ノ文言及ヒ自己ノ氏名ヲ認メ印ヲ押シ其代人ニ自己ノ受取ルトキト同様ノ手續ヲナサシム但委任書ハ別紙ニ認メ差出スモ妨ケナシトス

三十三 爲替金ノ渡シ方ヲ申出テタルトキ左ノ事故アルトキハ爲替金ノ拂渡ヲ停延シ郵便局ヨリ受取人ニ拂渡停延書ヲ渡スヘシ

一 規則ノ通り爲替證書調製ナキカ又ハ振出局ヨリ爲替ノ報知達セサルトキ又ハ受取人ノ答辨振出局ノ報知ニ不符台ノトキ

一 爲替資金殘少ニテ補充金ノ達セサルトキ

三十四 郵便局ノ許可ヲ受クスシテ小爲替證書ニ指定シタル拂渡局又ハ受取人ノ宿所氏名ヲ變ヘ又ハ其宿所氏名ヲ書キ直シタル片ハ爲替金ヲ拂渡ササルヘシ

三十五 小爲替證書ヲ認メタル受取人ノ宿所氏名ヲ變ヘ又ハ之ヲ書キ直ストキハ差出人ヨリ爲替ヲ取扱フ郵便局ニ其事由ヲ申立爲替證書ノ裏面ニ許可ノ證ヲ受ケヘシ

但受領證書ヲ示シ差出人タルコトヲ證明スヘシ
三十六 爲替取扱ノ休日ハ左ノ通り

- 一月一日 二日 三日 新年宴會 孝明天皇祭
- 紀元節 春季皇靈祭 神武天皇祭
- 秋季皇靈祭 神宮神嘗祭 天皇節

新嘗祭

日曜日

郵便貯金條例

第一條 郵便貯金ノ事務ハ逓信大臣之ヲ管理ス

第二條 郵便貯金ハ逓信大臣ノ指定スル郵便電信局郵便局ニ於テ其預入拂渡取扱ヲナスモノトス

逓信大臣ニ於テ必要ト認ム場所ニハ特ニ郵便貯金預所ヲ設置シ郵便貯金ノ預入ヲ取扱ハシムルコトアルヘシ

第三條 郵便貯金ノ預入ハ貯金通帳ヲ以テ證トシ其拂戻ハ拂戻證書ヲ以テ證トス

第四條 郵便貯金一人一度ノ預金ハ拾錢以上トシ端數ハ厘位ニ限ル一人一日ノ預金ハ五拾圓以下トス

郵便貯金一人ノ預金總額ハ元利合セテ五百圓ニ超過スルコトヲ得ス

第五條 郵便貯金預金利子ノ割合ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

郵便貯金ノ利子ハ毎年三月三十一日ヲ期トシ之ヲ計算シ元金ニ加ヘ四月ヨリ更ニ利子ヲ付スヘシ
郵便貯金ニ之ヲ預リタル月及拾錢未滿ノ端數ニハ利子ヲ付セス
郵便貯金拂戻ノ請求アリタルトキハ拂戻證書發付ノ月ヨリ利子ヲ付セス

郵便貯金ノ利子計算上厘位未満ノ端數ヲ生シタルトキハ之ヲ除棄スヘシ
第六條 郵便貯金預ケ人ハ何時ニテモ郵便貯金ノ全額又ハ其幾分ノ拂戻ヲ請求スル
コトヲ得但幾分拂戻ノ場合ニハ未タ元金ニ加ハサル利子ハ拂戻ヲ請求スルコトヲ
得ズ

第七條 郵便貯金預ケ人ハ其貯金ノ幾分ヲ以テ公債證書ノ購入保管ヲ請求スルコト
ヲ得但其公債證書ノ額面金五十圓又ハ五十圓ヲ超加シタルモノニ限ル

郵便貯金預ケ人ハ何時ニテモ前項保管ニ係ル公債證書ノ下渡ヲ請求スルコトヲ得
郵便貯金預ケ金額拂戻ヲ請求スルトキハ保管ニ係ル公債證書モ同時ニ其下渡ヲ請
求スヘシ

第八條 郵便貯金ノ預ケ金額第四條ノ制限ニ超過シタルトキハ其旨ヲ貯金預ケ人ニ
通知シ預ケ金額ヲ制限以内ニ引直サシムヘシ

前項ノ通知ヲ發シタル後六十日以内ニ引直ヲ爲ササルトキハ貯金預ケ人ノ爲メ其
預金ヲ以テ公債證書ヲ購入スルモノトス但此場合ニ於テ購入スル公債證書ハ額面
五十圓ヲ超過スルコトヲ得ズ

第九條 郵便貯金通帳ハ一人一冊ヲ限リトス若シ二冊以上ノ通帳ヲ受領シテ貯金預
入ヲ爲シタルモノアリタルトキハ最初受領セシ通帳ニ記載セル貯金ノ外利子ヲ付
セスシテ拂戻ヲ爲サシム若シ二冊以上通帳ノ日附同一ナルトキハ其貯金最多額ノ

モノニ利子ヲ付シ其他ノモノハ總テ利子ヲ付セスシテ拂戻ヲ爲サシム

第十條 郵便貯金預ケ人ハ最初貯金ノ預入ヲ爲シタル月ヨリ滿一年毎ニ其通帳ヲ遞
信省ニ差出シ前期間利子ノ記入ヲ受クヘシ但一年ノ豫期四月又ハ五月ニ當ルモノ
ハ之ヲ六月ニ差出スヘシ

第十一條 郵便貯金ハ其預ケ入最後ニ貯金預入ヲ爲シタル日又ハ通帳ヲ遞信省ニ差
出シ其書替又ハ利子ノ記入ヲ受クタル日又ハ拂戻ヲ請求シタル日ヨリ起算シ十年
間預入ヲ爲サス又ハ拂戻ヲ請求セス又ハ通帳ヲ遞信省ニ差出ササルトキハ滿期ノ

翌月ヨリ利子ヲ付セス但保管ニ係ル公債證書ノ利子ハ此限ニアラス

尙二十年間貯金ノ預入ヲ爲サス又ハ拂戻ヲ請求セス又ハ通帳ヲ遞信省ニ差出ササ
ルトキハ其貯金ハ政府ノ所得トス

前項貯金ハ政府ノ所得トスル場合ニ於テ保管ニ係ル公債證書アルトキハ其公債證
書モ併テ政府ノ所得トス

若シ第二項ノ期限内ニ貯金ノ預入ヲ爲シ又ハ拂戻ヲ請求シ又ハ通帳ヲ遞信省ニ差
出シタルトキハ其翌月ヨリ利子ヲ付ス

第十二條 郵便貯金ノ拂戻金又ハ下渡ヲ請求シタル公債證書ハ拂戻證書又ハ下渡證
書ノ日付ヨリ一ケ年以内ニ受取ルヘシ若シ此期限内ニ受取ラサルトキハ之ヲ供託
ニ寄託スヘシ

ニ寄託スヘシ

第十三條 郵便貯金預ケ人ハ郵便貯金ヲ家督相續人ニ讓與スル場合ヲ除クノ外其名
 前書換テ請求スルコトヲ得ス
 第十四條 郵便貯金預ケ人ハ損害ヲ蒙ラシメ政府其辨償ノ責ニ任スヘキ場合ニ於テ
 ハ郵便貯金預ケ人ハ其事故ノアリタルコトヲ知リタル日又之ヲ知リ能ハサルトキ
 ハ次期ノ利子記入期限ヨリ一箇年以内ニ其辨償ノ請求ヲ爲スヘシ若シ其期限内ニ
 請求ヲ爲ササルトキハ政府其責ヲ免カルモノトス
 第十五條 郵便貯金事務ニ關スル郵便物ハ郵便稅ヲ免除ス
 第十六條 郵便貯金ノ受取ニ關スル書類ハ證券印稅ヲ免除ス
 第十七條 本條例施行ノ細則ハ逓信大臣之ヲ定ム

附 則

明治十五年十二月第五十九號布告郵便條例第五百十七條乃至第二百五二條及第二百五四
 十二條第二項ハ本條施行ノ日ヨリ廢止ス

●諸印紙貼用規定

證書帳簿ヲ分チ二類ト爲シ其稅率ハ左ノ如シ

第一類

左ニ掲グル所ノ證書帳簿ハ金高ノ有無多寡ニ拘ハラズ下ニ定ムル所ノ印紙ヲ貼用ス

ヘシ俱當座預リ金引出小切手ハ大藏省ニ印稅ノ押捺ヲ請フコトヲ得

一 當座預金引出小切手	印 稅	五厘
一 委任狀	全	五厘
一 金高記載キ約定證文	全	壹錢
一 遺金(物)證文	全	壹錢
一 跡式讓證文	全	壹錢
一 讓與證文	全	壹錢
一 期限決定メテ預リ金證文	全	壹錢
一 耕地小作證文	全	壹錢
一 雇人請合狀	全	壹錢
一 金高記載メテ諸物品預リ證文	全	壹錢
一 金高記載メテ諸物品借用證文	全	壹錢
一 地所家屋預リ證文	全	壹錢
一 借地(借家)證文	全	壹錢
一 諸物品切手	全	壹錢
一 賣買仕切書	全	壹錢
一 保險証文	全	壹錢

- 一 諸會社株券 全 壹錢
 - 一 送金手形 全 壹錢
 - 一 金錢諸物品通帳 (一年以内一冊ニ付) 全 壹錢
 - 一 金錢諸物品列取帳 (一年以内一冊ニ付) 全 壹錢
 - 一 結社約定書 全 壹錢
- 但シ結社約定書ニ金圓授受貸借ニ係ル條項アリテ之カ効力ヲ確定スル證書帳簿ハ金高記載ナト雖モ第二類金高記載アル諸般ノ契約書ニ準シ印紙ヲ貼用スヘシ
- 左ニ掲グル證書ハ金高五圓以上ノモノニ限リ下ニ定ムル所ノ印紙ヲ貼用スヘシ
- 一 營業ニ關スル送狀 印 稅 壹錢
 - 一 營業ニ關スル請取書 印 稅 壹錢
- 右諸證書ハ通帳ト爲ストキハ總テ一年以内一冊ニ付壹錢ノ印紙ヲ貼用スヘシ
- 第二類
- 左ニ掲グル所ノ證書ハ金高ノ多寡ニ隨ヒ下ニ定ムル所ノ割合ヲ以テ印紙ヲ貼用スヘシ但シ爲替手形約束手形ヲ用フヘシ
- 一 金錢借用證文
 - 一 地所家屋賣買證文

- 一 金高記載アル諸物品預リ證文 印 稅 壹錢
- 一 金高記載アル諸物品借用證文 同 貳錢
- 一 諸物品賣買證文 同 四錢
- 一 金錢定期預リ證文 同 八錢
- 一 金高記載アル諸般ノ契約書 同 拾壹錢
- 金高壹圓以上貳拾圓未滿 同 拾四錢
- 金高貳拾圓以上五拾圓未滿 同 貳拾錢
- 金高五拾圓以上百圓未滿 同 拾六錢
- 金高百圓以上百五拾圓未滿 同 參拾貳錢
- 金高百五拾圓以上貳百圓未滿 同 參拾八錢
- 金高貳百圓以上參百圓未滿 同 四拾四錢
- 金高參百圓以上四百圓未滿 同
- 金高四百圓以上六百圓未滿 同
- 金高六百圓以上八百圓未滿 同
- 金高八百圓以上千圓未滿 同
- 金高千圓以上千四百圓未滿 同
- 金高千四百圓以上千七百圓未滿 同

金高千七百圓以上貳千圓未滿	同	五拾錢
金高貳千五百圓以上貳千五百圓未滿	同	六拾錢
金高參千圓以上參千五百圓未滿	同	七拾錢
金高參千五百圓以上四千圓未滿	同	八拾錢
金高四千圓以上	同	九拾錢
右證書ヲ通帳トナス井ハ其附込見積金高ニ隨ヒ下ニ定ムル所ノ印紙ヲ貼用スヘシ	同	壹圓
金高百圓未滿	印稅	四錢
金高百圓以上總テ證書稅率ニ據ルヘシ		
一金錢當座預リ證文		
一質物(預リ書小札)		
金高壹圓以上貳拾圓未滿	印稅	壹錢
金高貳拾圓以上	同	貳錢
右諸證書ヲ通帳ト爲ストキハ其見込見積金ニ隨ヒ下ニ定ムル所ノ印紙ヲ貼用スヘシ		
金高百圓未滿	印稅	貳錢
金高百圓以上	同	四錢

一爲替手形		
一荷爲替手形		
一約束手形		
金高五拾圓未滿	印稅	壹錢
金高五拾圓以上百圓未滿	同	貳錢
金高百圓以上貳百圓未滿	同	四錢
金高貳百圓以上五百圓未滿	同	八錢
金高五百圓以上千圓未滿	同	拾五錢
金高千圓以上貳千圓未滿	同	貳拾五錢
金高貳千圓以上	同	五拾錢

○民事訴訟用印紙貼用規則
 凡ソ民事訴訟ノ書類ニハ此規則ニ從ヒ印紙ヲ貼用スルモノトス
 訴訟ニハ正本一通ニ付請求ノ金額若クハ價格ニ應シ左ノ區別ニ從ヒ其受付ノ時ニ於
 テ印紙ヲ貼用スヘシ

金額	五圓迄	貳拾錢
價格	拾圓迄	參拾錢

全	貳拾圓迄	六拾錢
全	五拾圓迄	壹圓五拾錢
全	七拾五圓迄	貳圓貳拾錢
全	百圓迄	參圓
全	貳百五拾圓迄	六圓五拾錢
全	五百圓迄	拾圓
全	七百五拾圓迄	拾參圓
全	千圓迄	拾五圓
全	貳千五百圓迄	貳拾圓
全	五千圓迄	貳拾五圓
全	五千圓以上千圓毎ニ貳圓ヲ加フ	

控訴ニ於テハ右半額上告ニ於テハ全額ノ印紙ヲ加貼スヘシ
 人事其他金額ニ見積ル可カラサルモノハ三圓ノ印紙ヲ貼用ス可シ其控訴上告ニ於テ
 ハ加貼スルハ前項ニ同シ
 但シ人事ニ於テハ極貧ノ者ニシテ市町村長ノ證明書ヲ所持スル者ハ裁判官ニ於テ
 印紙貼用ヲ免スルコトアルヘシ

◎聯隊區司令部條例並ニ配置 明治廿九年三月廿五日

(勅令第五十六號)

第一條 各聯隊區ニ司令部ヲ置ク其ノ職員左ノ如シ

司令官

佐官

副官

大(中)尉

軍醫

軍吏

書記

司令部以下ハ現役、豫備、後備ノモノヲ以テ充ツルコトヲ得其ノ豫備、後備ノモノハ身分取扱ハ召集中ノ者ニ同シ

第二條 司令官ハ師團長ニ隸シ聯隊區徵兵事務及召集事務ヲ掌ル

第三條 司令官ハ聯隊區内ニ現在スル在郷陸軍人及各補充役ニ在ル者ノ身上異動其ノ他願届ニ關スル事ヲ掌ル

第四條 副官ハ司令部一般ノ事務ニ服ス

第五條 軍醫ハ徵兵志願兵及諸生徒志願者ノ身體檢査ニ從事シ且之ニ關スル事務ヲ管理ス

第六條 軍吏ハ會計一般ノ事ニ服ス

第七條 書記ハ上官ノ指揮ヲ受ケ記注計算ノ事ニ従フ

第八條 各聯隊區司令部位置ハ左ノ如シ

- 第一聯隊區司令部 佐倉
- 第二聯隊區司令部 水戸
- 第三聯隊區司令部 高崎
- 第四聯隊區司令部 長野
- 第五聯隊區司令部 靜岡
- 第六聯隊區司令部 京都
- 第七聯隊區司令部 濱出
- 第八聯隊區司令部 宮崎
- 第九聯隊區司令部 十勝
- 第十聯隊區司令部 山形
- 第十一聯隊區司令部 岐阜
- 第十二聯隊區司令部 岡山
- 第十三聯隊區司令部 高知
- 第十四聯隊區司令部 佐賀
- 第十五聯隊區司令部 大分
- 第十六聯隊區司令部 久留米
- 第十七聯隊區司令部 福知山
- 第十八聯隊區司令部 神戸
- 第十九聯隊區司令部 姫路
- 第二十聯隊區司令部 岡山
- 第二十一聯隊區司令部 松山
- 第二十二聯隊區司令部 高知
- 第二十三聯隊區司令部 佐賀
- 第二十四聯隊區司令部 大分
- 第二十五聯隊區司令部 久留米
- 第二十六聯隊區司令部 福知山
- 第二十七聯隊區司令部 神戸
- 第二十八聯隊區司令部 姫路
- 第二十九聯隊區司令部 岡山
- 第三十聯隊區司令部 松山
- 第三十一聯隊區司令部 高知
- 第三十二聯隊區司令部 佐賀
- 第三十三聯隊區司令部 大分
- 第三十四聯隊區司令部 久留米
- 第三十五聯隊區司令部 福知山
- 第三十六聯隊區司令部 神戸
- 第三十七聯隊區司令部 姫路
- 第三十八聯隊區司令部 岡山
- 第三十九聯隊區司令部 松山
- 第四十聯隊區司令部 高知
- 第四十一聯隊區司令部 佐賀
- 第四十二聯隊區司令部 大分
- 第四十三聯隊區司令部 久留米
- 第四十四聯隊區司令部 福知山
- 第四十五聯隊區司令部 神戸
- 第四十六聯隊區司令部 姫路
- 第四十七聯隊區司令部 岡山
- 第四十八聯隊區司令部 松山
- 第四十九聯隊區司令部 高知
- 第五十聯隊區司令部 佐賀

第九條 濱田、大村、弘前、秋田、大館、久留米各聯隊區司令部ハ當分其ノ區分ニ於ケル從前ノ大隊區司令部所在地ニ置クコトヲ得

第十條 本條例ハ明治二十九年四月一日ヨリ施行ス

第十一條 大隊區司令部條例ハ本條例施行ノ日ヨリ之ヲ廢止ス

●海軍區鎮守府配置ノ地

- 第一海軍區 相模國三浦郡橫須賀鎮守府
- 第二海軍區 安藝國安藝郡吳鎮守府
- 第三海軍區 肥前國東彼杵郡佐世保鎮守府
- 第四海軍區 丹波國加佐郡舞鶴鎮守府(未開港)
- 第五海軍區 膽振國室蘭郡室蘭港(同上)

●内國ノ航海里程

- 從橫濱 至駿河清水 五十海里
- 至伊勢四日市 百九十海里
- 至攝津神戸 三百三十三海里
- 至長門馬關 五百六十六海里
- 至肥前長崎 七百〇七海里
- 至薩摩鹿兒島 五百六十五海里

全 至琉球那霸島 千〇二十五海里
 全 至陸前茨山濱 二百七十海里
 全 至陸奧青森 百六十三海里
 全 至波島函館 五百十八海里
 全 至後志小樽市 八百十海里
 全 至根室根室 八百海里
 全 至越中伏木 八百三十九海里
 全 至越後新瀉 七百三十八海里
 自神戶厚田至備後尾道 百〇八海里
 自長崎厚田至筑前博多 九十六海里
 全 至肥前島原 五十海里
 全 至對馬島 百十海里
 全 至薩摩鹿兒島 百五十二海里
 全 自新瀉守至長門馬關 四百九十三海里
 全 至越前敦賀 二百三十海里
 全 至越中伏木 百二十二海里
 全 至越後酒田 百六十八海里

全 至越後直江津 六十三海里
 自函館至陸奧青森 五十九海里
 全 至羽後酒田 百十九海里
 全 至根室根室 百九十五海里
 ●外國有名諸港ノ航海里程
 全 自橫濱至香港 三千三百五十六海里
 全 至柴棍 二千二百四十九海里
 全 至新嘉坡 二千八百六十三海里
 全 至錫蘭 四千三百七十三海里
 全 至亞丁 六千五百七海里
 全 至蘇生 七千八百十五海里
 全 至伊國不那兒 九千三十二海里
 全 至佛國馬耳塞 九千五百二十海里
 全 至布哇 三千二百四十三海里
 全 至桑港 三千九百十二海里
 全 至巴拿運 紐紐育 八千九百二十四海里

全	至濠州麥普尼	四千二百二十九海里
全	自長崎	四百三十七海里
全	至芝罘	四百九十二海里
全	至天津	六百六十三海里
全	至釜山	百六十二海里
全	至仁川	四百五十八海里
全	至元山津	四百六十海里
全	至備潮斯德	六百五十五海里

(備考) 一海里八十六町九分七厘五毛)

●除官有地特別處分規則ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治二十三年七月二十一日

内務大臣 伯爵西郷從道

勅令第二百二十三號

(官報七月二十七日)

官有地特別處分規則

第一條 内務大臣ハ左ノ場合ニ限リ官有地ヲ競争ニ附セス隨意ノ契約ヲ以テ貸渡又ハ賣渡スコトヲ得

- 一 直接公用ニ供スル爲メ又ハ公共ノ利益ヲナル事業ノ爲メ府縣都市町村及公共組合又ハ其他人起業者ニ官有地ヲ貸渡又ハ賣渡スコトキ
 - 二 不用ニ屬スル官有地一箇所ノ坪數百五十拾萬坪ニ滿タス其評定價格二百圓以内ノモノヲ賣渡又ハ貸渡料一箇年五圓以内ニシテ貸渡期限五箇年以内ノ者ヲ貸渡スコトキ但望人二名以上アルトキハ此限ニアラス
 - 三 鑛山ニ於ケル鑛物運搬道路冷温泉場ニ於ケル汲泉場又ハ導線敷地ノ如キ官許ノ興ヘタル事業ニ直接附隨シ必要缺クヘカラスト認メタル官有地ヲ其事業者ニ貸渡シ又ハ賣渡スコトキ
 - 四 會計法施行以前土地ノ形質ヲ變更シ又ハ建物ヲ建設スルカ爲メ貸渡シタル官有地ヲ其借地人ニ賣渡シ又ハ引繼キ貸渡スコトキ
- 第二條 直接公用ニ供スル官有地ノ特ニ府縣都市町村又ハ公共組合ノ直接公用ニ供スルトキハ借地料ヲ徵收セサルモノトス
- 第三條 府縣都市町村又ハ公共組合ニシテ直接公用ニ供スル官有地ノ修理保存費ヲ負擔スルモノハ其直接公用ヲ廢スルトキ官有財産管理上必要ノモノヲ除ク外之ヲ其費用負擔者ニ無代價下付ス
- 府縣都市町村又ハ公共組合ニ於テ其土地ヲ賣拂ハントスルトキハ隣接地主ハ先買ノ權ヲ有スルモノトス

第四條 北海道官有未開ノ土地並官有森林原野ニハ本令ヲ適用セス

●農商務省訓令第三十四號

府縣 神奈川 靜岡 愛知 山梨

明治二十三年勅令第二十九號官有森林原野及產物特別規則處分第一條第二項ニヨリ隨意契約ヲ以テ原野ヲ賣渡ストキハ左ノ條項ニ準據スヘシ

明治二十三年七月二日

農商務大臣 陸奥宗光

- 第一條 原野賣渡願書ハ地方長官宛ニテ地元町村長ヲ經由シテ所轄官廳ニ差出サシム可シ其願書ニハ賣渡出願ニ係ル原野所在ノ國郡町村字各地目段別素地相當代價ヲ記載シ且事業方法書收支豫算及實測圖ヲ添付セシムルヲ要ス
- 第二條 前條ニヨリ願書ヲ差出シタル者アルトキハ地方長官ハ其願書ニ意見ヲ付シ事業方法書收支豫算書及實測圖ヲ添へ本大臣ノ指揮ヲ受ク可シ其出願ニ係ル原野ノ反別五町歩以下ナル者ハ地方長官ハ願書發送時日ノ前後ヲ取調ヘ意見ヲ付シ本大臣ノ指揮ヲ請ク可シ
- 第三條 原野賣渡願書ニ總テ書留郵便ヲ以テ之ヲ差出サシメ若シ二人已上同地ニ付テ出願シタル者ハ地方長官ハ願書發送時日ノ前後ヲ取調ヘ意見ヲ付シ本大臣ノ指揮ヲ請ク可シ
- 第四條 原野ノ賣渡ハ總テ豫約ノ方法ニヨリ代價ヲ納付シタル後ニアラサレハ其所有權ヲ拂受人ニ移轉セシメサルモストス其代價ハ事業成功ノ後拂受人又ハ其保證

人ヲシテ所轄官廳ニ納付セシム可シ

但事業成功ノ部分ニ對スル所有權ハ拂受人ノ請求ニヨリ其部分ニ相當スル代價ヲ

納付セシメテ止之ニ拂受人ハ移轉セシムルコトヲ得

第五條 賣渡ノ豫約ハ不可キ原野ノ段別ハ四百町歩已内トス但土地ノ區域又ハ事業

ノ方法ニ依リテハ此制限ヲ超過テ許可スルコトアル可シ

第六條 事業ノ成功期限ハ十五年已内ニ於テ之ヲ定メシメ若シ天災其他止ムテ得サ

ル事由ニ依リ中途拂受人ニ於テ豫定ノ事業方法又ハ成功ノ期限ヲ變更ヲ要スルコ

トアルハ地方長官ハ其拂受人ヲシテ更ニ事業方法書及收支豫算書ヲ添へ願書ヲ

差出サシメ本大臣ノ指揮ヲ請フ可シ

第七條 賣渡ノ豫約ナシタル土地ノ使用料等ハ總テ之ヲ徵收セサルモトス

第八條 左ニ記載スル條項ハ拂受人ヲシテ之ヲ遵守セシム可シ

- 一 賣渡豫約ニ係ル土地ハ所轄官廳ノ許可ヲ得ズテ他人ニ貸渡スヲ得サル
- 二 賣渡豫約土地ニ對スル負擔及其地ヨリ生スル損害ニ就テハ拂受人其責ニ任ス可キコト
- 三 拂受人ハ前年ニ於ケル事業ノ功程ヲ翌年一月ニ所轄官廳ニ報告ス可キコト
- 四 拂受人ハ賣渡豫約許可ノ日ヨリ滿六箇月已内ニ豫定ノ方法ニ從ヒ事業ニ着手

天可キコト
 五 拂受人ニ於テ事業ニ着手シ及事業ノ成功シタル下キハ十日以内ニ所轄官廳ニ報告ス可キコト
 六 賣渡豫約土地内ニ在ル木竹其他指定シタル物件ハ拂受又ハ特別ノ契約ヲナスニアラサレハ拂受人ニ於テ之ヲ採取シ若クハ使用ス可カラサル事
 七 地方長官ニ於テ官吏ヲ派遣シ事業ノ進否及方法ヲ検査セシムルトキハ之ヲ拒ムヲ得サルコト
 八 拂受人ハ賣渡豫約許可ノ日ヨリ十日以内ニ標杭ヲ境界ニ建設スヘキコト
 九 事業ハ必ズ豫定ノ方法書ニ依テ之ヲ爲ス可キコト
 第九條 拂受人第八條ノ事項ヲ遵守セス又ハ成功期限ニ致ラサル事業成功上記載スルトキ豫定通り成功セサル部分ニシテ相當ノ代價ヲ納付シタルモノハ之ヲ除キ其他ハ所轄官廳ニ返還セシム可シ
 前項ノ場合ニ於テ返還地ニ係ル勞費ハ官廳ニ於テ之ヲ辨償セス又返還地ニ在ル植物建物等ハ相當ノ期限ヲ定メ之ヲ取拂ハシム可シ
 第十條 前開墾牧畜ノ爲メ原野賣渡豫約ヲナシタルモノニシテ既定ノ契約ナキ事項ハ更ニ此規定ニヨリ取扱フ可シ

●除官有森林原野及産物特別處分規則ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム
 御名 御璽

明治二十三年四月三日 (官報四月五日)
 農商務大臣 岩村通俊
 勅令第六十九號

官有森林原野及産物特別處分規則
 第一條 農商務大臣ハ左ノ場合ニ限リ官有森林原野及其産物ヲ競争ニ付セス隨意ノ契約ヲ以テ貸渡又ハ賣却スルコトヲ得
 一 開墾若クハ牧畜ノ爲メ森林原野ヲ貸渡シ若シクハ賣渡ストキ
 二 官廳又ハ公共ノ用ニ供スル爲メ森林原野ヲ貸渡シ若シクハ賣渡シ及其建築材料ヲ賣渡ストキ
 三 鑛業ノ爲メ森林原野ヲ貸渡シ若クハ建築材料又ハ薪炭材ヲ賣渡ストキ
 四 植樹ノ爲メ森林原野ヲ貸渡ストキ
 五 非常ノ災害ニ罹リタル地方人民ノ爲メ建築材料ヲ賣渡ストキ
 六 從來ノ慣行ニ由リ地元人民ニ木竹薪炭材下草秣小柴若クハ土石ヲ賣渡ストキ
 七 部分木ヲ仕付人ニ賣拂フトキ
 八 社寺建築營繕ノ爲メ該社寺土地ノ木材若クハ土石ヲ賣渡ストキ
 九 地押調査ニ由リ發見シタル開墾地ヲ其開墾人ニ賣渡ストキ

- 十 建物其他ノ用ニ供スヘキ土石ヲ發見シタル場合ニ於テ之ヲ其發見人ニ賣渡ス
- 十一 季節アル生産物ヲ賣拂フトキ
- 十二 開墾牧畜若クハ植樹ノ爲メ貸渡シタル森林原野ノ區域内ニアル産物ヲ其借受人ニ賣拂フトキ
- 十三 林業附帶ノ用ニ供スル爲メ森林原野ヲ貸渡シ若クハ産物ヲ賣渡ストキ
- 十四 部分法方ニ由リ林産物製造ノ爲メ其原料ヲ請負人ニ賣渡ストキ
- 十五 見積リ借地料一箇年金貳百圓ニ超ヘサル森林原野ヲ賣拂フトキ
- 十六 拾町歩以下ニシテ見積金貳百圓ニ超ヘサル森林原野ノ民有地又ハ道路河川ニ存在セサルモノヲ接續地ノ所有者ヘ賣渡ストキ
- 十七 見積代金貳百圓ニ超ヘサル木竹ヲ賣拂フトキ
- 第二條 農商務大臣ハ競争入札ニ付シタル物件ノ豫定價格ニ違ヒス該入札ヲ取消シタル場合ニ於テ爾後三十日以内ニ豫定價格ヨリ低カラサル代金ヲ以テ同一物件ノ拂下ヲ望ム者アルトキハ隨意之ヲ賣拂フトキトテ得

●農商務省訓令第二十三號

府縣 北海道釧路 釧路縣ヲ除ク
地租改正ノ際官有森林原野ニ編入セラレタルモノニシテ民有タルヘキ證左ニヨリ

地所又ハ立木竹ノ引戻シテ請フモノアル時ハ自今總テ其廳ニ於テ調査シ伺ヒ出ツヘシ

明治二十三年四月十五日

農商務大臣 岩村通俊

●消防組點檢規則

- 第一條 點檢ハ組ノ人員、服裝、姿勢、運動、禮式、器具及書類等ノ整否ヲ檢査スルモノトス
- 第二條 點檢ヲ別テ通常點檢及時點檢トシテ通常點檢ハ規定ニ依リ災時點檢ハ鎮災後引揚ノ際之ヲ行フモノトス
- 第三條 號令司ハ消防組全體ニ在テハ組頭各部ニ在テハ部長トス
- 第四條 列ハ二列トス但人員若クハ場所ノ都合ニ因リ一列トナスコトヲ得
- 第五條 嚮導ハ部長又ハ小頭ヲ以テ之ニ充テ列ノ右翼ニ置キ餘員アルトキハ左翼ニモ之ヲ置クヘシ
- 第六條 集合ノ合圖ハ喇叭鑼鈴又ハ呼子笛ヲ以テ行フヘシ
- 第七條 前條ノ合圖アリタルトキハ嚮導ハ列ノ右翼トナルヘキ位置ニ立テ左翼ノ嚮導アルトキ各員整列ノ後其位置ニ就クヘシ
- 第八條 嚮導ニ當ラサル役員ハ列ノ背後ニ參列スヘシ

但場所ノ狀況ニ因リ適宜ノ位置ニ在ルコトヲ得

第九條 列ノ順序ハ身幹ノ長短ニ依リ長キヲ上位トシ豫メ之ヲ定ムヘシ

第十條 號令司ハ列ノ前面中央ニ直立シ發令スヘシ

第十一條 嚮導ハ號令ニ應シ自ラ標準トナリ列員ヲ整頓スヘシ

第十二條 器具ノ點檢ハ豫メ受檢ノ場所ヲ示シ混雜ナカラシムヘシ

但災時ニ在テハ唧筒及ヒ器具ハ各受持員ノ前ニ配列セシムヘシ

第十三條 隊列行進ノ場合ニ於ケル標記及ヒ器具ノ配置ハ左ノ順序ニ依ルヘシ

一 旗 二 提灯 三 纏 四 階子 五 刺叉 六 窩口 七 斧

八 消口札 九 唧筒又ハ龍吐水 十 釣瓶 十一 水桶

防水ニ關シテハ第一乃至第三ニ限ル

通常點檢

第十四條 通常點檢ハ左ノ各項ヲ監査スルモノトス

一 信號打方ノ適否 二 迅速應變ノ準備整理

三 出場及ヒ欠場人員 四 服裝禮式姿勢ノ整否

五 隊列運動ノ整否 六 號令點呼ノ適否

七 器具運用ノ適否 八 器具ノ整否

九 書類帳簿ノ整否

第十五條 署長ハ前條點檢ヲ終リタルトキハ其狀況ヲ警察部ヘ報告スヘシ

災時點檢

第十六條 災時點檢ハ左ノ各項ヲ檢査スルモノトス

一 出場及ヒ欠場人員 二 服裝及ヒ器具ノ破損

三 負傷者ノ有無

消防組點檢細則

第一條 號令ハ高聲簡明ニシテ豫令動令ノ區分ヲ明瞭ニスヘシ

第二條 號令司ハ列前適宜ノ位置ニ直立シ動作ノ號令ヲ發スヘシ

第三條 規則第八條第一項ノ場合ハ列ノ背後中央三步進出シ直立スヘシ

第四條 點檢ノ號令ハ左ノ如シ

第一 氣ヲ着ケ

兩足ノ踵ヲ接シ爪マ先キハ稍八字形ニ開キ體ノ重力ヲ足ノ爪マ先キニ集メ膝

ヲ伸ハシ股間ヲ開ケコトナク腰ト共ニ下腹ヲ後方ニ引キ而シテ胸部ヲ強ク開

張シ肩ヲ平衡ニ兩手ハ諸指ヲ接シテ自然ニ垂下シ首ハ体勢ニ準シテ正面ニ眼

ハ三十歩前ノ平面ニ直注シ殆ント他念ナキ嚴正ノ姿勢ヲ採ル但嚮導ハ左手ニ

旗柄ヲ握リテ之ヲ立ツ

第二 右へ進へ

左手ハ諸指ヲ接シテ垂下シ右手ハ拇指ヲ先キニ諸指ヲ握テ肘ヲ曲ケ甲ヲ上ニ腰骨ト肋骨トノ間ニ着ケ首ヲ右ニ傾ケ平線三番前ノ胸部ニ目ヲ注キ隣者ニ輕觸スルノ距離ヲ取ル但右翼ノ嚮導ハ右手ヲ垂下シ左手ニ旗柄ヲ握リテ之ヲ立テ首ヲ左ニ傾ケ眼ヲ列ノ爪マ先キニ注キ足並不整ノモノアルトキハ何番「前」

第三 直レ

嚮導ニ於テ列ノ整足ヲ認メ正面ニ復シタルヲ合點ニ發スル號令ニシテ列ハ前令ノ体勞ヲ解キ右手ヲ自然ニ垂下同時ニ正面ニ一令ノ姿勢ヲ取ル

第四 番號

右翼嚮導ノ次位ニアルヲ列ノ一番トシ順次首ヲ左ニ傾ケ自己ノ番號ヲ唱ヘ送リ以テ直ニ正面ニ復ス但ニ列タルトキハ前列ノミ發唱シ後列ハ其正后ニ在テ同ク之カ番號ニ當ル

第五 後列開ケ

後列嚮導ハ左足ヨリ速少ニ三歩退却シ首ヲ左ニ向ケ眼ヲ來ルヘキ列ノ足線ニ注ク而シテ該列ハ第二令ノ姿勢ヲ取り其動令ヲ待ツヘシ

進メ

後列員ハ前令ノ姿列ヲ保チ左足ヨリ速歩ニ四歩退却シ更ニ一步ヲ摺リ足ニテ進ミ右翼嚮導ニ準シ直線ヲ取ル規則第八條第一項ノ役員ハ後列ト共ニ退却ニ常ニ三歩ノ同隔ヲ保ツヘシ

第六 直レ

第三令ニ全ク

第七 列後閉メツ

前令ノ儘動令ヲ待ツヘシ

進メ

一齊ニ舊位ニ復スヘシ

第八 禮式

右手ヲテ冠物ヲ取り右足ニ沿ヘ垂下シ体ノ上部ヲ稍前ニ傾クヘシ

第九 「右」「左」向ケ

右足ヲ斜メニ引入レ左足ノ蹠ニ其爪先キヲ接ス

「右」「左」

兩足ノ踵ヲ以テ右ニ向キ直ニ右足ヲ左足ニ引寄せ

第十 前へ

体ノ重力ヲ右足ニ集メ左足ヲ輕クシ前通ノ用意ヲ爲ス

進
右足ヨリ行進ス

第十一 一列作レ
隅立ノ列員ハ奇位列員ノ右側ニ并ヒ行進ス

第十二 二列作レ
舊位ニ復シ行進ス

第十三 止レ
一 整ニ静止ス

第十四 分レ
列ヲ解ケ

第五條 災時點檢ニ在テハ第四條第一乃至第八及第十四令ノミヲ用ユヘシ

●陸軍召集條例 明治廿九年十一月十二日 (勅令第三百六十四號)

第一章 綱領

第一條 本條例ハ戰時若クハ事變ニ際シ陸軍ヲ動員スル爲メ及平時ニ於テ演習、教育、關戩、補閱點呼ヲ行フ爲メ在郷ノ陸軍軍人及兵役義務アル者ノ召集ニ關スル事ヲ規定ス

第二條 各師團及警備隊ノ召集區ハ當該師管及警備隊區トス

召集ハ召集區ニ於テスルヲ例トス但場合ニ依リ召集區外ニ召集スルコトアルヘシ

第三條 在郷軍人及兵役義務者ノ召集ハ召集區所管ノ師團長之ヲ行フ
將官同相當官ノ召集ハ本條例ノ規定ニ依テス陸軍大臣ノ命令ニ基キ師團長直ニ之ヲ行フ

第四條 戒嚴ヲ宣告シ得ル權アル司令官時機切迫シテ命ヲ請フ途ナキトキハ獨斷シテ充員召集令及國民兵召集令ヲ下スコトヲ得此ノ場合ニ於テ該司令官ハ召集ニ關シ師團長ト同一ノ職權ヲ有ス

第五條 在郷軍人及補充兵ヲ召集スルニハ召集令狀ヲ用キ其ノ編入スヘキ部隊並ニ到着地點及其ノ期日ヲ指定スヘシ
後備役屯田兵下士以下ヲ召集スルニハ召集令狀ヲ用キスシテ召集令ヲ本人ニ達スヘシ

國民兵ヲ召集スルニハ召集令傳達書ヲ用キ其ノ集合地點及其ノ期日ヲ指定スヘシ
簡團點呼ヲ爲スニハ點呼令狀ヲ用ヘ點呼場及其ノ到着日時ヲ指定スヘシ

第六條 召集事務ニ關シ師團長ノ爲シタル規定ハ地方長官警視總監憲兵司令官及憲兵隊長之ヲ遵行スヘシ

第七條 師團長ハ定期ニ若クハ臨時ニ聯隊區司令部並ニ地方官廳及公署ニ於ケル召集

集事務ノ整否ヲ検査シ又ハ部下將校ヲシテ之ヲ検査セシムハシ
地方長官警視總監憲兵司令官憲兵隊長ハ其ノ所部召集事務ノ整否ヲ検査シ又ハ部
下官吏ヲシテ之ヲ検査セシムヘシ

第八條 充員召集及國民兵召集旅費支出ノ方法ハ陸軍大臣之ヲ定ム

第九條 此ノ條例中聯隊區司令官同副官ノ職務ハ警備隊區ニ在テハ警備隊司令官同
副官、郡長、職務ハ島廳ヲ置ク島嶼ニ在テハ島司、郡長及町村長ノ職務ハ市ニ在テ
ハ市長(東京市京都市大阪市及市制町村制ヲ施行セサル地方ノ區ニ在テハ區長)町
村長ノ職務ハ町村制ヲ施行セサル地方ニ在テハ戸長及之ニ準スヘキ者之ヲ行フ
後備役屯田兵下士以下ノ召集事務ニ關シ郡長及町村ノ職務ハ屯田兵村監視之ヲ行
フ

第十條 此ノ條例中聯隊區司令部トアルハ警備隊司令部ニ郡トアルハ島廳ヲ置キタ
ル島嶼ヲ置キタル島嶼市(東京市京都市大阪市及市制町村制ヲ施行セサル地方ニ
在テハ區)ニ該當ス

第十一條 嶋嶼ニ於テ此ノ條例中ノ規定ヲ實施スルコト能ハサルトキハ師團長適宜
ノ方法ヲ設クコトヲ得

第二章 充員召集

第一款 總則

第十三條 充員召集トハ動員ニ際シ陸軍ノ全部若クハ一部ヲ充員スル爲メ及動員完
結後缺員ヲ補充スル爲メ其ノ要員ヲ召集スルヲ謂フ

第十三條 充員召集事務ニ關シ職責アル者ハ平時豫メ之ニ關スル行務ヲ計畫準備シ
有事ノ際決シテ遺算無キヲ要ス

第十四條 充員召集發令後ハ召集事務ニ關シ訓示ヲ請フコトヲ許サス
第二款 充員召集準備

第十五條 充員召集ニ關スル諸準備ハ動員年度ノ初日ニ於ケル現在員豫定シテ之ヲ
爲シ此ノ期日以前ニ結了スヘシ

第十六條 師團長ハ諸部團隊ヲ同時ニ或ハ各別ニ充員シ得ヘク準備スヘシ

第十七條 師團長ハ毎年諸部團隊ノ充足要員ヲ定メ將校(佐官同相當官尉官同相當
官及准士官ヲ謂フ以下同シ)人名下士以下ハ人員ヲ以テ各聯隊區ニ配當シ之ヲ聯
隊區司令官ニ達スヘシ

師團長ハ他ノ師管ヨリ召集ニ應ムヘキ者アルトキハ前項ニ依リ該師管ノ聯隊區ニ
配當シ之ヲ本籍所管ノ師團長ニ通知ス本籍所管ノ師團長ハ之ヲ聯隊區司令官ニ達
スヘシ

第十八條 聯隊區司令官前條ノ配當ヲ受クルトキハ之ニ基キ聯隊區ノ充員名簿ヲ作
リ更ニ各郡ノ充員名簿及占集令狀(屯田後備役兵役ニ在テハ各兵村ノ充員名簿)ヲ

作り之ヲ郡長ニ送付スヘシ

警備隊司令官ハ自ラ警備隊ノ充足要員ヲ定メ前項ノ取扱ヲ爲スヘシ

第十九條 郡長充員名簿並ニ召集令狀ヲ受領シタルトキハ召集令狀ニ所要ノ記入ヲ爲シ各町村ノ充員名簿ヲ作り召集令狀ト共ニ町村長ニ送付スヘシ

第二十條 町村長充員名簿並ニ召集令狀ヲ受領シタルトキハ之ヲ保管シ召集ニ當リ速ニ召集令狀ヲ本人ニ交付スルノ準備ヲ爲スヘシ

町村長ハ充員名簿ニ記載シ在ル應召員（將校以下召集ニ應スヘキ者ヲ謂フ以下同シ）ニ其ノ編入セラルヘキ部隊並ニ到着地ニ豫メ通知スヘシ

第二十一條 召集ニ際シ應召員ノ宿泊ニ供スル爲メ軍用旅舎ヲ定メ之ニ看板及標旗若クハ標燈ヲ掲ケシメ又通行ニ支障無カラシムル等召集ヲ容易ナラシムル爲メ地方長官ハ豫メ憲兵隊長（東京府ニ在テハ警視總監憲兵司令官以下同シ）ト協議シ相當ノ措置ヲ爲スヘシ

第三款 充員召集實施

第二十二條 師團長ハ勳員令ニ從ヒ其ノ師團ノ全部或ハ一部ヲ充員スル爲メ充員召集令ヲ部下諸部隊長ニ達シ地方長官並ニ憲兵隊長ニ通知スヘシ

他ノ師管ヨリ召集ニ應スヘキ者アルトキハ其ノ本籍所管ノ師團長ニ通知シ該師團長ハ之ヲ聯隊區司令官ニ達シ地方長官並ニ憲兵隊長ニ通知スヘシ

第二十三條 充員召集令ヲ受ケタル官衙並ニ公署ハ直ニ軍事警報ヲ揭示スルモノトス但師團長ハ陸軍大臣ノ命ニ依リ之ヲ揭示セシメサルコトヲ得

第二十四條 召集令ハ確實迅速ナル方法ヲ以テ通達スヘシ

第二十五條 聯隊區司令官占集合ヲ受ケルトキハ直ニ之ヲ郡長ニ達スヘシ
聯隊區司令官ハ召集期日前ニ其ノ司令部員若干ニ充員名簿戰時名簿（補充兵ニシテ戰時名簿無キ者ニ在テハ補充兵名簿）ヲ携帯セシメ充員交付官トシテ豫定ノ場所ニ到リ召集事務所ヲ開設セシムヘシ

第二十六條 地方長官充員召集令ヲ受ケルトキハ之ヲ郡長其ノ他關係アル官衙ニ達スヘシ

憲兵隊長充員召集令ヲ受ケルトキハ之ヲ其ノ部下ニ達スヘシ

第二十七條 郡長地方長官若クハ聯隊區司令官ヨリ充員召集令ヲ受ケルトキハ其ノ何レヨリ受ケルヲ問ハズ速ニ之ヲ町村長ニ達シ召集事務ヲ服行スヘシ屯田兵村監視充員召集令ヲ受ケルトキハ之ヲ應召員ニ達スヘシ

第二十八條 町村長充員召集令ヲ受ケルトキハ召集令狀ニ所要ノ記入ヲ爲シ直ニ豫定ノ方法ヲ以テ之ヲ應召員又ハ召集通報人ニ交付シ受領證書ヲ受取ルヘシ
召集通報人ヲ設ケサル不在者ニ在テハ其ノ戸主（本人戸主又ハ戸主不在ナレハ其ノ家族中家事ヲ擔當スル者以下同シ）ニ交付スヘシ

町村長ハ第一項第二項ニ依リ召集令狀ヲ交付シタル者ノ人名並ニ事故アリシ之ヲ
 交付シ得サル者ノ人名其ノ事由ヲ記シテ憲兵及警察官吏ニ通知スヘシ
 第二十九條 應召員ニ代リ召集令狀ヲ受領シタル者ハ直ニ其ノ旨ヲ本人ニ通報シ召
 集令狀ヲ速ニ本人ニ交付スルノ處置ヲ爲スヘシ
 第三十條 將校召集令狀ヲ受領スルトキハ旅費ヲ受領シテ速ニ所命ノ地ニ到着シ其
 ノ召集事務所ニ届出ヘシ
 第三十一條 下士以下ノ應召員召集令狀ヲ受領スルトキハ旅費ヲ受領シ其ノ令狀ニ
 定メセラレタル期日ニ所命ノ地ニ到着シ召集事務所ニ届出ヘシ
 第二補充兵(第一補充兵ニシテ教育ヲ受ケサル者亦同シ)ハ郡毎ニ郡ノ吏員之ヲ引
 率シ召集事務所ニ制リ充員交付官ニ交付スヘシ
 第三十二條 憲兵及警察官吏ハ町村長ヨリ第二十八條第三項ノ通知ヲ受クルトキハ
 其ノ應召員ヲシテ所命ノ期日ニ應召セシムルノ處置ヲ爲スヘシ
 第三十三條 召集令狀ヲ受領スルモ傷疾疾病ノ爲メ應召スルコト能ハサル者ハ醫師
 ノ診斷證書ヲ添ヘ本人ヨリ聯隊區司令官ニ宛テタル届書ヲ召集令狀受領後二十四
 時以內ニ町村長ニ差出スヘシ
 旅行、犯罪、失踪等ノ爲メ應召スルコト能ハサル者アルトキハ召集令狀ヲ受領シタ
 ル者ヨリ召集令狀受領後二十四時間以內ニ聯隊區司令官ニ宛テタル届書ヲ町村長

ニ差出スヘシ但犯罪失踪等ニ係ルトキハ憲兵若クハ警察官吏ノ證明書ヲ添フヘシ
 町村長第二項第二項ノ届書ヲ受領スルトキハ調査ノ上毎日之ヲ取纏メテ郡長ニ差
 出スヘシ郡長ハ毎日之ヲ取纏メテ聯隊區司令官ニ差出スヘシ
 第三十四條 前條第一項第二項ノ場合ニ於テ應召スルコト能ハサル者其ノ事故止ミ
 タルトキハ直ニ町村長ニ届出テ其ノ指揮ヲ受クヘシ
 前項ノ場合ニ於テ町村長ハ其ノ充員完結前ニ在テハ召集令狀ノ裏面ニ其ノ事由及
 出發日時ヲ記シ本人ヲシテ旅費ヲ受領シ出發セシメ其ノ充員完結後ニ在テハ其ノ
 出發ヲ差止メ置クヘシ
 町村長ハ前項ノ者アルトキハ毎日之ヲ取纏メテ郡長ニ報告シ郡長ハ毎日之ヲ取纏
 メテ聯隊區司令官ニ報告スヘシ
 第三十五條 應召員途中ニ於テ已ムテ得サル事故ノ爲メ到着ヲ遲延スル場合ニ在テ
 其ノ事故傷疾疾病ナルトキハ醫師ノ診斷證書ヲ其ノ他ハ郡長、町村長、憲兵、警察
 官吏、船長若クハ驛長ニ就キ證明書ヲ受領シ到着ノ召集事務所ニ差出スヘシ
 第三十六條 應召員非常ノ情況ニ際シ交通斷絶シ所命ノ地ニ到着スルコト能ハサル
 場合ニ在テハ其ノ旨ヲ最寄諸部隊(諸部隊無キ地ニ在テハ郡長町村長憲兵警
 察官吏)ニ届出ヘシ
 前項ノ届出ヲ受ケタル者ハ適宜ノ處置ヲ爲シ事情之ヲ許スニ至レハ其ノ事由ヲ證

明シ本人ヲ所命ノ地ニ到着セシムヘシ

第三十七條 應召員中過員若クハ事故ニ依リ歸郷ヲ命セラレタル者ハ陸軍服役條例第八條第二十九條第八條第十九條第百三十七條ノ例ニ依リ届山ヘシ補充兵ニ在テハ同條例第百三十七條ノ例ニ依リ届出ヘシ

第三十八條 正當ノ事由無クシテ第二十九條ノ規定ニ背ク者ハ一日以上十日以下ノ拘留ニ處ス

正當ノ事由無クシテ第三十三條第一項第二項第三十四條第一項第三十六條第一項ノ規定ニ背ク者ハ五十錢以上一圓九十五錢以下ノ科料ニ處シ又ハ五日以上十日以下ノ拘留ニ處ス

第三十七條ノ届出ヲ怠ル者ハ五錢以上一圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス

第三十九條 充員完結スルトキハ諸部團隊長ハ之ヲ師團長ニ報告シ師團長ハ之ヲ地方官並ニ憲兵隊長ニ通知シ地方官ハ之ヲ郡長其ノ他關係アル官衙ニ憲兵隊長ハ之ヲ其ノ部下ニ達スヘシ

他ノ師管ヨリ召集ニ應シタル者アルトキハ師團長ハ尙ホ其ノ本籍所管ノ師團長ニ通知シ該師團長地方官並ニ憲兵隊長ハ前項ノ通達ヲ爲スヘシ

郡長第一項第二項ノ達ヲ受クルトキハ之ヲ町村長ニ達スヘシ

第四十條 動員完結後缺員ヲ補充スル爲メノ充員召集ハ必要ニ應シ師團長直ニ之ヲ

行フ此ノ場合ニ於テハ第二十二條乃至第三十九條ノ例ニ依ル

第四章 充員召集準備ノ復舊

第四十一條 復員令下ルトキハ師團長ハ諸部團隊長ニ達シ地方官並ニ憲兵隊長ニ通知シ地方官ハ之ヲ郡長其ノ他關係アル官衙ニ憲兵隊長ハ之ヲ其ノ部下ニ達スヘシ

他ノ師管ヨリ召集ニ應シタル者アルトキハ師團長ハ尙ホ其ノ本籍所管ノ師團長ニ通知シ該師團長地方官並ニ憲兵隊長ハ前項ノ通達ヲ爲スヘシ

郡長第一項第二項ノ達ヲ受クルトキハ之ヲ町村長ニ達スヘシ

第四十二條 師團長復員後初メテ速ニ充員召集準備ヲ復舊スルモノトス

第四十三條 復員コ方リ歸郷ヲ命セラレタル者ハ第三十七條ヲ適用ス其ノ規定ニ背ク者ハ第三十八條第二項ヲ適用ス

第三章 國民兵召集

第一款 總則

第四十四條 國民兵召集ニ關シテハ本章規定スルモノヲ除クノ外第十三條第十四條

第十五條第十六條第二十一條第二十二條第二十三條第二十四條第二十六條第二十

七條第二項第三十九條第四十一條第四十二條ノ規定ニ準據スヘシ

第四十五條 國民兵召集ヲ分テ第一國民兵召集第二國民兵召集ノ二種トス

第四十六條 第一第二國民兵ハ所要ニ應シ年齢若キ者ヨリ之ヲ召集スルヲ例トス但幹部ニ充ツヘキ者ハ年齢ニ關セス之ヲ召集スルコトヲ得

第四十七條 第二國民兵中十七歳以上二十一歳未満ノ者ハ特別ノ命令アルニ非レハ之ヲ召集スルコトナシ

第二款 國民兵召集準備

第四十八條 町村長ハ毎年一回其ノ管内ニ在籍スル第一第二國民兵ノ人員表各二通ヲ製シ各一通ヲ郡長ニ差出シ他ハ之ヲ保管スヘシ

第四十九條 郡長前條ノ人員表ヲ受領シタルトキハ其ノ管内ノ第一第二國民兵人員表ヲ各別ニ調製シ之ヲ聯隊司令官ニ送付スヘシ

第五十條 聯隊區司令官前條ノ人員表ヲ受領シタルトキハ其ノ管内ノ第一第二國民兵人員表ヲ各別ニ調製シ之ヲ師團長ニ差出スヘシ

第五十一條 師團長ハ聯隊區司令官ニ召集スヘキ人員編成地編成地到着期日及集合場ヲ達スヘシ但召集人員ヲ定ムルニハ召集總員ヲ率トシ各聯隊區ニ於テ召集スヘキ年齢ニ相當スル者ノ人員ニ比例シ之ヲ各聯隊區ニ配當スルモノトス

第五十二條 聯隊區司令官前條ノ達ヲ受クルトキハ召集スヘキ人員及集合場到着期日ヲ定メ集合場ト共ニ之ヲ郡長ニ達スヘシ但聯隊區司令官其ノ人員ヲ定ムルニハ召集總員ヲ率トシ各郡ニ於テ召集スヘキ年齢ニ相當スル者ノ人員ニ比例シ之ヲ各

郡ニ配當スルモノトス

第五十三條 郡長前條ノ達ヲ受クルトキハ之ヲ町村長ニ達スヘシ但召集スヘキ人員ハ召集總員ヲ率トシ各町村ニ於テ召集スヘキ年齢ニ相當スル者ノ人員ニ比例シ之ヲ各町村ニ配當スルモノトス

第五十四條 町村長前條ノ達ヲ受クルトキハ國民兵豫定應召人名簿並ニ國民兵召集令傳達書ヲ調製シ召集準備ヲ爲スヘシ

第三款 國民兵召集實施

第五十五條 師團長ハ國民軍召集ノ命下ルトキハ其ノ趣旨ニ從ヒ國民兵召集令ヲ發スヘシ

時機ニ依リ師團長ハ一部ノ地方ヲ限リ國民兵召集ヲ施行スルコトヲ得

第五十六條 聯隊區司令官國民兵召集令ヲ受クルトキハ直ニ之ヲ郡長ニ達スヘシ

聯隊區司令官若クハ副官ハ應召員集合期日前ニ司令部員若干ヲ率キ其ノ集合場ニ出張スヘシ

第五十七條 郡長地方長官若クハ聯隊區司令官ヨリ國民兵召集令ヲ受クルトキハ直ニ之ヲ町村長ニ達スヘシ

郡長ハ應召員受領ノ爲メ集合期日前ニ吏員若干ヲ集合場ニ派遣スヘシ

第五十八條 町村長前條ノ達ヲ受クルトキハ豫定應召人名簿ニ記載シ在ル者ニ國民

兵召集傳達書ヲ交付シ受領書ヲ受取ルヘシ
旅行犯罪失踪等ノ爲メ不在ノ者ニ於テハ其ノ戸主ニ交付スヘシ
町村長ハ第一項第二項ニ依リ召集令傳達書ヲ交付シタル者ノ人名並ニ事故ニ依リ
交付シ得サル者ノ人名(其ノ事由ヲ記シテ)憲兵及警察官吏ニ通知スヘシ
憲兵及警察官吏前項ノ通知ヲ受タルトキハ其ノ應召員ヲシテ所命ノ期日ニ應召セ
シムルノ處置ヲ爲スヘシ

第五十九條 應召員國民兵召集令傳達書ヲ受領シタルトキハ集合場迄ノ旅費ヲ受領
シ該傳令書ヲ携ヘ町村長ノ引率ヲ受ケ集合場ニ到着スヘシ
町村長ハ集合期日ニ應召員ヲ引率シテ集合場ニ到リ豫定應召人名簿ト共ニ之ヲ郡
ノ吏員ニ交付スヘシ

第六十條 應召員ニ代リ召集令傳達書ヲ受領シタル者ハ直ニ其ノ旨ヲ本人ニ通報シ
召集令傳達書ヲ速ニ本人ニ交付スルノ處置ヲ爲スヘシ
正當ノ事由無クシテ前項ノ規定ニ背ク者ハ一日以上十日以下ノ拘留ニ處ス

第六十一條 聯隊區司令官若クハ副官ハ集合場ニ於テ郡ノ吏員ヨリ應召員並ニ豫定
應召人名簿ヲ受領スルトキハ應召員ノ身體檢査ヲ行ヒ其ノ不合格者クハ過員ノ者
ニハ旅費ヲ給シテ歸郷セシメ其ノ他ハ之ヲ引率シテ編成地ニ到リ豫定應召人名簿
ト共ニ師團長ノ指定スル部隊長ニ交付スヘシ

第六十二條 國民兵召集令傳達書ヲ受領スルモ傷疾疾病ノ爲メ應召スルコト能ハサ
ル者ハ醫師ノ診斷證書ヲ添ヘ召集令傳達書受領後二十四時間以内ニ町村長ニ届出
ヘシ
旅行犯罪失踪等ノ爲メ應召スルコト能ハサル者アルトキハ召集令傳達書ヲ受領シ
タル者ヨリ召集令傳達書受領後二十四時間以内ニ町村長ニ届出ヘシ
第一項第二項ノ届出ヲ怠ル者ハ五十錢以上一圓九十五錢以下ノ科料ニ處シ又ハ五
日以上十日以下ノ拘留ニ處ス

第四章 演習召集
第一款 總則
第六十三條 演習召集トハ豫備役後備役將校下士兵卒及第一補充兵ノ勤務演習召集
並ニ歸休兵ノ演習召集ヲ謂フ

第六十四條 師團長ハ在郷軍人及第一補充兵ヲ演習ノ爲メ各部隊ニ召集ス但寄留地
ニ於テ演習應召ヲ許可シタル者ハ其ノ寄留地ノ師團長之ヲ召集ス

第六十五條 第六十三條演習召集ノ外特別ノ命令ヲ以テ充員召集ノ演習ヲ目的トス
ル演習召集ヲ行フコトアリ

第六十六條 本籍所在ノ師管ニ於テ勤務演習ヲ爲スヘキ部隊無キ者ハ他ノ師管ノ部
隊ニ於テ勤務演習ヲ爲サシム

第四百三十七

第六十七條 一年志願兵終末試験及第證書ヲ所持スル者ノ勤務演習召集ニ關シテハ陸軍補充條例ニ依ルノ外尙ホ本章ノ規定ニ依ル士官適任證書ヲ所持スル者ノ勤務演習召集亦同シ

第六十八條 後備役屯田兵下士以下ノ演習召集ニ關スル規定ハ第七師團長之ヲ定ム
第二款 演習召集準備

第六十九條 演習ニ召集スヘキ者ハ將校ハ人名下士兵卒及第一補充兵ハ豫定人員ヲ以テ師團長ヨリ關係ノ諸部團隊長ニ達スヘシ

第七十條 聯隊區司令官前條ノ達ヲ受クルトキハ下士兵卒及第一補充兵ノ人名ヲ定メ寄留地應召者ヲ加ヘ各部毎ニ召集スヘキ將校下士兵卒及第一補充兵ノ演習召集名簿並ニ演習召集令狀ヲ作り其ノ令狀ハ自ラ之ヲ保管シ名簿ハ之ヲ郡長ニ付スヘシ

第七十一條 郡長前條ノ名簿ヲ受領スルトキハ旅費金額ヲ計算シ之ヲ記入シ更ニ各町村ノ演習召集名簿ヲ作り之ヲ町村長ニ送付スヘシ

第七十二條 町村長前條ノ名簿ヲ受領スルトキハ其ノ年勤務演習ニ召集セラルヘキ者ニ其ノ旨ヲ通知スヘシ

第三款 演習召集實施

第七十三條 演習召集ヲ行フニハ師團長召集スヘキ在郷軍人及第一補充兵ノ種類召

集期日及召集日數ヲ諸部團隊長ニ達シ地方長官並ニ憲兵隊長ニ通知スヘシ
第七十四條 地方長官前條ノ通知ヲ受クルトキハ之ヲ郡長其ノ他關係アル官衙ニ達スヘシ

憲兵隊長前條ノ通知ヲ受クルトキハ其ノ部下ニ達スヘシ

第七十五條 聯隊區司令官第七十三條ノ達ヲ受クルトキハ演習召集令狀ニ所要ノ記入ヲ爲シ之ヲ郡長ニ送付シ召集スヘキ將校下士兵卒及第一補充兵ノ連名簿ヲ其ノ召集部隊長ニ送付スヘシ

第七十六條 郡長第七十四條第一項ノ達ヲ受クルトキハ之ヲ町村長ニ達スヘシ
郡長前條ノ演習召集令狀ヲ受領スルトキハ之ニ所要ノ記入ヲ爲シ町村長ニ送付スヘシ

第七十七條 町村長前條ノ演習召集令狀ヲ受領スルトキハ之ヲ本人又ハ召集通報人ニ交付スヘシ

第七十八條 應召員演習召集令狀ヲ受領シタルトキハ旅費ヲ受領シテ令狀ニ示ス期日ニ其ノ召集部隊ニ到着スヘシ

第七十九條 傷疾疾病其ノ他ノ事故ニ依リ演習召集ニ應スルコト能ハサル者ハ町村長ノ與書證印ヲ受ケケル届書ヲ入隊期日迄ニ郡長ヲ經テ聯隊區司令官ニ差出スヘシ但傷疾疾病ノ者ハ醫師ノ診斷書ヲ添フヘシ

前項ノ届出ヲ怠ル者ハ五十錢以上一圓九十五錢以下ノ科料ニ處シ又ハ五日以上十日以下ノ拘留ニ處ス

第八十條 演習召集ニ際シ父母ノ疾病危篤又ハ死亡ノ爲メ召集ノ延期ヲ願フ者アルトキハ將校ニ在テハ師團長下士兵卒及補充兵ニ在テハ聯隊區司令官ニ於テ十四日以内ノ延期ヲ許スヘシ

將校ニ在テハ其ノ願書ヲ聯隊區司令官ヲ經テ師團長ニ差出スヘシ

下士兵卒及補充兵ニ在テハ其ノ願書ニ町村長ノ與書證印ヲ受ケ其ノ父母疾病危篤ノ者ハ醫師ノ診斷證書ヲ添ヘ郡長ヲ經テ聯隊區司令官ニ差出スヘシ

第八十一條 第七十九條第一項第八十條第一項ニ依リ應召スルコト能ハサル者其ノ事故止ミ召集期日ノ翌日ヨリ計算シ十日以内ニ到著シ得ル者ハ其ノ召集部隊ニ到着スヘシ但演習ノ種類ニ依リ師團長必要ト認ムル片ハ此ノ日限ヲ變更スルコト得前項ノ場合ニ於テ將校ニ在テハ聯隊區司令官ヲ經テ師團長ニ下士兵卒補充兵ニ在テハ町村長及郡長ヲ經テ聯隊區司令官ニ届出ヘシ

第一項ノ規定ニ背ク者ハ五十錢以上一圓九十五錢以下ノ科料ニ處シ又ハ五日以上十日以下ノ拘留ニ處ス

第八十二條 第二十八條第二項第三項第三十二條第三十五條ハ本款ニ之ヲ適用ス

第二十九條ハ本款ニ之ヲ適用ス其ノ規定ニ背ク者ニハ第三十八條第一項ヲ適用ス

第八十三條 演習ヲ終リ又ハ召集中事故ニ依リ歸郷ヲ命セラレタル者ニハ第三十七條ヲ適用ス其規定ニ背ク者ニハ第三十八條第三項ヲ適用ス

第五章 教育召集

第一款 總則

第八十四條 教育召集トハ教育ノ爲メ第一補充兵ヲ召集スルヲ謂フ

第八十五條 教育召集ハ第一補充兵服役ノ初年ニ於テ行フヲ例トス

第二款 教育召集準備

第八十六條 聯隊區司令官ハ毎年二月一日ニ於ケル第一補充兵ノ現在員ヲ調査シ之ヲ各兵種ニ分チ師團長ニ達スヘシ

聯隊區司令官ハ各郡ノ教育召集名簿ヲ作り之ヲ郡長ニ送付スヘシ

第八十七條 郡長前條ノ名簿ヲ受領スルトキハ旅費金額ヲ計算シテ之ニ記入シ更ニ各町村ノ教育召集名簿ヲ作り之ヲ町村長ニ送付スヘシ

第三款 教育召集實施

第八十八條 教育召集ヲ行フニハ應召員ヲ先ツ聯隊區司令部所在地若クハ便宜ノ地ニ集合シ聯隊區司令部員若クハ其ノ他ノ下士兵卒ヲシテ召集地ニ引率セシムルモトス但應召員五人未滿ナルトキハ單行セシム

第八十九條 教育召集ヲ行フトキハ師團長其ノ兵種召集期日及召集日數ヲ聯隊區司

令官ニ達シ地方長官並ニ憲兵隊長ニ通知スヘシ
第九十條 地方長官前條ノ通知ヲ受クルトキハ郡長其ノ他ノ關係アル官衙ニ達シ管
内ニ告示スベシ

憲兵隊長前條ノ通知ヲ受クルトキハ之ヲ其ノ部下ニ達スヘシ
郡長第一項ノ達ヲ受クルトキハ之ヲ町村長ニ達スヘシ

第九十一條 聯隊區司令第八十九條ノ達ヲ受クルトキハ教育召集令狀ヲ作り郡長ニ
送付シ郡長ハ之ヲ町村長ニ送付シ町村長ハ之ヲ本人又ハ召集通報人ニ交付スヘシ

第九十二條 應召員教育召集令狀ヲ受領シタルトキハ旅費ヲ令狀ニ示ス期日ニ其ノ
集合地又ハ部隊ニ到着シ第八十八條ノ引率員又ハ該部隊ニ届出ヘシ

第九十三條 第九十八條第二項第三項第三十二條第三十五條第七十九條第八十條第
八十一條ハ本款ニ之ヲ適用ス

第九十四條 教育ヲ終リ歸郷ヲ命ゼラレタル者ハ陸軍服役條例第三百七條ノ例ニ
依リ届出ヘシ

前項ノ届出ヲ怠ル者ハ五錢以上一圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス
第六章 補缺召集

第九十五條 補缺召集トハ平時ニ於テ臨時兵員ノ補缺ヲ要スルトキハ歸休兵ヲ召集

スルヲ謂フ

第九十六條 補缺召集ハ陸軍大臣ノ命令ニ依リ師團長之ヲ行フ其ノ手續ハ第四章ヲ
準用ス

第七章 簡閱點呼

第九十七條 簡閱點呼トハ在郷下士兵卒及第一補充兵ヲ集合シテ之ヲ簡閱シ平常ニ
於ケル異動取扱ノ確實ヲ保シ且必要ナル訓示ヲ下スヲ謂フ

第九十八條 簡閱點呼ノ準備ハ聯隊區司令官之ヲ爲スヘシ

第九十九條 簡閱點呼ノ時期ハ師團長之ヲ定メ聯隊區司令官ニ達シ地方長官並ニ憲
兵隊長ニ通知スヘシ

第一百條 師團長ハ部下ノ尉官數名ニ簡閱點呼執行官ヲ命ジ之ニ必要ノ訓令ヲ授クヘ
シ

在郷下士兵卒及第一補充兵人員僅少ナル僻陬ノ地ニ在テハ師團長ハ其ノ地ノ憲兵
將校又ハ同下士ヲシテ簡閱點呼ヲ爲サシメ若クハ之ヲ省察スルコトヲ得

第一百一條 聯隊區司令官ハ其ノ管内ニ若干ノ點呼場及之ニ屬スル點呼區域並ニ點呼
日割ヲ定メ之ヲ師團長ニ差出シ同時ニ地方長官、憲兵隊長並ニ簡閱點呼執行官ニ

通知ノ郡長ニ達スルシ

地方長官及郡長前項ノ通知ヲ受クルトキハ地方長官ハ之ヲ警察署長ニ郡長ハ之ヲ町村長ニ達スルシ

憲兵隊長第一項ノ通知ヲ受クルトキハ之ヲ其ノ部下ニ達スルシ

第二百二條 聯隊區司令官ハ各點呼場へ參會スルヘキ下士兵卒及第一補充兵ノ點呼名簿及點呼令狀ヲ作り其令狀ハ之ヲ郡長ニ送付スルシ

第二百三條 郡長點呼令狀ヲ受領スルトキハ直ニ之ヲ町村長ニ送付シ町村長ハ之ヲ本人又ハ召集通報人ニ交付スルシ

召集通報人ヲ設ケサル不在者ニ在テハ戸主ニ交付スルシ

町村長ハ事故ニ依リ點呼令狀ヲ交付シ得サル者ノ人名(其ノ事由ヲ記シ)ヲ憲兵及警察官吏ニ通知スルシ

第二百四條 簡閱點呼參會者ニ代リ點呼令狀ヲ受領シタル者ハ直ニ其旨ヲ本人ニ通報シ點呼令狀ヲ速ニ本人ニ交付スルノ處置ヲ爲スルシ

第二百五條 點呼令狀ヲ受領シタル下士兵卒及第一補充兵ハ點呼令狀ヲ携へ指定ノ日時ニ點呼場ニ到リ簡閱點呼執行官ニ届出スルシ

第二百六條 簡閱點呼參會者ニハ旅費日當ヲ官給セス

第二百七條 憲兵及警察官吏町村長ヨリ第二百三條第二項ノ通知ヲ受クルトキハ簡閱點

呼參會者ヲテ所命ノ日時ニ參會セシムルノ處置ヲ爲スルシ

第二百八條 郡長並ニ町村長ハ簡閱點呼ニ參列スルシ

第二百九條 傷病疾病具ノ他ノ事故ニ依リ簡閱點呼ニ參會スルコト能ハサル者ハ町村長ノ奥書證明ヲ受ケタル届書ヲ郡長ヲ經テ點呼執行日時ニ簡閱點呼執行官ニ差出スルシ但傷病疾病ノ者ハ醫師ノ診斷證書ヲ添フヘシ

第二百十條 簡閱點呼參會者集合スルトキハ簡閱點呼執行官ハ點呼名簿ノ順序ニ從テ點呼シ所要ノ調査ヲ爲シ之ニ必要ノ訓示ヲ與ヘ解散ヲ命スルシ

第二百十一條 正當ノ事由無クシテ簡閱點呼ニ參會セサル者及第二百九條ノ規定ニ背ク者ヲ五十錢以上一圓九拾五錢以下ノ科料ニ處ス又ハ五日以上十日以下ノ拘留ニ處ス

正當ノ事由無クシテ第二百四條ノ規定ニ背ク者及簡閱點呼參會者點呼場ニ於テ簡閱點呼執行官ノ命ニ服セス又ハ其ノ職務ノ執行ヲ妨害スル者ハ一日以上十日以下ノ拘留ニ處ス

第二百十二條 簡閱點呼執行官簡閱點呼ヲ終ルトキハ簡閱點呼結果表及報告書各二通ヲ作り其ノ一通ハ師團長ニ差出シ他ノ一通ハ聯隊區司令官ニ送付スルシ

附則

第二百十三條 後備役屯田兵下士以下及其ノ兵村ニ關スル事項ハ隊伍ニ編入セサル豫

備役屯田兵下士以下及其ノ兵村ニ適用ス
第百十四條 本條例ノ施行細則ハ陸軍大臣之ヲ定ム
第百十五條 本條例ハ明治三十年四月一日ヨリ實施ス

◎貨幣法

明治三十年三月二十六日

(法律第十六號)

第一條 貨幣ノ製造及發行ノ權ハ政府ニ屬ス

第二條 純金ノ量目二分ヲ以テ單位ト爲シ之ヲ圓ト稱ス

第三條 貨幣ノ種類ハ左ノ九種トス

金貨幣

二十圓

十圓

五圓

銀貨幣

五十錢

二十錢

十錢

白銅貨

五錢

青銅貨幣

一錢

五厘

第四條 貨幣ノ算則ハ總テ十進一位ノ法ヲ用キ一圓以下ハ一圓ノ百分ノ一ヲ錢ト稱シ錢ノ十分ノ一ヲ厘ト稱ス

第五條 貨幣ノ品位ハ左ノ如シ

一 金貨幣

純金九百分參和銅百分

二 銀貨幣

純銀八百分參和銅二百分

三 白銅貨幣

「ニッケル」三百五十分參和銅七百五十分

四 青銅貨幣

銅九百五十分錫四十分亞鉛十分

第六條 貨幣ノ量目ハ左ノ如シ

一 二十圓金貨幣 四匁四分四厘四毛(十六)グラム(六六六五)

二 十圓金貨幣 二匁二分二厘二毛一(一八)グラム(三三三三)

三 五圓金貨幣 一匁一分一厘一毛(四)グラム(一六六六)

四 五十錢銀貨幣 三匁五分九厘四毛二(十三)グラム(四七八三)

五 二十錢銀貨幣 一匁四分三厘七毛七(五)グラム(三九一四)

- 六十錢銀貨幣 七分一厘八毛八(二)グラム「六九五五」
 - 七 白銅貨幣 一匁二分四厘四毛二(四)グラム「六六五四」
 - 八 一錢青銅貨幣 一匁九分零厘毛八(七)グラム「二二八〇」
 - 九 五厘青銅貨幣 九分五厘零毛四(三)グラム「五六四〇」
- 第七條 金貨幣ハ其ノ額ニ制限ナク法貨トシテ通用ス銀貨幣ハ十圓マテ白銅貨幣及青銅貨幣ハ一圓マテニ限リ法貨トシテ適用ス
- 第八條 貨幣ノ形式ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム
- 第九條 金銀貨幣純分ノ公差ハ金貨幣ハ一千分ノ一銀貨幣ハ一千分ノ三トス
- 第十條 金銀貨幣量目ノ公差ハ左ノ如シ
- 一 金貨幣二十圓ハ每片八毛六四(〇)グラム「〇三三四〇」一千枚毎ニ八分三厘(三)グラム「二二二五〇」十圓ハ每片六毛零五(〇)グラム「〇二二六九」一千枚毎ニ六分二厘(二)グラム「二二二五〇〇」五圓ハ每片四毛三二(〇)グラム「〇一六二〇」二千枚毎ニ四分二厘(一)グラム「五三七五〇」トス
 - 二 銀貨幣ハ各種共每片二厘五毛九二(〇)グラム「〇九七二〇」五十錢銀貨幣ハ一千枚毎ニ一匁二分四厘(四)グラム「六五〇〇〇」二十錢銀貨幣ハ一千枚毎ニ八分三厘(三)グラム「二二二五〇」十錢銀貨幣ハ一千枚毎ニ四分一厘(二)グラム「五三七五〇」トス

- 第十一條 金貨幣ノ通用最輕量目ハ二十圓金貨幣四匁四分二厘(十六)グラム「五七〇」十圓金貨幣二匁二分一厘(八)グラム「二八七五」五圓金貨幣一匁一分零厘五毛(四)グラム「二四三二八」トス
- 第十二條 金貨幣ニシテ磨損ノ爲通用最輕量目ヲ下ルモノ及銀貨幣及白銅貨幣又ハ青銅貨幣ニシテ著シク磨損シタルモノ其ノ他流通不便ノ貨幣ハ其ノ額面價格ヲ以テ無手数料ニテ政府ニ於テ之ヲ引換フヘシ
- 第十三條 貨幣ニシテ模様ノ認識シ難キモノ又ハ私ニ極印ヲ爲シ其ノ他故意ニ毀傷セリト認ムルモノハ貨幣タルノ效用ナキモノトス
- 第十四條 金地金ヲ輸納シ金貨幣ノ製造ヲ請フ者アル片ハ政府ハ其請求ニ應スヘシ
- 第十五條 從來發行ノ金貨幣ハ此ノ法律ニ依リ發行スル金貨幣ノ倍位ニ適用スヘシ
- 第十六條 從來發行ノ一圓銀貨幣ハ金貨幣一圓ノ割合ヲ以テ政府ノ都合ニヨリ漸次ニ之ヲ引換フヘシ
- 前項引換ノ終了マテハ金貨幣一圓ノ割合ヲ以テ無制限ニ法貨トシテ其ノ通用ヲ許シ通用禁止ノ場合ニ於テハ六箇月以前ニ勅令ヲ以テ之ヲ公布スヘシ
- 通用禁止ノ翌日ヨリ起算シ滿五箇年内ニ引換ヲ請求セサルトキハ爾後地金トシテ取扱フヘシ

第十七條 從來發行ノ五錢銀貨幣ハ及銅貨幣ハ以前ノ通り通用スヘシ

第十八條 此ノ法律發布以後ハ一圓銀貨幣ノ製造ヲ廢ス但シ右期日以前ニ政府ニ輸

納シタル銀地金ハ此ノ限ニ在ラス

第十九條 此法律ニ抵觸スル從前ノ法令ハ總テ之ヲ廢止ス

第二十條 此ノ法律ハ第十八條ヲ除ク外明治三十年十月一日ヨリ施行ス

◎國稅ノ收法

明治三十年三月二十六日

(法律第二十一號)

第一章 總則

第一條 國稅ノ徵收ハ關稅其ノ他別ニ法律ヲ以テ定ムルモノノ外總テ此ノ法律ニ依

ル 第二條 國稅ノ徵收ハ總テノ他ノ公課及債權ニ充ツモノトス

第三條 納稅人ノ財産上ニ質權又ハ抵當權ヲ有スル者其ノ質權又ハ抵當權ノ設定カ

國稅ノ納期限ヨリ一ヶ年前ニ在ルコトヲ公正證書ヲ以テ證明シタルトキハ該物件

ノ價額ヲ限トシ其ノ債權ニ對シテ國稅ヲ先取セサルモノトス

第四條 納稅人國稅其ノ他ノ公課ノ滯納ニ因リ滯納處分ヲ受ケ又ハ他ノ債務ニ因リ

強制執行若ハ破産ノ宣告ヲ受ケタル場合ニ於テハ未タ納期ノ到ラザルモ既ニ納稅

義務ノ確定シタル國稅ハ總テ之ヲ徵收スルコトヲ得但シ納稅人タル會社ヲ解散チ

爲シタルトキ亦同シ

納稅人他ノ公課ニ付滯納處分ヲ受ケタルニ因リ國稅ノ徵收ヲ爲ストキハ國稅ハ其

第二章 徵收

第五條 市町村ハ其ノ市町村内ノ地租及勅令ヲ以テ命シタル國稅ヲ徵收シ其ノ稅金

ヲ國庫ニ送付スルノ責任アルモノトス

前項地租徵收ノ費用ハ其ノ市町村ノ負擔トシ其ノ他ノ國稅ハ其ノ徵收金額ノ百分

ノ四ヲ其ノ市町村ニ交付スヘシ

第六條 國稅ヲ徵收セムトスルトキハ收稅官吏又ハ市町村ハ納稅人ニ對シ其ノ納金

額納期日及納付場所ヲ指定シ之ヲ告知スヘシ

第七條 納稅人非常ノ災害ニ罹リ政府ニ於テ其ノ被害調査ノ爲時日ヲ要スルトキハ

其ノ間稅金ノ徵收ヲ爲ササルコトアルヘシ

第八條 市町村ハ避ケヘカテサル災害ニ因リ既收ノ稅金ヲ失ヒタルトキハ其ノ事實

ヲ證明シ大藏大臣ニ稅金送付ノ責任ノ免除ヲ請フコトヲ得

前項ノ申出アリタルトキハ大藏大臣ハ其ノ事實ヲ審査シ其ノ免ヲ爲スコトヲ得

第三章 滯納處分

第九條 國稅ノ納期限ヲ過キ稅金ヲ完納セサル者アルトキハ收稅官吏ハ期限ヲ指定

シテ之ヲ督促スヘシ此ノ場合ニ於テハ勅令ノ定ムル所ニ依リ督促手数料ヲ徴收ス
第十條 滯納者督促ヲ受ケ其ノノ期限指定内ニ督促手數及税金ヲ完納セサルトキハ
其ノ財産ヲ差押フヘシ

第十一條 收税官吏滯納處分ノ爲メ財産ノ差押ヲ爲ストキ其ノ命令ヲ受ケタル官吏
タルノ證票ヲ示スヘシ

第十二條 差押フヘキ財産ノ價格ニシテ滯納處分費及第三條ニ依リ控除スヘキ債務
額ニ充テ殘餘ヲ得ル見込ナキトキハ滯納處分ノ執行ヲ止ム

第十三條 收税官吏滯納者ノ財産ヲ差押フルニ當リ質權ノ設定セラレタル物件アル
トキハ質權設定時期ノ如何ニ拘ラス其ノ質權者ハ質物ヲ收税官吏ニ引渡スヘシ

第十四條 收税官吏財産ノ差押ヲ爲シタル場合ニ於テ第三者其ノ財産ニ就キ所有權
ヲ主張シ取戻ヲ請求セムトスルトキハ賣却決行ノ五日マテニ所有者タルノ證憑
ヲ具ヘテ收税官吏ニ申出ヘシ

第十五條 滯納處分ヲ執行スルニ當リ滯納者財産ノ差押ヲ免ル、爲故意ニ其財産ヲ
讓渡シ讓受人其情ヲ知り讓受ケタル場合ニ於テ政府ハ其ノ行爲ノ取消ヲ求ルコト
ヲ得

第十六條 左ニ掲グル物件ハ之ヲ差押フルコトヲ得ス
一 滯納者及其ノ同居ノ家族ノ生活上缺クヘカラサル衣服寢具家具及廚具

二 滯納者及其ノ同居家族ニ必要ナル一ヶ月間ノ食料及薪炭

三 實印其ノ他職業ニ必要ナル印

四 祭祀禮拜ニ必要ナリト認ムル物及石碑墓地

五 系譜其ノ他滯納者ノ家ニ必要ナル日記書付類

六 職務上必要ナル制服祭服法衣

七 勳章其ノ他名譽ノ章票

八 滯納者及其ノ同居家族ノ修學上必要ナル書籍器具

九 發明又ハ著作ニ係ル物ニシテ未タ公ニセサルモノ

第十七條 左ニ掲グル物件ハ他ニ滯納處分費及税金ヲ償フニ足ルヘキ物件ヲ提供ス
ルトキハ滯納者撰擇ニ依リ差押ヲ爲ササルモノトス

一 農業ニ必要ナル器具種子肥料及牛馬並其ノ飼料

二 職業ニ必要ナル器具及材料

第十八條 差押ノ效力ハ差押物ヨリ生スル天然及法定ノ果實ニ及ブモノトス

第十九條 滯納處分ハ裁判上ノ假差押ノ爲ニ其ノ執行ヲ妨ケラルコトナシ

第二十條 收税官吏財産ノ差押ヲ爲ストキハ滯納者ノ家屋倉庫及筐匣ヲ搜索シ又ハ
閉鎖シタル戸扉筐匣ヲ開カシメ若クハ自ラ之ヲ開クコトヲ得滯納者ノ財産ヲ占有
スル第三者其ノ財産ノ引渡ヲ拒ミタルトキ亦同シ

第三者ノ家屋倉庫及筐匣ニ滯納者ノ財産ヲ藏匿スルノ疑アルトキハ收税官吏ハ前項ニ準シ處分スルコトヲ得前二項ニ依リ家屋倉庫又ハ筐匣ヲ搜索スルハ日出ヨリ日没マテニ限ル

第二十一條 收税官吏前條ノ處分ヲ爲ストキハ滯納者若ハ前條ニ掲ケタル第三者又ハ其家族雇人ヲシテ立會ハシハヘシ若シ立會フヘキ者不在ナルトキ又ハ立會ニ應セサルトキハ成丁者二人以上又ハ市町村吏員(市制町村制ヲ施行セサル地方ニ在リテハ區戸長及其ノ附屬吏員)若ハ警察官吏ヲ證人トシテ立會ハシムヘシ

第二十二條 通貨地金銀有價證券ヲ差押ヘタルトキハ收税官吏之ヲ封印シテ其ノ地ノ市町村長(市制町村制ヲ施行セサル地方ニ在リテハ區戸長)ニ保管セシムヘシ前項ニ掲ケタル物件ヲ差押ヘタルトキハ收税官吏封印シテ之ヲ保管スヘシ但シ不動産又ハ運搬ヲ爲スニ付困難ナル物件ヲ差押ヘタルトキハ其ノ保管ヲ滯納者ハ第三者ニ命スルコトヲ得

第二十三條 債權ノ差押ヲ爲ストキハ收税官吏ハ之ヲ債務者ニ通知スヘシ債務者前項ノ通知ヲ受ケタルトキハ收税官吏ニ對シテ滯納處分費及税金額限トシ自己ノ債務ヲ支拂フノ義務ヲ有ス其ノ義務ノ消滅セサル前ニ滯納者ニ對シテ爲シタル支拂ハ無効トス

第二十四條 差押ヘタル有體動産及不動産ハ公賣ニ付ス公賣ノ手續ハ勅令ヲ以テ之

ヲ定ム

公賣ニ付スルモ買受望人ナキカ又ハ其ノ價額見積價格ニ達セサルトキハ其ノ見積價格ヲ以テ政府ニ買上ルコトアルヘシ

第二十五條 見積價格僅少ニシテ其ノ公賣費用ヲ償フニ足ラサル物件ハ隨意契約ヲ以テ之ヲ賣却スルコトヲ得

第二十六條 滯納者及賣却ヲ爲ス地方ノ稅務ニ關スル官吏公吏雇員ハ直接ト間接トヲ問ハス其ノ賣却物件ヲ買受クルコトヲ得ス

第二十七條 滯納處分費ハ督促手数料財産ノ差押保管運搬及公賣ニ關スル費用通信費及訴訟費用トス

滯納處分ヲ中止シタル場合ニ於テモ之ニ要シタル處分費用ハ仍之ヲ徵收ス滯納處分ハ國稅及第三條ノ債權ニ對シテモ之ヲ先取ス

第二十八條 差押物件ノ賣却代金及差押ヘタル通貨ハ處分費及税金ニ充テ仍殘餘アルトキハ之ヲ滯納者ニ還付スヘシ

賣却シタル物件質入書入ト爲シタルモノアルトキハ其ノ代金ヨリ先ツ處分費及税金ヲ控除シ次ニ其ノ負債金額ニ充ルマテ之ヲ償フニ交付シ仍殘餘アレハ之ヲ滯納者ニ還付スヘシ但シ第三條ニ掲ケタル質入書入ノ物件ニ關シテハ其ノ代金ヨリ先ツ滯納處分費ヲ徵シ次ニ其ノ負債金額ニ充ツルマテ之ヲ償主ニ交付シ次ニ税金ヲ控除

シ仍殘餘アレハ之ヲ滯納者ニ還付スヘシ

第二十九條 會社ニ對シ滯納處分ヲ執行スル場合ニ於テ會計財産ヲ以テ滯納處分費及税金ニ充テ仍不足アルトキハ無限責任社員ニ就キ之ヲ處分スルコトヲ得

第三十條 滯納處分ニ關スル書類ハ名宛人ノ住居又ハ事務所ニ送達スルモノトス名宛人ノ住所又ハ事務所ニ於テ書類ノ受取ヲ拒ミタルトキ又ハ住居若ハ事務所不明ナルトキハ通知ノ趣旨ヲ公告シ五日ヲ過グルトキハ其ノ書類ノ送達アリタルモノト看做ス

第三十一條 直接國稅滯納者ノ滯納義務ハ滯納處分ノ結了ヲ以テ終ル滯納處分ノ執行ヲ止メタルトキ亦同シ

間接國稅ニ付テハ滯納處分結了スルモ滯納處分費及税金ノ完納ニ至ラサルハ納期限後一箇年間ハ隨時其ノ不足額ヲ徵收ス滯納處分ノ執行ヲ止メタルトキ亦同シ

第四章 罰則

第三十二條 滯納者又ハ滯納者ノ財産ヲ占有スル者其ノ財産ヲ藏匿脱漏シ又ハ虛偽ノ契約ヲ爲シタルトキハ一月以上二年以下ノ重禁錮ニ處ス
差押物件ノ保管者其ノ保管ニ係ル物件ヲ藏匿脱漏費消若ハ故意ニ毀損シタルトキ亦同シ

情ヲ知テ第二項ノ所爲ヲ幫助シ又ハ虛偽ノ契約ヲ承諾シタル者ハ各本刑ニ一等ヲ

減ス

各前項ノ場合ニ於テ刑法ニ罰條アルモノハ本條ヲ適用セス

第五章 附則

第三十三條 此ノ法律ハ明治三十年七月一日ヨリ施行ス

沖繩縣及東京府管内小笠原島伊豆七嶋ニハ當分ニテ施行セス

市制町村制ヲ施行セサル地方ニ於テ本法中市町村ニ關スル條項ヲ適用スヘキ公共團體ハ勅令ヲ以テ之ヲ指定ス

北海道水産物營業人組合ハ本法ニ於テ市町村ニ準ス

第三十四條 明治二十二年法律第九號國稅徵收法同年法律第三十二號國稅滯納處分法及同二十三年法律第四號ハ此ノ法律施行ノ日ヨリ廢止ス

皇 室 御 名 錄

今上天皇	第百二十一代 孝明天皇	第聖誕	嘉永五年壬子	九月廿三日
御踐祚	御名 睦仁 第二皇子	御即位	慶應四年戊辰	陽曆十一月三日
皇太后宮	御名 夙子	故從一位九條尚	天保四年癸巳	八月廿七日
皇太后宮下	慶應四年戊辰	忠第六御息女	三月十八日	陽曆一月廿三日
皇后宮	御名 美子	故從一位一條忠	香第三御息女	陽曆五月廿八日
		御生誕	嘉永三年庚戌	

入 內 明治元年戊辰十二月廿八日皇后宣下明治元年戊辰 十二月二十八日
 皇太子 第三 皇子御名 嘉仁 御生誕 明治十二年己卯八月三十一日
 儲君御治定明治二十年丁亥八月三十一日立太子 明治廿二年己丑十一月三日
 昌子內親王 第六皇女常宮 御生誕 明治廿一年戊子九月三十日
 房子內親王 第七皇女周宮 御生誕 明治廿三年庚寅二月二十八日
 允子內親王 第八皇女富美宮 御生誕 明治廿四年辛卯八月七日
 聰子內親王 第九皇女泰宮 御生誕 明治廿九年丙申五月十三日

皇族御名錄

○有栖川宮 大勳位 故一品煇仁親王第四子 大勳位 故一品邦家親王第五子
 威仁親王 御生誕文久二年戊辰正月十三日 彰仁親王 御生誕弘化三年正月十六日
 ○伏見宮 大勳位 故一品邦家親王第十一子 大勳位 故大勳位功三級能久親王第二子
 貞愛親王 御生誕安政五年午四月廿八日 恒久親王 御生誕明治十五年九月廿二日
 ○山階宮 大勳位 故一品貞敬親王第八子 大勳位 故一品邦家親王第十六子
 邦親王 御生誕文化十三年子二月二日 載仁親王 御生誕慶應元年丑九月十二日

○久邇宮 勳一等 故大勳位朝彥親王第二子 勳一等 故大勳位朝彥親王第四子
 邦憲王 御生誕慶應三年卯六月朔日 守正王 御生誕明治七年戊三月九日

○華頂宮 大勳位貞愛親王第一子
 博恭王 御生誕明治八年亥十月十八日

大日本帝王歷代表

一	神武	二	綏靖	三	安寧	四	懿德	五	孝昭
六	孝安	七	孝靈	八	孝元	九	開化	一〇	崇神
一一	垂仁	一二	景行	一三	成務	一四	仲哀	一五	應神
一六	仁德	一七	履中	一八	反正	一九	允恭	二〇	安康
二一	雄略	二二	清寧	二三	顯宗	二四	仁賢	二五	武烈
二六	繼體	二七	安閑	二八	宣化	二九	欽明	三〇	敏達
三一	用明	三二	崇峻	三三	推古	三四	舒明	三五	皇極
三六	孝德	三七	齊明	三八	天智	三九	弘文	四〇	天武
四一	持統	四二	文武	四三	元明	四四	元正	四五	聖武
四六	孝謙	四七	淳仁	四八	稱德	四九	光仁	五〇	桓武
五一	平城	五二	嵯峨	五三	淳和	五四	仁明	五五	文德

五六	港和	五七	陽成	五八	光孝	五九	宇多	六〇	醍醐
六一	朱雀	六二	村上	六三	冷泉	六四	圓融	六五	花山
六六	一條	六七	三條	六八	後一條	六九	後朱雀	七〇	後冷泉
七一	後三條	七二	白河	七三	堀河	七四	鳥羽	七五	崇徳
七六	近衛	七七	後白河	七八	二條	七九	六條	八〇	高倉
八一	安徳	八二	後鳥羽	八三	土御門	八四	順徳	八五	仲恭
八六	後堀河	八七	四條	八八	後醍醐	八九	御深草	九〇	龜山
九一	後宇多	九二	伏見	九三	後伏見	九四	後二條	九五	花園
九六	後醍醐	九七	後村上	九八	後龜山	九九	後小松	一〇〇	稱光
一〇一	後花園	一〇二	後土御門	一〇三	後柏原	一〇四	後奈良	一〇五	正親町
一〇六	後陽成	一〇七	後水尾	一〇八	明正	一〇九	後光明	一一〇	後西院
一一一	靈元	一二三	東山	一三三	中御門	一四四	櫻町	一五五	桃園
一二六	後醍醐	一二七	後桃園	一六六	光格	一九九	仁孝	二〇〇	孝明
一三三	今上								

年號始 ● 年代表 ● 印ハ北朝ノ年號方リ○神武天皇ヨリ大化元年マテ其間千三百四年○年號ハ人皇三十六代孝徳天皇乙巳年ヨリ始ル

大化 五 白雉 五 齊明 七 天智 十 白鳳 十四 朱鳥 一 持統 十

文武	四	大寶	三	慶雲	四	和銅	七	靈龜	二	養老	七	神龜	五	天平	二十
天長	八	寶字	八	神護	二	景雲	三	寶龜	十一	天應	一	延暦	廿四	大同	四
弘仁	十四	天長	十	承和	十四	嘉祥	三	仁壽	三	齊衡	三	天安	二	貞觀	十八
元慶	八	仁和	四	寬平	九	昌泰	三	延喜	廿二	延長	八	承平	七	天慶	九
天曆	十	天德	四	應和	三	康保	三	安和	三	天祿	三	天延	三	貞元	二
天元	五	永觀	二	寬和	二	永延	二	永祚	一	正曆	五	長徳	四	長保	五
寬弘	八	長和	五	寬仁	四	治安	三	萬壽	四	長元	九	長曆	三	長久	四
寬徳	二	永承	七	天喜	五	康平	七	治曆	四	延久	五	承保	三	承暦	四
永保	三	應徳	三	寬治	七	嘉保	二	永長	一	承徳	二	康和	五	長治	二
嘉承	二	天仁	二	天永	三	永久	五	元永	二	保安	四	天治	二	大治	五
天承	一	長承	三	保延	六	永治	一	康治	二	天養	一	久安	六	仁平	三
久壽	二	保元	三	平治	一	永暦	一	應保	二	長寛	二	永萬	一	仁安	三
嘉應	二	承安	四	安元	二	治承	四	養和	一	壽永	二	元暦	一	文治	五
建久	九	正治	二	建仁	三	元久	二	建永	一	承元	四	建暦	二	建保	六
承久	三	貞應	二	元仁	一	嘉祿	二	安貞	二	寛喜	三	貞永	一	天福	一
文暦	一	嘉禎	三	暦仁	一	延應	一	仁治	三	寛元	四	賢治	二	建長	七
康元	一	正嘉	二	正元	一	文應	一	弘長	三	文永	十一	建治	三	弘安	十

參千圓	參百六拾圓	參拾圓	壹圓	八千圓	九百六拾圓	八拾圓	貳圓六拾六
四千圓	四百八拾圓	四拾圓	壹圓參拾參	九千圓	千〇八拾圓	九拾圓	錢六厘六毛
五千圓	六百圓五拾圓	圓	壹圓六拾六	九千八百圓	千八百八拾圓	九拾九圓	參圓參拾錢
六千圓	七百貳拾圓	六拾圓	貳圓	一萬圓	千貳百圓	圓	參圓參拾參
七千圓	八百四拾圓	七十圓	貳圓參拾參				錢參厘

●利息計算日數早見表

至自	一月	二月	三月	四月	五月	六月	七月	八月	九月	十月	十一月	十二月
一月	三〇	三〇	三〇	三〇	三〇	三〇	三〇	三〇	三〇	三〇	三〇	三〇
二月	三〇	三〇	三〇	三〇	三〇	三〇	三〇	三〇	三〇	三〇	三〇	三〇
三月	三〇	三〇	三〇	三〇	三〇	三〇	三〇	三〇	三〇	三〇	三〇	三〇
四月	三〇	三〇	三〇	三〇	三〇	三〇	三〇	三〇	三〇	三〇	三〇	三〇
五月	三〇	三〇	三〇	三〇	三〇	三〇	三〇	三〇	三〇	三〇	三〇	三〇
六月	三〇	三〇	三〇	三〇	三〇	三〇	三〇	三〇	三〇	三〇	三〇	三〇
七月	三〇	三〇	三〇	三〇	三〇	三〇	三〇	三〇	三〇	三〇	三〇	三〇
八月	三〇	三〇	三〇	三〇	三〇	三〇	三〇	三〇	三〇	三〇	三〇	三〇
九月	三〇	三〇	三〇	三〇	三〇	三〇	三〇	三〇	三〇	三〇	三〇	三〇
十月	三〇	三〇	三〇	三〇	三〇	三〇	三〇	三〇	三〇	三〇	三〇	三〇
十一月	三〇	三〇	三〇	三〇	三〇	三〇	三〇	三〇	三〇	三〇	三〇	三〇
十二月	三〇	三〇	三〇	三〇	三〇	三〇	三〇	三〇	三〇	三〇	三〇	三〇

右表ハ利息計算上頗ル便利ナルモノニシテ例セハ十月九日ヨリ翌年三月二十八日マテハ十月ノ横線ト三月ノ縦線ト突合セテ得タルモノ即百五十一日ヘ二十八ヨリ九日ヲ引キ残りノ十九日(28-9)ヲ加フレハ日數百七十日ナルコトヲ知レカ如ク又四月十七日ヨリ翌年十月九日マテハ十月ノ横線四月ノ縦線ト突合セタルモノ即千百八十三日ヨリ八日(17-9)ヲ減スレハ日數百七十五日トナルカ如ク

●利息制限法

一凡ソ金銀貸借上ノ利息ヲ分テ契約上ノ利息ト法律上ノ利息トス
 一契約上ノ利息トハ人民相互ノ契約ヲ以テ定メ得ヘキ所ノ利息ニシテ
 元金百圓以下ハ一ヶ年〇付百分ノ二十(二割)
 今百圓以上千圓以下全百分ノ十五(一割五分)
 今千圓以上全百分ノ十二以下
 法律上ノ利息トハ人民相互ノ契約ヲ以テ利息ノ高ク定メサルトキハ裁判所ヨリ言渡ス所ノ者ロシテ
 元金ノ多少ニ不拘
 百分ノ六(六分)

欠

MISSING

第四十四條 第十二條第十三條第三十二條第三十六條ニ違背シタル者ハ一日ノ拘留ニ處シ又ハ拾錢以上壹圓以下ノ科料ニ處ス

第四十五條 第五條第七條第十一條第二十六條第二十七條第三十條第三十三條第三十八條第三十九條第四十一條第四十二條ニ違背シタルモノハ五錢以上五拾錢以下ノ科料ニ處ス

第四十六條 第九條第二十五條第二十八條第二十九條第三十一條ニ違背シテ制止ヲ肯セス又ハ官署ノ督促ニ從ハサルモノハ五錢以上五十錢以下ノ科料ニ處ス

◎質屋取締條例施行細則

第一條 質屋營業ヲ爲サントスル者ハ住所身分年齢ヲ記シ所轄警察署又ハ分署ニ願出免許鑑札ヲ受ク可シ支店ヲ設ケントスルトキハ前項ノ外尙ホ其場所ノ町村番地ヲ記シ開業五日以前所轄警察署又ハ分署ニ届出ツ可シ

第二條 營業ニ關スル願届ハ取締人ノ連署ヲ受ク差出ス可シ

但シ第十二條第十六條ニ指定スル届出ハ此限ニアラス

第三條 左ノ各項ニ觸ル、モノハ免許ヲ與ニス

但シ第四項ニ觸ル、モノト雖トモ改悛ノ狀アリト認メタルトキハ特ニ免許スルコトアル可シ

一 未了年者ニシテ後見人ナキ者

- 二 白痴瘋癲者及瘖啞者
- 三 營業者禁止ヲ受ケタルトキハ其禁止中ニ於ケル同居ノ親屬及雇人
- 四 強窃盜及詐欺取財ノ罪又ハ刑法三百九十九條全第四百一條ノ處斷ヲ受ケタル者
- 第四條 營業ノ免許ヲ受ケタル者又ハ支店ヲ設ケタルモノハ第一號書式ノ看板ヲ製シ組合取締人ノ捺印ヲ受ケ店前衆人ノ見易キ場所ニ掲出ス可シ
- 第五條 免許鑑札ハ他人ニ貸與又ハ讓與ス可カラス
- 第六條 免許鑑札ヲ失却毀損シタルトキ又ハ轉居改氏名等ニ依リ鑑札面ニ異動ヲ生シタルトキハ五日以内ニ所轄警察署又ハ分署ニ届出再渡又ハ書替ヲ受ケ可シ
- 第七條 廢業シタルトキハ免許鑑札及現存スル貨物ノ素質摸樣員數ヲ記載シタル目錄書ヲ添ヘ五日以内ニ所轄警察署又ハ分署ニ届出ツヘシ
- 第八條 警察署又ハ分署所轄外ニ轉住セントスルトキハ其運送ス可キ貨物ハ前條ニ定ムル目錄書ヲ添ヘ移轉五日以前ニ所轄警察署又ハ分署ニ届出其移轉地ニ到着シタルトキハ五日以内ニ免許鑑札ヲ添ヘ其他所轄警察署又ハ分署ニ届出ツ可シ
- 第九條 條例第五條ニ依リ官廳市町村學校病院社寺會社ノ印章記號アル物品トスルトキハ證人ノ證明書ヲ取置ク可シ
- 第十條 左ニ記載シタル者ハ證人ノ効力ナキモノトス

但シ三條但書ニ依リ免許ヲ得タルモノハ此限ニアラス

- 一 未了年者
- 二 雇主ト全居ノ雇人
- 三 白痴瘋癲者及瘖啞者
- 四 營業禁止又ハ停止中ノ者
- 五 強窃盜詐欺取財ノ罪又ハ刑法百九十九條同四百一條ノ處斷ヲ受ケタルモノ
- 第十一條 營業者ハ左ノ帳簿ヲ製シ品觸綴帳ヲ除クノ外新調又ハ紙數ヲ増減シタルトキハ其ノ紙數ヲ記載シ所轄警察署又ハ分署ノ檢印ヲ受ケ可シ若シ使用上誤書等ニ依リ更ニ記載スル場合ト雖トモ誤書ノ文字其旨ヲ附記シ字体ヲ存ス可シ
- 支店ハ別ニ其店舗ニ備ヒ置キ前項ニ據リ記載ス可シ
- 一 貨物臺帳
- 二 此帳簿ハ第二號書式ニ據リ記載ス可シ
- 二 流貨物賣拂帳
- 三 此帳簿ハ第三號書式ニ依リ記載ス可シ
- 三 物品預帳
- 四 可此帳簿ハ第四號書式ニ依リ記載ス可シ
- 四 品觸綴帳此帳簿ニハ品觸書ノ到達シタルトキハ年月日時ヲ附記シ順次編綴ス

シ

第十二條 質物ノ流期ニ至ラシトスルトキハ營業者ヲ質入主ニ告知ス可シ

第十三條 條例第八條ニ依リ流質ヲ賣拂ハントスルトキハ第五號書式ニ依リ所轄警察署又ハ分署ニ差出ス可シ

第十四條 營業者ハ質入人ノ見易キ場所ニ左ノ各項ヲ記載揭示ス可シ

一 質物流期

二 利子ノ割合

三 質物災難ニ罹リタルトキノ處辨方

第十五條 品觸ニ類似シタル物品及不審ノ舉動アル者ヨリ質入又ハ預入ヲ爲サントスルトキハ警察官吏ニ密告ス可シ

第十六條 條例第六條第十二條ノ届書ニシテ分署部内ニ係ルモノハ其分署ニ差出可シ

第十七條 營業者ハ警察署又ハ分署ノ所轄チ一區域トシ組合ヲ設ケ其組合毎ニ規約ヲ定メ且ツ取締人一名ヲ互撰シ所轄警察署又ハ分署ニ届出認可ヲ受ク可シ

但シ土地ノ狀況ニ依リ所轄警察署又ハ分署ノ認可ヲ受ケ一組合内チ更ニ數組ニ分チ一組毎ニ副取締人一名ヲ置クコトヲ得其副取締人ノ撰舉及届出方ハ本條ニ依ル

ヘシ又營業者少數ニシテ一組チナシ難キ事情アルトキハ所轄警察署又ハ分署ノ認可ヲ受ケ最寄組合ニ加入スルコトヲ得

第十八條 左ノ資格ニ適合スルモノニアラサレハ取締人及副取締人タルコトヲ得ス

一 年齡滿二十五年以上ニシテ組合區域ニ相當ノ家屋若シクハ土地ヲ有スル者

二 營業上ニ關スル諸規則ヲ解讀シ及筆算ニ差支ナキ者

第十九條 所轄警察署又ハ分署ニ於テ取締人又ハ副取締人ニ不都合ノ所爲アルカ若シクハ不適當ノ者ト認メタルトキハ臨時改撰セシムルコトアル可シ

第二十條 營業者ハ組合ニ關スル費用並ニ品觸費用ヲ負擔ス可シ其組合ニ加入セス又ハ費用ヲ負擔セサル者ハ營業ヲナスコトヲ得ス

第二十一條 取締人品觸費用支拂ノ告知ヲ受ケタルトキ其告知書到達ノ日ヨリ二十日以内ニ差出ス可シ

第二十二條 取締人ニ於テ品觸書ヲ受ケタルトキハ速ニ組合内ノ營業者ニ配付ス可シ

第二十三條 取締人ニ於テ取扱フ可キ事項左ノ如シ

一 諸規則命令ヲ組合營業者ニ通知スルコト

二 組合營業者ノ看板ニ烙印スルコト

三 組合營業者願届ニ加印シ意見アルモノハ其旨添申スルコト

四 營業者名簿ヲ製シ増減アル毎ニ之ヲ加除スルコト

五 組合並ニ品觸ニ關スル費用ノ取立支拂及決算報告ニ關スルコト
 六 取締人擧ニ關スルコト
 右ノ外規約ヲ以テ定メタル事項
 第二十四條 組合規約ニ掲ク可キ事項左ノ如シ
 一 組合ノ名稱及事務取扱所ノ位置
 二 取締人ノ擧及任期ノコト
 三 組合會議組織ノコト
 四 質物流期限ノコト
 五 利子割合ノコト
 六 質物ノ災難ニ罹リタルトキノ處辨方ノコト
 七 組合並ニ品觸費用ノ賦課及收支ノコト
 八 副取締人ヲ置クトキハ其ノ分擔事項ノコト
 九 違約者取扱ノコト
 右ノ外營業上必要ノコト
 第二十五條 質屋取締條例ニ明文アルモノヲ除キ本則第四條五條第六條第七條第八條第十一條第十四條第十五條ニ違背シタルモノハ刑法第四百二十七條第八項ニ照シ處分スベシ

附 則

第一 從來免許鑑札ヲ受ケ現ニ營業スルモノハ更ニ出願スルニ及ハス
 第二 組合規約ハ來ル九月十五日限り出願ス可シ
 第三 看板ハ來ル九月十五日迄書換テ猶豫ス
 第四 現ニ使用セル帳簿ハ繼續使用スルコトヲ得
 第一號書式

豎 尺五寸
巾五寸

何組第何號	何郡何町村番地	族籍
質屋	屋号	氏名
	何何	支店ナルトキハ氏名ノ下ニ
	組合	支店ヲ記ス可シ
		烙印ハ方一寸五分以内

第二號

質屋臺帳(表紙ニ記ス可シ)

一番號毎一年ニ號數ヲ止メ翌年ハ更ニ記號スベシ
 二 入換品ハ凡例ノ如ク其物品及年月日ヲ記載シ前品目ニ朱線ヲ施ス可シ
 三 受戻品及流質物ヲ賣拂タルトキハ凡例ノ如ク記載シ番號品目ニハ朱線ヲ施ス可シ
 四 質物ノ素質摸樣同一ニシテ數品ヲ合記スルトキハ一品毎ニ其貸金額ヲ區分シテ記載ス可シ但シ一組一對何人前ト稱スルキ物品ハ此限ニアラス
 五 質入主ニアラサル者質物ヲ受戻サントスルトキハ代理ノ證ヲ認メ其戻人ノ住

所氏名ヲ記載スヘシ

年月日質入

何郡何町村何番地
質入主 氏 名印

貸金何程也

利子何程

一何色何縞何々紋付男小袖

何枚

但シ紋付ノ内ニ何々何々所裏何色袖口何

第何號

△何年月日受戻

△ハ朱書

貸金何程也

利子何程

一金側片硝子懷中時計

何個

但シ器械何々國製番號何號附屬品何々

第何號

貸金何程也

利子何程

一何色何々女小袖

何枚

但シ何紋何々所胴裏

△何年月日入換

何裾何袖口何

△何縞男羽織一枚但胴裏何色海氣

第何號

△何年月日賣拂

貸金何程也

利子何程

一 黒塗何寸重箱

何個

但シ朱塗蓋金泊ニテ何々ノ紋付

金梨地何々ノ蒔繪アリ

第三號書式

流質賣拂帳(表紙ニ記スヘシ)

何郡何町村何番地

買主

氏

名

何年月日賣拂

何年第何號

一何色何々紋付男小袖

何枚

價金何程

第四號書式

物品預帳(表紙ニ記スヘシ)

何郡何町村何番地

預ケ主

氏

名

何年月日賣却(保存(火災難)ノ爲メ預ル

一何色羽三重紋付男小袖何枚

何年月日賣却(返(戻))

但

右帳簿表紙ノ内側ニ左之通り記載シ置クヘシ

明治年月日新調 警察署又ハ分署印以下全シ

紙數何枚

明治年月日増綴

紙數何枚

合計何枚

明治年月日減綴

紙數何枚

差引何枚

同上帳簿ノ裏面ニ左ノ通り記載シ尙綴目ニ檢印ヲ受ク可シ

自明治年月日至明治年月日(最終ノ月日ハ使用ニ止メタルトキ記載スヘシ)

何郡何町村何番地

質屋 氏 名

第五號書式

流質物賣拂御届

何年月日質入第何號

元質入主何郡何町村番地

氏 名

一何色何々紋付男小袖

何枚

但紋何々何々所(胴裏何裾何袖口何)
貸金何程也

同

一何色何々女小袖

同

同

何枚

但ノ紋何々何々所(胴裏何裾何袖口何)

同

同

同

何個

一金側片硝子懐中時計

但器械何々國製番號何號附屬品何

同

同

全

一 黒塗何寸重箱

但金製地何々ノ持繪アリ

同

何品

右ハ洗質物ニ付來ル何月何日賣拂候間此段御届仕候也

何郡何町村何番地

質屋 氏 名印

年月日

何警察署又ハ分署御中

第二款

出生届

府縣郡市町村字番地族籍
當時郡村字番地持家借家借
地何名方寄留

寄留者ニアラサルモハ此書式ヲ除ク

氏名何男戸主

父 氏名

母 妻 氏名

長男孫 氏名

右何年何月何日出生致候此段及御届候也

年月日

町村長宛

入籍届

縣郡(町)村番地族籍

何之誰何男(又ハ何々)

名

縣 役所 廳
郡 役所
登記所
町村役場
ニ要スル諸願届書式

何年何月何日生

右私(妻) (養子) (質受) (入籍) 候間此段及御届候也

町村番地 何之誰

年月日

(本人不在ナレハ親族ニ) 人以上ヨリ届出ヘシ

町村長宛

轉住届

郡町村番地族籍

戸主 氏名

何月何日生

年月日府縣郡町村番地氏名何女子娶ル

妻 年月日生

長男 年月日生

名

右何町村何番地へ(全戸轉住致候間此段及御届候也)

年月日 右 氏 名印

町村長宛

●死亡届

郡町村番地

氏名何男

氏 名

年月日生

右ノ者年月日死亡致候間此段及御届候也

右戸主

年月日 氏 名印

町村長宛

●死亡御届

縣郡町村番地(寄留逗留)

縣郡町村番地族籍何之誰何男女

何年何月何日午前 第何時死亡 名

何年何月何日午後 第何時埋葬 何年何月何日生

右之者死亡候ニ付何(町)村何處共有墓地

へ埋葬致度候間埋葬認許證御下附被下度

醫師(珍斷)書相添此段御届申候也

右(死亡人戸主又ハ族籍)

年月日

何之誰

家主 何之誰

何町村長宛

●送籍届

町村番地族籍氏名何男女

年月日生 名

右之者何縣何(町)(村)番地族籍何某方へ(妻縁、養子女、相續人)ニ遣シ候間此段御届申候也

年月日 右 何之誰

町村長宛

●失踪(復歸)届

郡村番地

氏 名

何男女

名

右何年何月何日失踪(之處年月日復歸)致候此段及御届候也

右戸主

年月日 氏 名印

町村長宛

●復姓(改名其他何々)届

町番地族籍氏名何男女

舊姓(名)

名

右復姓(改名)之義出願致候處月日御許可相成候ニ付此段御届申候也

右(戸主)

年月日 何之誰

町村長宛

●家督相續(結婚)(離婚)届

町村番地族籍

氏 名

戸主氏名長女(二女)

名

右ハ年月日(家督相續)(誰ト結婚)(妻離婚)致候間此段御届申候也

右

年月日 何之誰

(相續ノトキ前戸主)

町村長宛

●附籍届

縣郡(町村)番地
族籍何之誰(何男女)
名

年月日生

右何町村何番地何ノ誰方へ附籍候間此段御届申候也

年月日

附籍主

何之誰

町村長宛

●出寄留届

町番地族籍氏名(何男何女
父兄弟名
名

右何年何月何日ヨリ縣郡町村番地何之誰方へ寄留致候間此段御届申候也

年月日

縣郡(地主)(管理者)
何之誰
名

町村長宛

●寄留届

縣郡村番地族籍
父誰何男(女)戶主弟妹
郡町村番地持家(借家)氏名方寄留
氏名

年月日生

妻名

年月日生

家族數名アルモノハ右ニ做ヒ列記
右何年何月何日ヨリ寄留致候間此段及御届候也

年月日

右戶主(世帯持)

氏名印

郡町村番地族籍

地主

家主

名印

郡村字番地族籍

郡町村番地(家持)借地

(借家)(寄留戶主)世帯主

氏名印

町村長宛

●結婚入籍届

何郡何村大字何々番地

族氏名妻(婦)

(何男名妻)

右ハ何縣何郡何々町番地族氏名何女子娶
リ候ニ付入籍相成度此段御届申上候也

以下出生届ニ同

●養子(女)入籍届

何郡何村大字何々番地

族氏名養子(女)

名

右ハ何縣何郡何村何番地族氏名男女ヲ貫
受候間入籍相成度此段及御届候也

(以下全同)

●離縁届

郡村番地族氏名何男(女)

年月日生

右府縣郡區町村番地氏名養子女妻離縁復
籍致候此段及御届候也

右戶主

年月日

町村長宛

●流産届

何郡何村大字何々番地
族氏名妻名

埋葬地(死亡届)
(例ニ依ル)

流産

在胎何ヶ月

右何月何日流産至候間別紙醫師(産婆)流
産證相添此段及御届候也

年月日

町村長氏名殿

氏名

入夫妻

●縁女送籍届

何郡何村大字何々番地

族氏名何弟姉妹

(亡)(父名何男女)

右者何縣何郡何村何番地族氏名入夫(妻

縁女養子女)ニ差遣候間送籍相成度此段

及御届候也 (以下全上)

●入夫(妻)離婚

養子女 離縁送籍届

何郡何町村番地

族氏名 入夫妻 相續人

右者何縣何郡何村大字何々番地族氏名方

ハ離婚(離縁)復歸爲致候間送籍相成度此

段及御届候也 (以下出生届ニ全上)

●退隠跡相續届

何郡何村番地

族氏名 氏名

右父名退隠長男相續致候間此段及御届候

年月日

村長宛

●相續届

郡村番地父氏名(何男)

右何月何日隠居(死亡)候ニ付家督跡相續

致候此段及御届候也

氏名印

町村長宛

●分家届

郡村番他族氏名(何男女)

右府縣郡市番地ニ分家致候此段及御届候

年月日 右戸主

氏名印

町村長宛

分家入籍届

何郡何村何番地

族氏名 妻名

右ハ何縣何郡何村何番地族氏名何男(兄)

分家致候ニ付入籍相成度此段及御届候也

年月日

地主 氏名

村長宛

●管内分家届

何郡何村何番地

族(亡)父名何男

右者本郡本村大字何番何族氏名兄弟分家

致候間編籍相成度此段及御届候也

年月日

右戸主 氏名

(是ハ分家地ノ地主ナリ)

六

村長宛

右地主氏名

●離婚(縁)復歸ニ付携帶者入籍届

何郡何番地

族氏名(孫)(甥)(姪)

(父母)名何男女

右ハ何縣何郡何村何番地族氏名(男女)ヲ

父母名(兄弟姉妹名)(離婚離縁)復歸ニ

付携帶致候間入籍相成度此段及御届候也

(以下出生届ノ例ニ全上)

●入夫妻離婚

養子女 離縁ニ携帶者送籍届

何郡何村何番地

族氏名何男女(孫)

(養氏名何男女)

右者何縣何郡何村何番地族氏名方(一離

婚離縁)復歸ニ付何名ヲ携帶爲致候間送

籍相成度此段及御届候也

七

(以下出生届ノ例ニ全シ)

◎結婚届

郡村番地族氏名婦(緑女)
長男妻(緑女)

年月日生 名

右府縣郡市町村番地氏名何女ヲ娶リ候此
段及御届候也

右戸主

双方部内ノトキ
ハ連署ニテヨシ

氏 名印

町村長宛

◎管内離婚(離縁)届

何郡何村何番地

族氏名(入夫、妻、養、嗣
子(何男女)緑女(婿))

名

右者本郡何村何番地族氏名方(離婚)離
縁)復歸爲致候間戸籍加除相成度双方連

署此段及御届候也

年月日

右

氏 氏 名 名

村長宛

◎携帶者入籍届

何郡何村何番地

族氏名(入夫、妻、何男
名何女)

右者何縣何郡何村何番地族氏名弟、父、結
婚ニ付携帶致候間入籍相成度此段及御届
候也

◎轉住送籍届

何郡何村何番地

族氏名方全居
族

氏 氏 名 名 名 名
父 母 妻 何
名 名 名 名

右者何縣何郡何番地(轉住致候間送籍相
成度此段及御届候也

年月日

戸主 氏 名
右地主 氏 名

村長宛

◎管内縁組届

何郡何村何番地

族氏名(養子何女名婿
何男何緑女)

右ハ本郡何村何番地族氏名何(男女)ヲ實
受候間戸籍加除相成度双方連署此段及御
届候也

年月日

右

氏 氏 名 名

村長宛

◎管内轉住届

何郡何村何番地

族 氏 氏 名 名 名 名
父 母 妻

右ハ本郡何村何番地ヨリ轉住致候間戸籍
加除相成度此段及御届候也

右地主 氏 名
元地主 氏 名

村長宛

◎失踪届

失踪全戸ナルトキハ親
戚ヨリ戸主ナルトキハ
家族親戚ヨリ届出ヘシ

何郡何村何番地
族(氏名)(何男兄弟)

右何月何日(家出、儘何旅行地へ何月何
日何地ヨリ音信ノ儘)所在不相分依テ失
踪ノ義ト存候間此段及御届候也

年月日

右

氏 氏 名

右名何男
氏名
村長宛

◎寄留者退去届

何郡何村何番地(借家、被雇)

寄留何縣族(氏名何男女)

氏名

右、何月何日退去致候間此段及御届候也

(地主、家主、雇主、地所家屋管理人)

年月日

村長宛

◎改名届

何郡何村何番地

族

改氏名

右何月何日願濟前書之通り改名致候間此段及御届候也

(以下出生届ノ例ニ全シ)

◎廢嫡届

何郡何村何番地

族氏名何男女

右者廢嫡ノ備何月何日願濟ニ付此段及御届候也

届候也

(以下出生届ノ例ニ全シ)

◎廢戸主届

何郡何村何番地

族

氏名

右何月何日廢戸主願濟ニ付此段及御届候也

年月日

親族續柄何々氏

村長宛

◎私生子引受入籍届

何郡何町何番地

族氏名子

名

何年何月何日生

右何縣何郡何村何番地族氏名何女名私生

何男、女ヲ實子ニ付引受ケ候間入籍相成

度此段及御届候也

年月日

村長宛

◎後見人届

何郡何村何番地

族

氏名

右氏名幼年(瘋癲)(白痴)ニ付親族協議ノ

上何郡何村何番地族氏名ヲ以テ後

見人ト相定メ候ニ付此段及御届候也

郡村何番地

親族續柄何々氏

親族續柄何々氏

右後見人何

村長氏名殿

備考

一同家族内ニ於テ實父ノ後見ヲ爲ス場合

ニ於テハ親族ノ協議ヲ要セス

一後見人變換届ハ(右氏名後見人某ヲ解

除シ更ニ親族協議ノ上)ト肥スヘシ次ニ

元后見人ヲモ連署スル者ナリ

一後見人解除届ハ(右氏名後見ノ處本月

氏名丁年ニ至リ候ニ付後見解除致候間此

段及御届候也)トシ被后見人及後見人共

連署スヘシ

◎印鑑届(家族ノ内印鑑ハ戸主必ス連署スヘシ)

(印)印鑑 郡村大字番地
右印鑑及御届候也 族 氏 名

年月日 右 氏 名
村長氏名殿

●改印届 紛失又ハ遺失ノ節ハ警
察署へ願濟ノ旨ヲ連署
スヘシ

何郡村大字番地

(印)印鑑 族 氏 名

右ハ舊印欠損、紛失、燒失、磨滅、遺失、ニ
付印鑑ノ通り改刻致候間此段及御届候也

年月日 右 氏 名

村長氏名殿

●改肉届

郡村大字番地

印鑑 族 氏 名

右ハ黒肉ヲ朱肉ニ改メ候間此段及御届候
也

年月日 右 氏 名
村長宛

●代納人届

縣郡村何字何々番

一 地目反別何程 郡村大字番地

所有者 何之 誰

(以上做之) 郡村大字番地

代納人 何ノ 誰

右之地所私所有ニ有之候處該地所ニ係ル
地租ハ勿論其他ノ諸稅等前記某ヲ以テ納
稅爲致候間徵稅傳令書今人方へ御配達相
成度連署ヲ以テ此段及御届候也

年月日 右

何ノ 誰

村長宛

●徵兵適齡御届 (用紙半紙)

何郡村大字番地住族籍職業
戸主又ハ其何男若クハ

(兄)(弟)

何ノ 誰

右本年何月滿二十歳ニ相成候ニ付此段御
届申上候也

(右)戸主又ハ家族親族)

何ノ 誰

年月日

何町村長姓名殿

●徵兵異動御届 (用紙半紙)

町村大字番地住族籍職業

戸主又ハ何男(弟)

何ノ 誰

右私義明治何年徵兵ノ并何々ノ事故ヲ以

テ徵集延期(又ハ猶豫)相成居リ候處何年

何月何日該事故止シ候間此段御届申上候

也 年月日 右 何ノ 誰

町村長宛

●徵兵検査期日延期届(用紙半紙)

私義本年徵兵ニ有之來ル何月何日(又ハ
本日)身体受検査ノ爲メ(若クハ検査所

へ(出頭可仕御達相成候處)何月何日ヨリ
疾病ニ罹リ(又ハ何々罪ニヨリ當今在監
中ニ有之)又ハ一年志願兵出願中)ニ付
御指定ノ検査當日出頭仕兼候間別紙診斷
書(又ハ監獄若クハ警察署ノ證明書)相添
へ此段御届申上候也

年月日 何郡村大字番地住族籍職業
何ノ 誰

郡市長宛

前書ノ通り相違無之ニ付與書證印候也

年月日 何町村長 何ノ 誰

備考 一 醫師診斷書届ハ次葉ヲ集不參ノ例ニ據
ルヘシ

◎豫備後備下士兵卒歸休兵願届

一 聯隊區司令官宛ノ願届共監視區長ヲ經
テ差出スヘシ

一 願届ノ書体ハ階行ニ限リ又壹通タルハ

一用紙ハ半紙一ツ折タルヘシ
一近衛即團豫備後備下士兵卒ニ在リテハ
願届書中年度兵種ノ上ニ近衛ノ四字ヲ冠
スヘシ

●結婚届

何縣郡市町村大字番地
住族籍職業
何某女(姉)(妹)

年號月日生

年號何年何ヶ月

今般熟談ノ上右ニ記載ノ者(ハ入夫)(
ハ嫁養子)結婚致候依テ別紙身元證書相
添へ指出候間御許可被下度此段奉願候也

縣郡市町村大字住

明治何年徵兵々種番號

年月日

何縣隊區司令官姓名殿

●身元證書

何縣何郡村大字番地
族籍職業何某何女

年號月日生

右ハ行狀端正ノ者ニ有之候間此段致保證
候也

何(縣)郡(市)町(村)
市(町)(村)長姓名

●婚姻濟届

何縣郡村大字番地
住族籍職業何某何女

年號月日生

明治何年月日御許可相成候ニ付何年月日
(入夫)(嫁養子)婚姻相整へ候間此段御届
申上候也

縣郡村大字番地住

明治何年徵兵々種番號

年月日

何縣隊區司令官姓名殿

市町村長ヲ經テ届出ヘシ

備考 豫備后備下士ニ在リテモ此書式ニ據ルヘ

●離姻届

何縣國郡村大字番地住
族籍職業
何某何女

年號月日生

右ハ何年月日婚姻濟ニ處今般双方示談
ノ上致離婚候間此段御届申候也

何縣郡村大字番地住
明治何年徵兵々種番號

年月日

何縣隊區司令官姓名殿

備考 豫備后備下士及上級休兵ニアリテモ此書
式ニ據ルヘシ

市町村長ヲ經テ届出ヘシ

備考 今般勤務演習召集(簡閱點呼)御達相成候
處何々候間今回ノ演習召集猶豫(簡閱點
呼免除)御許可被下度此段奉願候也

●勤務演習召集猶豫(簡閱點呼)免除

何縣郡村大字番地住
明治何年徵兵々種番號

年號月日生

何縣隊區司令官姓名殿

一豫備後備下士ニ在リテモ此書式ニ據ル
ヘシ

市町村長ノ與書調印ヲ要ス
●寄留地簡閱點呼及ヒ諸召集願

明治何年月日迄何縣何郡村大字番地
何某方へ寄留中該地ニ於テ簡閱點呼及ヒ

同地ヨリ諸召集ニ應度候間此段奉願候也

縣郡町村大字番地住

明治何年徴兵々種番號

何年豫備(後備)役何等卒

年月日

何々聯隊區司令官姓名殿

○備考

一豫備後備下士ニ在リテモ此書式ニ據ルヘシ

一本籍市町村長ノ奥書諸印ヲ要ス

一寄留地ヨリ應召ノ許可ヲ得タルトキハ

出發ニ先チ旅費受領人ヲ定メ豫メ委任狀

ヲ渡シ置キ其人名ヲ聯隊區司令官へ届出

ヘシ

●旅費受領人届

某 備

寄留地ヨリ召集ニ應スル事ヲ許可相成候

ニ付テハ其年限中召集ノ際出營旅費受領

人ハ何那村大字番地住何某へ委任致置候

間此者へ御渡シ相成度此段御届申候也

縣郡町村大字番地住

明治何年徴兵々種番號

何年豫備(後備)役何等卒

年月日

何々聯隊區司令官姓名殿

○備考

一豫備後備下士ニ在テモ此書式ニ據ルヘシ

一市町村長ヲ經テ監視區長ニ差出ヘシ

●勤務演習召集願

某 備

明治年月日迄縣郡町村大字番地何某方へ寄

留中(同師管)同旅管ニ於テ勤務演習召集

ニ應度候間此段奉願候也

縣郡町村大字番地住

明治何年徴兵々種番號

何年豫備(後備)役何等卒

年月日

何々聯隊區司令官姓名殿

○備考

一豫備後備下士ニ在リテモ此書式ニ據ルヘシ

一本籍市町村長ノ奥書諸印ヲ要ス

一師管外ニ寄留ノ者ニ限ル

●召集不参届

何 某

今般召集(勤務演習召集及諸召集簡閱點

呼)御達相成候處目下疾病ニ罹リ治療中

ニ付召集ニ應シ難シ候間別紙診斷書相添

ヘ此段御届申上候也

何縣郡町村大字番地住

明治何年徴兵兵種番號

何年豫備(後備)役何等卒

年月日

何々聯隊區司令官姓名殿

○備考

一豫備後備下士及ヒ歸休兵ニ在リテモ此

書式ニ依ルヘシ

⑤診斷書

何縣郡町村大字番地住

何年豫備(後備)役何等卒

何 某

年月日生

右ハ天質強實或ハ何々ニシテ曾テ病ニ罹

リシ事ナシ或ハ病ニ罹ル云々何年何月日

來何病ヲ發シ發來何々ノ症候(現症候ヲ

細密ニ記入スヘシ)アルヲ以テ何症ト診

斷シ何々劑ヲ與ヘ何々ノ法ヲ施シ已ニ何

週ヲ經セシ處何症増加スルニ由リ或ハ何

々症ヲ遺スニ由リ遂ニ危篤ニ陥ル者或ハ

所詮治スヘカヲサル者或ハ爾後何ヶ月ヲ

終サレハ治療セサル者ト及診候也

何縣何郡何村大字番地住

内務省醫術開業免狀所持醫

年月日

●召集不参届

何縣郡町村大字番地

明治何年徴兵兵種番號

何年豫備(後備)役何等卒

何 某

右之者今般召集(簡閱點呼)御達相成候處

刑中ニ付召集ニ應シ難ク警察署證明書相添ハ此段御届申上候也

何縣郡村大字番地住

戸主(本人戸主ナレハ其親族)

年月日

何聯隊區司令官姓名殿

○備考

- 一 證明ハ警察ナキ地ニ在テハ警察分署若クハ巡查駐在所ノ證明書ヲ添附スヘシ然ルトキハ文中警察署アルヲ訂正スヘシ
- 一 豫備後備下士及歸休兵ニ在テモ此書式ニヨルヘシ
- 一 市町村長ノ奥書調印ヲ要ス

◎歸郷届

何隊ニ於テ服役罷在候處何月何日現役満期(願)(病)ニヨリ現役免除(何歸休)被申付何月何日飯宅致候間此段御届申候也

何縣郡村大字番地住

明治何年徵兵兵種番號

何年豫備(後備)役何等卒

何 某

某

何聯隊區司令官姓名殿

○備考

- 一 豫備後備下士歸休兵ニ在ツテモ此書式ニヨルヘシ
- 一 演習召集解散、寄留、旅行(逃亡、失踪等ノ者歸宅セシトキハ何隊以下被申付迄ヲ(演習召集應徵ノ處解散)(何縣郡村大字其寄留(旅行)ノ處何年月日ヨリ失踪逃亡ノ處)ト記スヘシ
- 一 逃亡失踪ノ者歸宅セシトキハ始末書ヲ添へ届ケ出ヘシ
- 一 市町村長ヲ經テ届出ヘシ
- ◎轉住(轉籍)(養子(相續人)届
- 明治何年月何日何縣郡村大字番地某養子(相續人)ニ相成候間新戸籍寫相添ハ此

段御届申候也

縣郡村大字番地住

明治何年徵兵兵種番號

何年豫備(後備)役何等卒

何 某

某

年月日

何聯隊區司令官姓名殿

○備考

- 一 豫備後備下士及歸休兵ニ在テモ此書式ニ據ルヘシ
- 一 轉住轉籍分家ノ者ハ(其養子以下相成)迄ヲ削リ(全戸轉住)(轉籍)(分家)ト記スヘシ但シ轉住轉籍ハ戸籍寫ヲ要セス
- 一 郡市町村長ヲ經テ届出ツヘシ
- ◎出産届

何月何日(弟)(妹)(何男)(何女)出生某ト

命名致候間此段御届申候也

縣郡村大字番地住

明治何年徵兵兵種番號

何年豫備(後備)役何等卒

何 某

某

年月日

何聯隊區司令官姓名殿

○備考

- 一 豫備後備下士及歸休兵ニ在テモ此書式ニ據ルヘシ
- 一 郡市町村長ヲ經テ届出ヘシ
- ◎死亡届
- (某儀父母兄弟姉妹妻子)何某何月何日死亡致候間此段御届申候也

縣郡村大字番地住

明治何年徵兵兵種番號

何年豫備(後備)役何等卒

何 某

某

年月日

何聯隊區司令官姓名殿

○備考

- 一 豫備後備下士歸休兵ニ在テモ此書式ニヨルヘシ
- 一 郡市町村長ヲ經テ届出ヘシ
- ◎復籍届

何縣郡村某養子(親養子)相續人ノ處離縁

何月何日縣郡村大字番地何某何男(兄弟)

ニ復籍致候川新戸籍寫相添へ此段御届申候也

縣郡町村大字番地住
明治何年徵兵々種番號
何年豫備(後備)役何等卒

年月日
何縣隊區司令官姓名殿

○備考
一豫備後備下士及歸休兵ニ在テモ此書式ニヨルヘシ

一郡市町村長ヲ經テ届出ヘシ

◎寄留(旅行)届

今般何々ノ爲メ何年何月何日ヨリ何年何月何日マテ郡町村大字番地某方へ全戸(單身)(寄留)旅行致候間何郡村大字番地何某ヲ以テ通達人ニ相定メ此段御届申上候也

縣郡村大字番地住
明治何年徵兵々種番號
何年豫備(後備)役何等卒

年月日
何縣隊區司令官姓名殿

○備考
一豫備後備下士及ヒ歸休兵ニ在テモ此書式ニヨルヘシ

一郡市町村長ヲ經テ届出ツヘシ

◎届

何月何日縣郡村(村長助役)(何議員)ニ推選セラレ就職致候間此段御届申候也

縣郡村大字番地
明治何年徵兵兵種番號
何年豫備(後備)役何等卒

年月日
何縣隊區司令官姓名殿

○備考
一解職届ハ最初ノ月日ヲ除キ(致候間)ノ三字ヲ(之處)何月何日解職)ニ付ト記スヘシ
一豫備後備下士ニ在テモ此書式ニヨルヘシ

一郡市町村長ヲ經テ聯隊區司令官ニ届出ヘシ

◎死亡届

何縣何郡大字番地住
明治何年徵兵々種番號
何年豫備(後備)役何等卒

右之者何々ニヨリ何月何日死亡致候間此段御届申上候也

何縣郡村大字番地住

戸主(本人)戸主ナレハ親族)

年月日

何縣隊區司令官宛

○備考
一豫備後備下士及ヒ歸休兵ニ在テモ此書式ニヨルヘシ

一郡市町村長ヲ經テ届出ツヘシ

◎逃亡(失踪)届

何縣郡大字番地住
明治何年徵兵々種番號
何年豫備(後備)役何等卒

右之者何月何日家出ノ儘今ハ歸宅不致候

ニ付逃亡(失踪)ト見認候間此段御届申上候也

何縣郡村大字番地住

戸主(本人)戸主ナレハ親族)

年月日

何縣隊區司令官宛

○備考
一豫備後備下士及ヒ歸休兵ニ在テモ此書式ニヨルヘシ

一郡市町村長ヲ經テ届出ツヘシ

◎處刑届

何縣郡村大字番地住
明治何年徵兵々種番號
何年豫備(後備)役何等卒

右之者何罰ヲ犯シ何月何日何裁判所ニ於テ(何々)刑名及刑期ヲ記スヘシ)ニ處セラレ候間此段御届申候也

何縣郡村大字番地
戸主(本人)戸主ナレハ親族)

年月日

何 某

ノ地價取調丈量野取圖相添御届仕候也
 年月日 右地主 何 某
 縣知事宛
 ●拂下(下渡)地届
 大字何々 郡 村
 何番 拂下地ノ例
 字何々
 ○元何々反別何程 (拂下當時ノ地目)
 一田反別何程 何 某
 内反別何程 丈量増
 外畦畔反別何程
 地價何程 何等反金何程
 地租何程
 内何程 何年何月許可ニ付其
 翌月ヨリ十二月迄何
 外何程 何月分月割納租額
 次年ヨリ増スヘキ分
 標準地(何等番)田
 是ハ拜借ノ縁故ニヨリ明治何年何月何日
 第何號ヲ以テ御許可ニ付何年何月何日地

代金納入済 (下渡地ノ例)
 何番ノ内二 ○元無番
 字何々
 舊道敷反別何程 地主 何 某
 一原野反別何程 何
 内反別何程 丈量増
 地價何程 何等町金何程
 地租何程 (何年何月許可ニ付)
 其翌月ヨリ十二月迄何ヶ月分月割納租額
 外何程 次年ヨリ増スヘキ分
 標準地 何番原野
 何等
 是レハ道路路代地トシテ明治何年何月何日
 第何號ヲ以テ御下渡
 何番ノ内二
 字何々○元無番 (直チニ宅地ニ請願ス)
 ○舊道敷反別何程 地主 何 某
 一宅地反別何程 何等反金何程
 地價金何程

計	田	田	地反地○月割	次年ヨリ	沙	許	可
			目別價地	地租	ル地租	年	月

地價金何程
 内何程 何年何月許可ニ付其
 翌月ヨリ十二月迄何
 外何程 何月分月割納租額
 次年ヨリ増スヘキ分
 標準地 何番宅地
 是レハ道路路代地トシテ何年何月何日第何
 號ヲ以テ御許可
 總計

(畑以下做之)
 右ハ今般御拂下(御下渡)ニ付類地相當ノ
 地價取調丈量野取圖相添へ御届仕候也

年月日 右地主 何 某
 縣知事宛
 ●畦畔新設本地減(廢除本地増)届
 大字何々 (新設ノ例)
 何番
 ○田反別何程
 ○地價何程
 ○地租何程
 内
 一田反別何程 畦畔成 地主 何 某
 地價何程
 地租何程
 更正
 田反別何程
 外畦畔反別何程 何等何程
 地價何程 反金何
 地租何程
 何番 (廢除ノ例)
 字何々
 一田反別何程
 ○地價何程

○地租何程
 元畦畔反別何程 地主 某
 一田反別何程 丈量増
 地價何程
 地租何程 標準地 本番
 更正
 田反別何程
 地價何程
 地租何程 畑ノ畦畔モ之レニ準ス
 總計 (式筆以上ニ涉ルトキハ此式)
 (ニ做ヒ總計ヲ付ヘシ)
 地目反別地 價地租 摘要
 右ハ今般畦畔新設本地減(廢除本地増)ニ
 付丈量野取圖相添へ御届仕候也
 年月日 右地主 何 某
 知事宛
 ●地目變換届

大字何々 郡 村
 何番 (字全筆變換ノ例)
 字何々
 ○元畑反別何程
 ○地價何程
 ○地租何程
 一田反別何程 地主 何 某
 內反別何程 丈量増
 地價何程 何等(乙)(丙)
 地租何程 標準地 何等何田 反金何程
 何番 (分裂變換ノ例)
 字何々
 ○畑反別何程
 ○地價何程
 ○地租何程
 何番ノ内一
 ○反別何程 据置地 何等何反金何程
 ○地價何程 土地臺帳首卷ニ掲ケ
 地租何程 反金ヨリ地價地租
 算定ス

○殘畑反別何程
 元反別地價地租ノ内
 ヲリ据置地ニ對スル
 分チ控据セシ額ヲ記
 載ス
 ○地價何程
 ○地租何程
 何番ノ内二
 字何々 地主 何 某
 一田反別何程 丈量増
 內反別何程 何等何反別何程
 地價何程
 地租金何程 標準地(何等何)田
 一何番(變換地ヲ分裂シ控據地合併ノ例)
 字何
 ○畑何反歩
 地價金何圓何錢
 ○地租金圓何錢何厘 地主 何 某
 一田反別何畝歩 丈量増
 內反別何畝歩 地價金何圓何錢
 地租金何圓何錢

壹番ノ内一
 反別何畝歩三番田地へ合併分
 地價金圓何錢
 地租金何錢何厘
 (何等乙)
 (反金何圓何錢何厘)
 內
 壹番ノ内貳
 反別何畝歩何番田地へ合併ノ分
 內反別何畝歩 丈量増
 地價金何圓何錢
 地租金何錢何厘
 (何等乙)
 (反金何圓何錢何厘)
 外
 標準地(何等乙)田
 何番
 一反別何畝歩 地主 何 某
 地價金何圓何錢
 地租金何圓何錢
 (何等乙)
 (反金何圓何錢何厘)

計

(畑以下之ニ做フ)

右分裂(合併)仕度候ニ付御認可被下度丈量野取圖相添此段御届仕候也

右地主

年月日

何 某

縣知事宛

◎丈量野取圖調製心得

一丈量野取圖ハ先ツ本地所屬ノ郡市町村名ヲ標記シ次ニ大字、番地、字、地目、反別(地目反別等ノ變更ニ係ルトキハ元地目反別トモ又殘地或ハ丈量上ヨリ生スル増減アルトキハ其反別トモ)及地主ノ氏名ヲ記載シ次ニ本地ノ形狀ヲ寫シテ各丈量シタル箇所及其間數坪數ヲ記入シ仍ホ隣地ノ地番地目及地付等級等ヲ附記スルモノトス 二凡ソ分裂ニ係ルトキハ圖中其

何番	地價金何程	何等何反金何程
字何々	地租金何程	何等何反金何程
○畑反別何程	○地租金何程	○何等何反金何程
○地價金何程	右合併	
○地租金何程		
何番	○地價金何程	○何等何反金何程
○畑反別何程	地租金何程	
何番何字	合併	何 某
畑反別何程	地價金何程	何等何反金何程
地租金何程	地租金何程	
内反別何程	合併増	
地價金何程	地租金何程	
増	部	減
部	部	部
地目反別地價地租	地目反別地價地租	
田		

區別ヲ明カニシテ各要領(何地成又ハ据置地ノ類)ヲ記入スルモノトス
三實際ニ就キ前各項ノ要件ヲ欠カサル様調製スルヲ要ス

◎官有地拜借願

何國何郡町村大字何字番

何地元反別若干

一實測反別若干

此拜借料一ケ年(一ケ月)金若干

但反金若干

字番

地元反別若干

一實測反別若干

此拜借料一ケ年(一ケ月)金若干

但反金若干

合反別若干

此拜借料金若干

但何ケ年

何ケ月

季拜借

右地所何々用ノ爲メ書面ノ料金ヲ以テ拜借仕度御許可之上ハ御規則遵守可仕候ハ

勿論拜借料金期限通り上納可仕候依之實測地圖並ニ何々書類相添へ此段奉願候也
年月日 何縣何郡何村大字番地
願人 何 某
保證人 何 某
全 何 某
縣知事氏名殿

前書願出候ニ付調印候也
年月日 (身元)町村長何之誰
年月日 (地元)町村長何之誰

◎官有森林原野拂下願
何國何郡何町村大字何字番
何地元反別若干
一實測反別若干

此拂下代金若干 但反金若干
右地所何々ノ爲メ(拂下)要スル事由ヲ明記スヘシ(書面)代金ヲ以テ御拂下被

成下度明治二十四年九月農商務省告示官有森林原野及產物特賣規程ヲ遵守シ此段奉願候也

(以下官有地拜借願書体ニ全シ)

立木竹拂下願

何國何郡何村大字何番
何地内

一立木(竹)若干

此拂下代金若干 種類長目通ノ寸尺異ナル毎ニ如此記スヘシ

何木若干 (但シ長向間何尺目通り何尺何寸但一本金若干)

其代金若干

(一立竹若干)

此拂下代金若干

何竹若干

此代金若干 (但シ何尺何寸回リ)

右立木(竹)何々ノ爲メ (拂下ニ要スル事由テ明記スヘシ)

御拂下被成下度零圖(地所ニ付帶シ出願スルモノハ之ヲ要セス)

相添ヘ(以下官有森林)(原野)(拂下願ニ全シ)

生草拂下願

何國何郡何町村大字何番

何地内

一生草若干 (駄敷又ハ束數ヲ掲クヘシ)

此拂下代金若干 (但シ一駄或ハ一東ニ付金若干)

(魚鳥拂下之ニ准ス但シ魚ハ貫目ヲ以テシ鳥ハ羽數ヲ以テスヘシ)

右何々ノ爲メ (拂下ニ要スル事由テ明記スヘシ)

以下立木竹拂下願書式ニ準據スヘシ

官有原野豫約拂下願

何國何郡何町村大字何番

何地元反別若干

一實測反別若干

此拂下代金若干 但反金若干

何地元反別若干

一實測反別若干

此拂下代金若干 但反金若干

合實測反別若干

此拂下代金若干

此地所開墾(牧畜)用ニ付農業成功ノ上前

記素地代價ヲ以テ御拂下被下度御許下ノ上ハ御規則遵守可任ハ勿論豫定ノ通り事業成功可仕候依之事業方法書收支豫算書實測地圖成功豫定區畫圖木竹調書相添此段奉願候也

何國何郡何村大字番地

願人 何 某

全保證人 何 某

保證人 何 某

年月日

何縣知事氏名殿

本願ハ地元及ヒ身元役場町村長ノ與書調印ヲ要ス

地種組替願 民有地第何種ニ組換ノ例

大字何々(何番)字何々 何郡何村

一田反別何程

外何程

(他ノ地目モ之ニ倣ヘ列記スヘシ)

右ハ公立學校地(鄉村社地)(墳墓地)(用惡水路)(溜池)(堤塘)(井溝)(道路用地)(禁伐林)(公衆ノ用ニ供スル道路)ノ義出願何年何月何日御許可(命令)ニ付民有地第二種ニ組替相成度圖面相添ヘ此段相願候也

右

管理者村長

(地主)

某

某

年月日

縣知事宛

凡 例

一公立學校ハ本願書式文中(出願何字何月何日)(御許可命令)トアルヲ(校舍建築準備整ヒ候)トシ又敷地ノ區域取廣等ニ係ルモノハ其實事ヲ明記スヘシ
一用惡水路溜池堤塘井溝鐵道田地及ヒ公衆ノ用ニ供スル道路ハ工事着手ノ際本願手續ヲナスヘシ

一禁伐林ハ本則書式文中出願ノ二字ヲ除キ其命令ノ年月日ヲ記載スヘシ

一用悪水路道路等ニシテ數筆ニ係ルモノハ其連目セル圖形ヲ一紙ニ調製シテ之ニ四圍接續ノ地目及ヒ地番ヲ記載スヘシ
一壹筆ノ内幾部分ニ掛ルモノハ土地分裂届出認可後本願ノ手續ヲナスヘシ

一民有地第一種ニ組替ノ例
大字何々

何番字何々 何郡何村
一公立學校地(鄉村社地)地主(村持)溜池(井溝)何々) 反別何程 某
右ハ何々(廢止スヘキ事故ヲ記載ス)ノ爲メ使用廢止ノ届出願何年何月何日(御許可命令)ニ付(出)地(何々)ニ變換仕度候間民有地第一種ニ組替相成度圖面相添ヘ此段相願候也

右(管理者)地主

年月日 市町村長何 某

縣知事宛 又ハ 何 某

縣知事宛 土地臺帳謄本下附願 縣郡町村大字

番字 縣郡町村大字番地 一地位反別 所有者 何ノ 誰

右地所ニ對スル土地台帳謄本御下附被成下度手数料相添ヘ此段奉願候也

年月日 右 何ノ 誰

縣知事宛 食料御給與願

縣郡町村大字番地 一白米何斗何升 何ノ 誰

此代金何圓 但 何々相場下白米 一石ニ付金何圓 一人員何人 男何人 十五歲以上 女何人 十五歲以上 一地方税金何程

一所有地反別何程 一地價金何程

右ハ何月何日火災ニ罹リ家屋悉皆燒失シ目下棟梁ニ差迫リ取續ヘキ目途無之難澁罷在候間日數二十日間前記之食料御給與被成下度保商人連署此段奉願候也

年月日 右 何ノ 誰

縣知事宛 保證人何ノ 誰

郡長宛 賣藥請賣願

一明瞭丹 郡町村大字番地 一何々 右營業人何ノ 誰

右賣藥何方今般受賣仕度依テ別紙營業者免許ノ指令寫並約定書相添此段奉願候也

年月日 縣郡町村大字番地 縣知事宛 請賣願人 誰

荷積車御檢印願 (人力車荷積馬車) 縣郡町村大字番地

一荷積車(人力車) 壹輛 何 某 右新調候ニ付御檢印御打渡被成下度此段奉願候也

年月日 右 何 某

縣知事宛 耕作車御檢印願

郡町村大字番地 一耕作車壹輛 何ノ 誰

一耕作車ノ義ハ車稅則ヲ遵守シ農具及肥料ヲ自宅ヨリ耕地ヘ又耕地ヨリ諸作物農具等自宅ニ運搬スル外他ニ一切使用不仕候間免稅御檢印御打渡被成下度此段奉願候也

年月日 右 何ノ 誰

●船舶御鑑札御下渡願
縣郡町村大字番地
一浮漁船 何艘 誰
但シ長ク何間 定製場何々
右ハ新規合船仕候間御鑑札御下渡被成下
度此段奉願候也

年月日 右 何ノ誰
縣知事宛 何ノ誰

●解船解車御届
第何號 郡町村大字番地
一浮漁船 (第何號) 荷積車 何ノ誰
右ハ今般(解船)仕候ニ付(御鑑札)相添此
段御届仕候也

年月日 右 何ノ誰
縣知事宛 何ノ誰
荷積馬車(人力車)讓受渡名願
第號 縣郡町村大字番地

一荷積馬車一輛 讓渡人何ノ誰
縣郡町村大字番地
讓受人何ノ誰
右荷積車讓受渡之義然談相整へ候間名義
更正被成下度此段運署ヲ以テ奉願候也

年月日 右 何ノ誰
縣知事宛 何ノ誰

●煙草營業願
縣郡町村大字番地 營業場
一煙草製造
一煙草仲買
一煙草小賣
右營業仕候間免許鑑札御下渡被成下度此
段相願候也

年月日 縣知事某殿 何ノ誰
製造營業ニハ證約狀ヲ添願出へシ
●煙草仕入 出賣 鑑札下附願
縣郡町村大字番地

製造 仲買營業人何ノ誰
一煙草仕入 出賣 鑑札 何枚 何ノ誰
此攜帶人
右鑑札御下渡被成下度此段奉願候也
年月日 何ノ誰
縣知事宛

●葉煙草耕作届
一苗床(實苗)(買入苗) 何歩
所在地何々
一耕作地何町(村)大字地番 何段歩
此植付見込株數何本

何町(村)大字何々 何歩
何町(村)大字何々 何歩
計 何段歩 此數何本
(接續地ハ一頁ニ合記スルモ妨ケナシ
一煙草ノ種名 何々
貯藏場所 居室構内又ハ何々

右及御届候也
年月日 住所 姓 名印
何葉煙草專賣所宛

●葉煙草納付書
一何種何葉 何包此景目何貫又
右納付修也 住所 姓 名印

●葉煙草專賣所宛
(代理人ヲ以テスルモノハ其ノ姓
名ヲモ記載スヘシ)
何葉煙草專賣所宛

●輸出葉煙草保管願
一何種何葉 何包此景目何貫又
右輸出ニ供シ度候間御保管相成度此段相
願候也 住所 姓 名印

年月日 住所 姓 名印
何葉煙草專賣所宛

●開業届 第一號雛形
寸法堅二尺五寸横七寸用材適宜

何々營業
郡市町村番地
姓 名
何々トハ營業稅雜稅賦課ノ業目ヲ云
何々業 郡市町村番地
何々 氏 名

兼業アル者ハ如此列記スヘツ

●課稅標準届
郡市町村番地

一何々業(課目課額中細) 何 某
但何々商 何 某
一賣上金額 何程
一資本金額 何程
一請負金額 何程
一建物賃貸價格 何程
一牛馬賣買 何程

右之通候也

年月日 右 何 某印
郡市長(町村長)宛

●開業届

郡市町村大字番地商號

一何々業(課目課額中) 何 某
何々商(何々製造) 何 某
但何々(賣上金額資本金額又ハ弟子
雇人幾人使用等ノ如キ課稅
標準ヲ掲)

右ハ今般開業候ニ付此段御届仕候也

年月日 右 何 某印
郡市長宛

●興行御届

何郡何村大字何々番地

一演劇(又ハ何々興行) 何 某
但シ木戸錢(大人何錢)中錢何錢
小人何錢)日數何日間
右ハ來ル何月何日ヨリ頭書ノ興行仕候間

此段御届申上候也

年月日 右 何 某
郡市長宛

●移轉廢業御届

一何々 何郡何村大字何番地
何々トハ御小賣商又
ハ職工ノ業名ヲ云フ 何 某
右ハ從來頭書ノ營業仕居リ候處今何々
(何々トハ轉居先ノ名又ハ廢業ノ事故
ヲ云フ)轉居(廢業)候ニ付此段御届仕候
也

年月日 右 何 某
郡市長宛

●行商鑑札御下付願

何郡何村大字何々番地
營業人何 某
携帶人何 某
(何々トハ行商スヘキ種目ヲ云フ)
右ハ來ル何日ヨリ頭書ノ行商仕候間該鑑
札御下付被成下度此段奉願候也

年月日 右 何 某

郡市長宛

●鑑札書換(再渡)願

一何々免許鑑札 何郡何村大字何々番地 何 某
右頭書ノ御鑑札相受營業仕居候今何々
(何々トハ改名轉居失却毀損等ノ事故ヲ
云フ)御書換(御渡)被成下度此段奉願候
也

年月日 右 何 某
郡市長宛

●質屋營業又ハ改名、代ノ義御届

郡町村大字番地身分 何 某
右ハ質屋營業又ハ(從來質屋營業罷在候
處今般嗣子某ハ(家名相續仕)又ハ(某ト
改名)又ハ(何所ヨリ肩書ノ地ハ轉居營業
仕度段何警察署ハ出願候處別紙寫ノ通り
御許可相成候間此段御届申上候也

年月日 右 何 某
郡市長宛 取締 何之誰

●水車新設、羨願
 何郡何村大字何地内 郡村大字番地
 番 一地目反別 願人 何、誰

此内敷地何拾坪 据付ノ見込
 但シ搗臼何個 (粉挽器械壹組又ハ何組)
 右地内ニ水車新設仕度候ニ付隣地へ協議
 ニ及候處聊カ支障ノ筋無之候ニ付別紙繪
 圖相添ヘ此段奉願候也

年月日 右願 人何 誰
 隣地主何 誰
 全 何 誰
 保證人何 誰
 全 何 誰

備考 郡長宛
 一本願ハ水利上就モ影響ヲ及ホス事件ニ
 付大字部内一同ヨリ異議ナットノ上申書
 ナ郡長ヘ捧呈スヘシ
 一町村長ノ奥書調印ヲ要ス
 ●種穀料御給與願
 郡町村大字番地

一金何圓 何 某
 一人員何人 男何人 十五歲以上
 女何人 十五歲以上
 一耕耘地反別 何程

畑反別何程 但一反何歩ニ付何斗蒔
 此種麥何斗 但上等一石ニ付金何程
 此代金何程 但一反歩ニ付何斗蒔
 田反別何程 但上等一石ニ付金何圓
 此代金何程 但上等一石ニ付金何圓
 此代金何程 但上等一石ニ付金何圓

一地方稅何程
 一所有地反別
 一地位金何圓
 一小作反別何程
 右ハ何月何日火災(或ハ水難)ニ罹リ種穀
 悉皆燒失シ播種差支難澁罷在候間前記之
 種穀料御給與被成下度保證人連署此段奉
 願候也

年月日 右 何 誰
 保證人何 誰
 郡長宛
 ●小屋料御給與願
 縣郡町村大字番地

一金何圓 何 某
 一人員何人 男何人 十五歲以上
 女何人 十五歲以上
 一地方稅金何程
 右ハ何月何日火災ニ罹リ所有ノ家屋悉皆
 燒失シ雨露ヲ凌ク能ハス難澁罷在候間前
 記小屋掛料御給與被成下度保證人連署此
 段奉願候也

年月日 右 何 誰
 保證人何 誰
 郡長宛

(第一號式)
 ●自家用酒製造許可申請
 一製造酒類濁酒(白酒)(燒酎)
 一種別 第一種(第二種)
 一直接國稅納額 何程
 一全 何程

戶主 何 某某
 同居者 何 某某
 家族 何 某某

製造方法及時期
 蒸米何程
 一酒母糲米何程(買入何升)
 一掛米何程 汲水何程
 內 蒸米何程 糲米何程
 此濁酒何程
 汲水何程 何計濁酒何程
 此仕込數何個 何月何日
 製造時期 何月何日
 蒸米、
 二酒母糲米、(買入、)
 汲水、
 一掛米、
 一汲水、
 此仕込數何個 合計濁酒、
 製造時期 何月何日
 三元粕何拾貫目(腐敗清酒又ハ何々程)
 此燒酎何程
 此蒸溜數何回 合計燒酎何程
 蒸溜時期 何月何日

蒸米、
 一掛米、
 一汲水、
 此仕込數何個 合計濁酒、
 製造時期 何月何日
 三元粕何拾貫目(腐敗清酒又ハ何々程)
 此燒酎何程
 此蒸溜數何回 合計燒酎何程
 蒸溜時期 何月何日

四燒酎(清酒)何程

一掛米何程

內 蒸米何程、純米何程

此白酒何程

此仕込數何個 合計白酒何程

製造時期 何月何月

右御許可相成度製造方法等附記此段申請仕候也

年月日 何縣何國何郡市何町村大字何々番地 何 某印

(第二號式)

●自家用酒製造時期(製造方法)變更申告

一酒母(一號式ヨリ變更)セテ廉ヲ記載ス

一掛米、汲水(全上)

此濁酒(全上)

此仕込數(變更セシ個)合計濁酒(全上)數ヲ記載ス

製造時期(變更セシ月)ヲ記載ス

二燒酎及白酒第一號式ニ依リ其變更セシ廉ヲ記載ス

右何月何日申請第一(第二)ニ對シ書面之通變更候ニ付此段申告候也

何縣何國何郡市何町村何々番地 何 某印

年月日 知事宛

(第二號式)

●自家用酒種別(酒類)變更申請

一製造酒類 濁酒(白酒(燒酎))

一和別 第一種(第二種) 製造方法

(第一號式ニ做フヘシ)

前書之通本年十月一日ヨリ變更仕度製造方法等附記此段申請候也

何縣何國何郡市何町村大字何々番地

年月日 知事宛 何 某印

(第四號式)

●自家用酒製造免許取消申告書

明治何年何月何日自家用酒製造御免許相成居候處本年何月何日以後何々(廢止ノ事由詳記スルヲ要ス)ニ依リ製造相廢止候ニ付免許御取消相成度御許可ノ證相添へ此段申告仕候也

何縣何國何郡市何町村大字何々番地 何 某印

年月日 知事宛

濁酒仕込ハ前項ノ記入方ニ同

●農具料御給與願

縣郡町村大字番地 何ノ誰

一金何圓

內譯

金何程

畑 鐵 何 庭

金何程 田能 鐵 全
金何程 萬山 刀 全
金何程 草 鋸 全
金何程 土スルス 何個
金何程 トフミ 全
金何程 臼 全
金何程 杵 何庭

(必用ノ農具以下做之)

一人員何人 男何人 十五歲以上

一所有地反別 女何人 十五歲以上

一耕種地反別 何程

一小作反別 何程

右ハ何月何日火災ニ罹リ農具悉皆燒失シ農事難相成難澁罷在候間前記ノ農具料御給與被成下度保證人連署此段奉願候也

年月日

右 何ノ誰 保證人何ノ誰

郡長宛

●入社申込書(用紙半紙)

貴社報國恤兵ノ主義ニ協同入社致度候條
宜シ御取斗ヘ有之度候也

現住所何縣何郡村大字番地

年月日 何 某

日本赤十字社御中

追テ本文入社ノ上ハ本社保續金トシテ一
ケ年金何圓ツ、出金可致候也

警察署及裁判所ニ要スル諸願届
書式

告訴狀

何縣市(郡町村)番地
告訴人 何 某

何縣市(郡町村)番地
被告訴人 何 某

(何々事件ノ告訴何々トハ罪名ヲ云)

一何年何月何日被告訴人某ハ何々ノ場所
ニ於テ某ニ向ヒ何々ノ兇行ヲナシタリ

若クハ何所ニ於テ加害者ハ何々ト言ヒ自
分カ所持セシ混棒ヲ強奪シ面部及ヒ右肩
胛骨中部ヲ乱打シタリ(凡テ加害ノ模様
原因等詳記スヘシ)

證據

一右等ノ證據ハ犯罪ノ用ニ供シタル混棒
(或ハ何々等犯罪ノ用ニ供シタル物件ア
ラハ各明示スヘシ)若クハ右ノ現場ヲ目
撃シタル某々及ヒ兇行者ヲ引連レ去リシ
某々ノ類)及ヒ別紙醫師診斷書ニ依リ證
據充分ナル者ト被存候
右等ノ事實ト證據トニ依リ刑事訴訟法第
四十九條ニ依リ此段告訴仕候也

年月日 何 某

何裁判檢事(何警察署長)
官姓名殿

備考

一前項ノ被告アリントキハ其現場ヨリ直
接又ハ代人ヲシテ口述若クハ書面ニテ最
寄リ巡查駐在所或ハ警察署ヘ申報スレハ
現行犯トシテ取扱ヲナス故急速申報スル
方得策ナリ何トナレハ現行犯ハ證據明白
ニシテ殊ニ犯人モ現場ニ存在スル故ニ機
ニ臨ミ變ニ應シテ速ニ之ヲ逮捕セサルハ
カラサルニ反シ多少ノ時間經過スレハ事
既往ニ屬シ非現行犯タルヲ以テ事實ヲ搜
探シ然ル後犯罪ノ證據明白トナル時ヲ持
ツテ之ヲ逮捕スヘキ等緩急ノ區別アリ但
シ取扱ハ緩急アルト雖モ刑罰ニ輕重ナシ
看客請フ専門ノ書ニ繕テ参照アレヨ

診斷書

何縣何郡町村大字番地身分職業

何 某

年 齡

右ノ者何年何月何日何所ニ於テ診斷ヲ遂
クル所何々傷何ヶ所(顛頂骨ノ縱合面ニ
於テ長サ何寸深サ骨ニ達スルノ突傷何ヶ
所)又ハ何所何部ニ於テ長サ何寸巾何寸
刀傷壹ヶ所ニ而シテ患者ハ人事不肖ニシ
テ前後時ノ自覺ヲ開診スル能ハサルモ出
血多量脈沈靜体温高進川之何傷ハ致命
傷ナルヲ以テ全癒期ニ難キモノ、或ハ何
週日引續キ治療セハ全癒スル者)ト及診
斷候也

縣郡村大字番地

醫士 何 某

告發狀

何縣何郡町村番地身分職業

何縣郡町村大字番地身分職業
被告訴人 何 某

右被告人何某ハ何々ノ規則ニ違背シ何罪ヲ犯シタルニ依リ左ノ事實ヲ摘記シ告發仕候

一何年何月何日被告人某ハ何所ニ於テ何々ノ所爲ヲナシタリ又ハ(被告人某ハ狩獵規則第四條ニ違犯シ御獵場若クハ墓地公園、社寺ノ境內ニ於テ狩獵シタリ)ノ類等犯罪ノ原因模様等詳細明記スヘシ

右等ノ事實ナルヲ以テ刑事訴訟法第五十三條ニ依リ及告發候也

年月日

右 告發人何

某

何裁判所檢事(警察署長)

官氏名殿

●盜難申報書

縣郡町村大字番地身分職業

何 某

一金何圓

內 壹圓紙幣何枚壹錢銅貨何枚五錢

白銅何枚等詳細記載スヘシ

一絹 又ハ木綿等ノ男單衣物或ハ何枚

但シ何色何縮新古其他袖口襟又

ハ裏等ノ種類紋アレハ紋等詳細

ニ記載スヘシ

此代金何圓何拾錢

一器物 何々

何個

但シ何々

此代金

一米穀

何斗何升

通計代金何拾圓

右ハ何年何月何日何向有之家内一同何所某方へ罷越シ同日何時頃歸宅)或ハ何月何日何時頃家内一同寐臥翌朝起見レハ何々々(候處勝手口ノ錠ヲ捻切リ)或ハ玄関

ハ戸ノ外ニ何々々)開放シ有之ニ付不審ト存シ家内取調候處何々々ニ入置タル前書ノ品々見當リ申不候間盜賊ノ所爲ト存シ候ニ付此段申報仕候也

年月日

右 何 某

警察署長宛

●強盜申報書

縣郡町村大字番地

何 某

一金品目録

(盜難申報書ニ付)

右ハ何年何月何日午後(午前)何時頃私宅へ面部ヲ何ニテ包ミ拔刀(或ハ出刃庖丁竹木棒何々ヲ携ヘタル男何々勝手口(或ハ表雨戸ヲ毀シ又ハ壁ヲ切り或ハ錠ヲ捻切リ)ヨリ押入或ハ私妻子又ハ雇人來客等)ノ寐間ニ至リ聲立候ハ、可切殺ト申威シ何々ノ趣ヲ申聞)其言舌何國言葉ト思料セシヲ認ムヘシ)家中ヲ搜シ何々々

入置タル前書ノ物品(或ハ金錢米穀等ノ類)ヲ奪去リ候間(若シ賊ノ棄置品ノハ其品相添フヘシ)別紙人相書相添ヒ此段申報仕候也

年月日

右

何 某

警察署長宛

●人相書

一男或ハ女

一丈

一肉

一色

一頭

一髮

一眉

一鼻

一齒

一耳

一音聲

何年位

何尺位

太ク或ハ瘦セタル方

九キ或ハ長キ方

青或ハ赤或ハ何々

結髮或ハ散髮

細ク或ハ尖キ何々

細ク或ハ太ク何々

高ク或ハ低シ

大或ハ何々

揃ヘタル或ハ何々

放或ハ何々

サヒレ或ハ高シ又ハ國

一 疵所 有無 但シ有之トキハ 其ケ所

一 痘痕 全上

一 着用衣類 色縞柄其品ノ種類或ハ 性質ハ何々

一 特徴 有無 但シアル時ハ 其ケ所

右之速リニ御座候也

◎失火申報書 縣郡町村大字番地身分職業

一 居宅一棟(或ハ何棟)燒失何 某

一 間口何間與行何間

一 類燒 何戸

右ハ何年何月何日午前(後)何時頃家内一 同寐臥居候處居宅何ノ方向ニ火聲相聞ヘ 驚キ起出見タルニ家屋一圓火焰ニ相成リ (或ハ何所ヨリ何所ヘ燃ヘ移リ)候ニ付高 聲ニ呼立タルニ家内ノ者ハ勿論近隣ノ者 打寄り消防致シ候ヘ共遂ニ難消止前書ノ 通り燒失仕リ(或ハ消止候依テ火災ノ原

因取調候處居宅ニ接キタル物置ヨリ(或ハ何ノ所ヘ)入置タル藁灰ヨリ發火致シ 候義ト被存候尤モ人畜死傷無御座ニ或ハ 何死傷有之ニ此段申報候也

年月日 右 何 某

何々警察署長

官氏名殿

備考 右ノ外各種ノ災害ニ罹ルトキモ此書式ニ 做フヘシ

宅地境界線ヲ引キ家屋ノ有形ヲ明記シ燒 失ト半燒或ハ不燒等明細圖ヲ添付スヘシ

◎旅人宿 又ハ下宿屋 宿開業願 私家何郡何町村大字何々番地ニ於テ旅人 宿營業仕度候間御免許被成下度別紙建物 坪數及ヒ間取明細圖相添ヘ此段奉願候也

原籍寄留身分

年月日

姓

年 名 令

營業者未丁年ナルトキハ後見人運署スヘシ

警察署長宛

◎飲食店開業願 何郡何村大字何々番地 身分職業 何 某 年 令

私義肩書ノ地ニ於テ飲食店營業致度候ニ 付御許可被成下度此段奉願候也

年月日 右 何 某

所轄警察署長宛

◎質屋營業又ハ取締鑑札 御書換御下附ノ儀願 郡町村大字番地身分 何ノ 誰

右ハ質屋取締條例及ヒ本縣質屋取締細則 遵守シ質屋營業仕度候間願意御聞届質

物置帳ヘ御認印ノ上取締鑑札御下付被下 度此段奉願候又ハ(從來質屋營業罷在候 處今般嗣子某ヘ家名相繼仕リ)又ハ(某ト 改名)又ハ(何所ヨリ肩書ノ地ニ轉居又 ハ(例年月日何々ノ事由ニヨリ取締鑑札 亡失)候間御鑑札御書換又ハ御下附被下 度(鑑札書換ノ節ハ舊鑑札返納ト記ス)此 段奉願候也

年月日 右 何ノ 誰

取締 何ノ 誰

警察署長姓名殿

◎古物商營業願 郡村大字番地身分 一何々營業 何 某

兼業スル者ハ其種類ヲ列記スヘシ

右ハ古物商取締條例及本縣古物商取締細 則ヲ遵守シ前書ノ通り古物商營業仕度候 間願意御聞届ノ上取締鑑札御下渡被下度

但 東京府ハ警視總監
北海道ハ長官宛

(第三號)

●銃砲買取願

一外國製ピストル銃 何 挺

右ハ今般護身用ノ爲メ何縣何郡何村何番地銃砲免許商何某ヨリ買取度候間何卒御許可ノ上免許手形御下附被成下度此段奉願候也

年月日 住所族籍 姓名 年令

縣知事何某殿

(第四號)

●彈藥買取願

一外國製ピストル銃用彈藥 何發

右ハ今般護身用ノ爲メ何縣何市何番地火藥免許商何某ヨリ買取度候間何卒御許可被成下度此段奉願候也
住所族籍

年月日 姓名 年令

何々警察署御中

●狩獵免狀下附願

郡村大字番地 身分職業 何 某 年令

一散彈銃 壹挺
或ハ 壹挺
一火繩銃 壹挺
但シ玉匁何匁

右銃砲ヲ以テ(乙種獵獵)乙種遊獵仕度候ニ付御許可被下度最モ狩獵規則第二十一條ノ御處分相受候事無之候間鑑札御下渡被下度此段奉願候也

年月日 縣知事何某殿

備考 一本願ハ所轄警察署へ捧呈スルモノナリ
免許料金壹圓納付スヘシ散彈銃ハ玉匁ヲ

要セス狩獵規則第二十一條ノ處罰ヲ受ケタルトキハ其年月日ヲ詳記スヘシ同條ノ處罰ヲ受ケタル者ハ其效力ヲ失フ

●銃砲讓與御願

何郡何村何平民何 讓與人何 某
何郡何村何平民何 讓受人何 某

(但シ玉目何匁)

一散彈銃、火繩銃) 何 挺
右讓與人某ニ於テ是迄所持數シ來リ候處今般讓受ノ義約束相整へ本月何日讓受仕候間此段以連署及御前候也

年月日 何 某

知事宛

備考

一此届書ハ所轄警察署へ捧呈シ銃籍ノ書

替テ求ムヘシ讓受渡ヲ締結シタル日ヨリ十日以内ニ届出サルモノハ科料ニ處セラレ讓受渡人所轄警察署ヲ異ニスルトキハ双方へ届出ヘシ

●威銃免許願

何郡何村大字番地身分 一和銃 何 某
一洋銃 何 某

右ハ私所有(小作)田或ハ畑地鳥獸ノ被害不少ニ付何月ヨリ何月迄何ヶ月間威銃御許可被成下度依テ別紙被害地反別及植物鳥獸名調書並ニ圖面相添へ此段奉願候也

年月日 郡長宛 何ノ誰

●被害地反別及植物鳥獸名調書

何郡何村大字何番字 一田反別何反何畝歩

是ハ何月中旬中稻或ハ陸稻播種爾後何月間何々鳥獸害ヲ爲ス又ハ結實ノ候何月ヨリ收穫ノ候何月迄何々鳥獸害ヲ爲スノ類都テ植物及ヒ鳥獸名並ニ被害ノ季節等ヲ詳記スヘシ

何番字何
一林反別何町何反歩
是ハ何月中旬ヨリ天蚕飼育又ハ杉檜苗等播種以下同上
以下斯如一筆限リ記載スヘシ
右之通りニ候也
年月日 何 某

◎實地畧圖
南私林
東 何番
野原 田何反何畝歩
北官林 何々播種
田 西

東 何番
林何町歩
天蚕飼育
畑 西

此圖面ハ可成四隣ノ景ヲ摸寫スヘシ
◎遺失物御届
何郡何村大字何々番地
身分職業
一黒皮蓋口 壹個
但シ紐付左ノ物件在中
壹圓紙幣何枚
貳拾錢銀貨何枚
何證 何通
右者何地某方へ用向有之候ニ付右蓋口懐中ノ上明治何年何月何日何時頃ヨリ出頭中何地ニ於テ風下懐中ヲ探リ見ルニ囊キニ懐中シタル蓋口無之ニ付早速立戻リ搜索スルニ更ニ見當リ不申右公自宅ヨリ何

地ノ間於テ遺失仕候モノニ御座候間此段御届申上候也

年月日 右 何 某
警察署長宛
◎紛失御届
何郡何村大字何々番地
身分職業 何 某
一實印 壹個
但シ水牛丸印ニテ自分姓名彫刻

右ハ本年何月何日ノ内ナリキ何々用ノ爲メ使用候儘自宅勝手座敷箆筒(又ハ何箱)ニ入レ置候處本日使用ニ際シ右ノ箇所開キ見ルニ斗ラスモ右印影ハ現存セサルニ依リ若シモ他ニ入レ置キタルニハ非ナルカト篤ク取調候ヘ共見當不申紛失候モノニ相違無之候間此段御届申上候也
右 何 某

年月日 何 某
警察署長宛
◎得遺物御届
何郡何村大字何々番地
身分職業 何 某

一黒皮蓋口 壹個
但シ紐付左ノ物件在中
壹圓紙幣何枚
貳拾錢銀貨何枚
何證 何通
右ハ明治何年何月何日何地へ用向有之出頭ノ途次何村何地何々ト稱スル道路ノ片側ニ於テ發見拾得候ニ付現品相添へ此段御届候也

年月日 右 何 某
警察署長宛
◎家出人搜索御願
何郡何村大字何々番地
身分職業

某ノ妻又ハ長男長女雇人ノ類
何 某

何郡何村大字何々職業
何 某

右ハ何年何月何日夜何時頃近隣某方へ用
事有之候ニ付書狀ヲ持參爲致（又ハ入浴
至サントテ罷出）候處全夜歸宅不致候故
不審ト存シ心當リ今日迄相尋子候へ共見
當リ不申就テハ失踪候備ト被考候（又ハ
本人ハ平常出京云々ハ事友人間ニ於テ相
話シ居リ候哉ニ付同地方ニ徘徊スルヤト
モ存知出京仕リ相尋子候へ共見當リ不申
）本人歸宅不致候テハ家政上困難ノ点不
明ナルノミナテス金錢取引上實ニ差支候
間御搜索被下度別紙人相書相添へ此段奉
願候也

年月日 右 何 某

警察署長宛
●人相書

一身丈々何尺位 肉太リタル方 頭散髪
又ハ結髪ニテ少シク白毛ニ生ス 目耳口
並 顔丸キ方痘痕少シアリ 色白キ方
齒白ク又ハ染アリ 特徴左ノ足脛ニ何疵
アリ
出立當時ノ着衣及ヒ所持品
一黃縵綿八丈袷、越後系織蠶縵綿袴、博多
黒無地帯、黒八丈丸ニ三ツ柏紋壹ツ付羽
織、黒山高帽子、甲斐絹蠶縵傘、龍頭巻金
皮時計星印一八六五號 等各壹点金參百
五拾參圓但シ壹圓五圓拾圓紙幣取集メ其
他カハン風呂敷等モ持參セシモノト思料
ス
右之通り相違無之候也

警察署長宛
●人相書

●人力車營業願

私義何郡何町村大字何々番地ニ於テ人力
車營業仕度候間御免許被成下度身元保證
金並ニ上納書相添へ此段奉願候也

年月日 原籍寄留身分 姓 名 年齢

營業者未丁年ナルトキハ後見人連署ノ事
何組人力車營業取締

警察署長宛

●身元保證金上納書

一金何圓
右ハ人力車營業仕度候ニ付身元保證金ト
シテ上納仕候也

年月日 族籍寄留身分 何組人力車營業取締 姓 名

縣知事宛

●人力車腕子用

原籍寄留身分 姓 名 年齢
右ハ規則第二十條第二十一條ニ抵觸セサ
ル者ニ付私方腕子ニ相抱候間御鑑札御下
附被成下度此段御届仕候也

年月日 何組人力車營業人 全上取締 姓 名

警察署長宛

●營業者 自ラ腕子トナルトキ 鑑札用替式

私義人力車營業仕居候處規則第五條ニ從
ヒ腕子稼業仕度候間御下附被成下度此段
御届仕候也

年月日 肩書前ニ今シ 姓 名

警察署長宛

●廢業届

私義人力車營業仕居候處今般廢業(又ハ廢車若クハ車ノ賣渡シ讓渡シ)候ニ付免許證(車体檢査證)相添ヘ此段御届仕候也

年月日

姓名

警察署長宛

●轆子解備

又ハ失踪逃亡死去届
原籍寄留身分

姓名

右ハ私方轆子ニ相抱置候處何月何日解備(又ハ失踪逃亡死去)致候ニ付鑑札相添ヘ此段御届仕候也

年月日

何組合人力車營業人
全上取締人
姓名

警察署長宛

●碑表建設願

郡市町村大字何々番地

身分 氏 名

右ハ祖父又ハ親戚若クハ舊友某何所何墓地ニ埋葬有之處該墓地ヘ又ハ(又ハ某ノ事蹟ヲ奏スル爲メ墓地外何所ヘ)別紙碑表建設致度候間此段奉願候也

年月日

右 氏 名

警察署長宛

前書之通り願出ニ付調査候處相違無之ニ付與書調印候也

村長 何 某

●碑表

縦何々何寸
横何々何寸
誌銘傳贊等其碑表ニ刻スル全文ヲ表裏左右ニ別テ記載スヘ

●駱馬御届

何郡何村大字番地

一牡馬一頭

何 某

右者農馬(又ハ乘馬)トシテ普養致シ來リ

候處何日ヨリ發病ノ徵候ニ付治療差加ヘ居リ候處今何日何時踏馬候ニ付別紙獸醫ノ診斷書相添ヘ此段御届候也

年月日

右 何 某

何警察署長官氏名殿

添備考

以埋没若クハ燒棄解体前獸醫ノ診斷書ヲシヘ所轄警察署ヘ届出サルモノハ五拾錢上壹圓九拾五錢以下ノ科料ニ處セラル但傳染病ハ同則ニ依ル

●瘋癩人届

何郡何村大字何々番地
身分戸主何某(續柄)

何 某

年 齡

右者何年何月頃ヨリ發狂之徵有之候ニ付種々治療差加ヘ來リ候處漸々全治ノ模様

相見ヘ候間益々施設仕候處昨今ニ至リ再發仕候間明治何年何月縣令甲第何號瘋癩人取締規則第何條ニヨリ別紙醫師診斷書相添ヘ最近ノ親戚以連署御届申上候也

年月日

右 (戸主)何 某

親戚 何 某

親戚 何 某

所轄警察署長氏名殿

●診斷書

何郡何町村大字何々番地

平民農某何男

何 某

年 齡

右ハ後大性瘋癩症ニシテ其發作時ニ當テハ自他ノ危害ヲ來スシキヲ保シ難シ依テ豫メ之レカ適當ノ處置ヲ要スヘキ者ト及

診斷候也

何郡何村大字何番地
年月日 醫士 何 某

○變死人届

何郡何村何番地

(身分)(職業)

(戸主)何某何(男女)

何 某

年 齡

右何某儀ハ明治何年何月頃ヨリ發狂候ニ付爾來何郡村大字何番地醫士何ノ誰ノ治療相受居候處目下農業繁多ノ秋ニ付看護ノ儀ハ妻某ニ申聞ケ自分ハ早朝ヨリ家族一同ト俱ニ大字何々字何ト稱スル田地ニ罷越シ耕耘シ居リ候處明治何年何月何日午后何時妻某何處ニ馳セ來リ醫父母兄弟姉妹某儀自殺傷セシ旨申聞ルニ依リ直チニ歸宅候處某儀ニ咽喉ニ突傷ヲ負ヒ身

躰ニ塗レ變死云々致居ルニ付直チニ抱キ上ケ疵口ハ有台セタル手拭ニテ括リ猶ホ介抱致シ居リ候處隣家某等馳セ來リ候ニ付不放取伺ハテ御届申上候也

年月日

何警察署長殿

○檢察書

何郡何村何番地

族籍職業

何 某

年

一創傷壹ヶ所

但第三頸椎ノ部位ニ於テ

氣管食管及ヒ右側總

頸動脈ヲ切斷ス

右被命檢案何年何月何日何郡何村何番地何ノ某方ニ於テ檢案ヲ遂ケル所傷所ハ前記ノ致命傷ニテ看護人參考上ノ問診及

ヒ傷狀ヲ診查スルニ發狂ノ爲ノ自殺シタルモノニ相違無之ト及檢案候也

何縣何郡何村大字何番地

醫士

何 之 誰

明治年月日午前八時始

何年何月日午後九時終

何警察署長(何裁判所)

官氏名殿

○始末書

一自分儀何之誰妻ニ有之候處夫ノ實父母兄弟姉妹某儀何年何月何日頃ヨリ發狂候付ニ爾來醫員某ノ治療相受居候處目下農業繁多ノ折柄故夫某儀ハ早朝ヨリ外家族ト俱々何所耕地ハ農業ニ罷越シ候ニ付自分一人ニテ某ヲ看護罷在候處午後何時頃ヨリ某儀無余念体ニ午睡致候間此際患者ノ汚穢物ヲ洗濯可致ト存シ廊内并戸端ニ至リ汚物ヲ洗濯致居候處某ノ音聲コテ

怪シキ聲アルヲ聞キ付候間直チニ家内ニ至リ見ルニ某儀鎌ヲ以テ咽喉ヲ突キ身体

血塗レ倒レ居ルニ付不取致鎌ヲ取揚ケ見ルニ早ヤ既ニ呼吸云々ニ付直チニ夫某カ

農業致シ居ル場所ニ馳セ行キ右ノ始末相報シ俱々歸宅介抱ニ盡力致居處隣家某等

馳セ付來リ吳レ候間不敢取右ノ始末同人サニ御署ハ御届申上候處御檢視トシテ御

出張相成リ御取調ノ上某ノ自傷セン鎌ノ

出所等御尋子ニ有之處夫某ヨリ申立候如ク從來自定ニ有合セタル鎌ニ相違無之候

右尋問ニ付始末台体申立候也

郡市町村大字番地

身分職業何某妻

年月日

檢視官姓名殿

○人殺傷申報書

縣郡村大字番地身分職業

右ハ何年何月何日午前(后何)時頃家族一同寢臥(或ハ夜業致シ居リ又ハ何々)候處何郡何村何某(或ハ何人トモ知レサル年齡何才位ノ男一人又ハ何人)門戸ヲ押開ケ白刀ヲ携ヘ突然這入り來リヤ否無官或ハ何々ト申聞ケニテ長女某ヲ或ハ女子雇人ヲ殺害シ或ハ負傷セシメ逃走候ニ付人相書相添ヘ此段申報仕候也

年月日 何 某
警察署長宛

人相書ハ強盜申報書ニ付帶セル諸目ニ做

●民事訴訟書類ハ凡テ用紙美濃紙トス
●貸金支拂命令申請書
債權者 縣郡町村番地身分職業 氏名
債務者 縣郡町村番地身分職業 氏名

一金何圓何拾錢 元金
一金何圓何拾錢 利子
明治何年何月ヨリ何年何月マテ
一金何錢 書記料金何錢 日當金何錢
印紙料金何錢 手数料金何錢 送達費
合計金何圓也 支拂命令請求高
債務者ハ明治何年何月何日限リ右金額ヲ辨償スヘキ處期日ニ至リ支拂ヲナササルニ依リ支拂命令ヲ發セザレ度候也

年月日 債權者 氏 名
何區裁判所
判事何某殿

一支拂命令申請人ニ於テ債務ヨリ異議ノ申立アリタルトキハ左ノ式ニ做ヒ名刺ニ訴訟物ニ相當ナル訴訟印紙ヲ貼用シテ差出スヘシ

●名刺式

民事第何部 何縣何郡村番地身分職業
年度(ハ)何號 原告 氏 名印

何縣何郡何町村番地 某
右訴訟代理人何 某

被告何縣何郡町村番地身分職業何某外何人ニ係ル何々ノ事由(訴ヲ起ス事由ヲ明ラカニ記ス例令ハ何年何月ニ金何圓ヲ貸與シ返濟期日ナル何年何月何日ヲ過キ返濟セサルノ類)ニ基キ何々(請求ノ目的物ヲ掲ケ例令ハ元利金何程ノ類)ヲ請求スル貸金事件ニ付キ年月日出頭

●假執行宣言申請書

債權者及債務者記載例
支拂命令ニ全シ

請求金額 支拂命令申請書
一金何圓

假執行申請費請求
内譯何錢日當或ハ書記料ノ類
合金何圓錢 假執行請求高
債務者ハ年月日送達ノ資金支拂命令ニ對シ相當ノ期日内ニ異議ノ申立ヲナサス亦タ辨濟ナササルニ依リ假執行ノ宣言被下度此段申請仕候也

年月日 右 何 某
何區裁判所
判事某殿

備考

本願ハ支拂命令ヲ送達後裁判所ヨリ下付セザレ執行命令ヲ添ヘ出願スヘシ

有体動産差押 申請書
不動産假處分 申請書
(原告被告記載ノ例ノ訴訟ニ全シ)
假處分ノ物件

何郡何村大字何番字何々

一 地目反別 何程 持主 何 某
(以下做之)

右被告某ニ對シ何年何月何日賣渡シ全年
何月何日迄ニ金圓調達スルトキハ之レヲ
買戻シ得ルノ約ナルニ被告ハ該買戻シヲ
背ンセサルニヨリ本日地所買戻ノ訴ヲ御
廳ヘ提起仕候ヘ共若シ該地ヲ公賣等被致
候テハ訴訟ノ目的ヲ失シ候ニ付(若クハ
債務者ハ他ノ負債ノ爲メ財産隠匿ノ模様
有之候間)本訴訟結了ニ至ル前記ノ地所
假處分ノ御命令相成度(債務者所有ノ有
体動産差押ノ御命令相成度)此段申請仕
候也

年月日 右原告(若クハ) 某
代理人何 某

何裁判所
判事何ノ誰殿
◎強制競賣申立書

印紙
(債權者及ヒ債務者記)
載例支拂命令ニ全シ

請求書金額

一金何圓 支拂命令申請高
一金何圓 假執行申請費用
一金何圓 強制競賣費用
合計金何圓何錢 請求高

強制競賣物件左ノ如シ
何郡何村大字何地内
字番一 地目反別何程 持主何 某
若クハ

一何々 (衣類器物何々ノ類)何点
右ハ債權者某ヨリ債務者某ハ係ル貸金催
促ノ事件ニ對シ附屬第壹號證ノ如ク執行
命令書下付相成タルニ付至急競賣申成度
此段奉願候也

年月日 右 債權者何 某
何裁判所
判事某殿

欠

MISSING

呈スル者ナリ
 一代人ナルトキハ此書式ニ依リ本人ノ調
 印ヲ要セス(凡テ代人ノ認メキ同シ)
 一印鑑ハ身元役場ヨリ横一寸豎五寸(曲
 尺)ノアツト紙ニ左ノ式ノ如ク證查ヲ乞
 ヒ所轄登記役所ニ呈呈シ置ヘシ其後改印
 スルトキハ次頁改印届ノ書式ニ據ルヘシ

五寸

身元 郡村大字番地
 役場 印鑑 何之誰
 之印 寸

●委任狀

拙者義地所賣買讓與登記請求事件ニ付
 郡村大字番地何ノ誰ヲ以テ部理代人ト相
 定メ左ノ權限ノ事ヲ代爲致候事
 國郡町村大字地内

字一何反何步

右地所國郡村大字番地何某へ(又ハ何某
 ヨリ)明治年月日金何圓ヲ以テ賣渡シ(讓
 渡シ)(買受)(讓受)候ニ付何區裁判所(何
 々出張所)ニ出頭其登記願ニ關スル一切
 ノ件

右代理ノ委任狀仍テ如件

年月日 郡村大字番地 何ノ誰

備考

一壹筆ノ地所ヲ二名以上ニテ共同賣買讓
 與ナスルトキハ本文ノ始ノ拙者義ヲ拙者
 共ト記載シ未文ノ氏名ヲ各自住所共明記
 スヘシ
 一出願ノ地所書入(買入)中ナルトキハ何
 反步ノ左方ニ右地所ハ何郡何某へ書入中
 ト記載シ調印ヲ買受人又ハ讓受人ニ在リ

テハ書入アルコトヲ了知スト認メ調印人
ヘシ以上做之

◎地所賣渡(讓渡)證

國郡村大字番地

持主 何 某

番一地位反別

(每筆共列記スヘシ)

(右地所郡村某ハ書入中承諾)(買受人印)

此賣渡代金何圓也

右地所何筆代金何圓ニテ賣渡シ其代金正
ニ受取申候(又ハ地所何筆代價ニテ正ニ
讓渡シ)後日ノ爲メ證書仍如件

年月日 町村大字番地

何郡村大字番地 賣渡人何ノ誰

備考 何ノ誰殿

此賣買(讓渡)證書謄本ハ正本ノ通り騰寫
シ印紙ヲ貼用シタル備所ハ印紙ノ形式ニ
當シ何ノ誰殿ノ次ニ(右正本ニ依リ騰寫

仕候也)ト認メ其次ニ賣買人双方ニテ署
名押印スル者ナリ

一凡テ登記願ノ謄本ハ右ノ如ク認ムヘシ
買入書入ノ如キモ勿論其證者ヲ其儘騰寫
シ本文ノ如ク認ムヘシ

◎名刺

郡村大字番地

負債主(買入主)何 某

地所書入(買入)ニ付登記願

貸借金何圓

此登記料何圓

郡村大字番地

年月日 債主(買取主) 何 某

◎委任狀

印紙

拙者義地所書入(買入)登記請求事件付ニ
付何郡何村大字番地何某ヲ以テ部理代人

ト爲シ左ノ權限ノ事ヲ代理爲致候事

國郡村大字地内

字番地地位反別何反步

右地所(書入トシテ)何國何郡何村大字何
々番地何某方ヨリ又ハ(何某方ヘ)明治何
年何月何日金何圓受借(又ハ貸與)若クハ
質入質取ノ類ニ候ニ何々付區裁判所(何
々出張所ニ)出願其登記願ニ關スル一切
ノ件

右代理委任狀仍如件

年月日 郡村大字番地 何 某

備考

一連借入在ルトキ、地位反別ノ下ニ持主
記入スヘシ(證書ヲ做之)

一初行目拙者ノ下ニ其ノ一字ヲ加フ

◎地所書入(質入)金圓借用證

一金何圓也 但年利何割何分

此入地左ノ如シ

國郡村大字番地

字番一何反別何反步

右地所書入トシテ(買入トシテ)頭書之金
何百圓正ニ受取借用仕候處明確也御返金
ノ期限ハ來ル明治何年何月何日ト定メ右
利子ハ歲々年末ニ無相違濟方仕リ期限ニ
相成リ候ハ、元金及ヒ利子等聊カ無相違
皆濟仕可候若シ萬々一ニモ本人ニ於テ義
務相盡シ兼候節ハ保證人ニ於テ悉皆引受
辨償仕リ貴殿へ聊カ御損害相掛不申候爲
後日證書如件

年月日 町村大字番地 借用人何 某
保證人何 某

縣郡村

備考 何 某 殿

一證書謄本作製方前葉賣買證書ノ書式ニ

依ル其他凡テ参照
一 質入ノ地所質地證トシテ双方ノ契約ハ
締結シタル條件ヲ記載スル者ナレハ勿論
ナルカ故ニ茲ニ其大要ヲ示セリ

◎名刺

郡村大字番地

負債主何

某

地所書入(質入)登記取消願

此手數料金五錢

郡村大字番地

年月日

債主何

某

備考

一本文取消願ハ其双方本人出頭スレハ此
名刺ハ證書先ニ登記済アル書證ノ表面ニ
(表書ノ金額元利正ニ受取候也)ト記シ年
號月日債權者ノ署名捺印シタルモノノミ
證書ヲ捧呈スレハ可ナリ

◎委任狀

何ノ誰

某

拙者義地所書入(質入)登記取消願求事件
ニ付何郡何村大字番地何ノ誰ヲ以テ部理
代人ト相定メ左ノ權限ノ事ヲ代理爲致候
事
國郡村大字地地内
番一 地目反別
右地所(書入)質入トシテ郡村大字番地何
ノ誰方(若クハ何某方ヨリ)明治年月日
金何圓貸與(借用)候處明治年月日元利(返
買地ニ在リテハ元利ノ文字ヲ削除ス)返
金濟ニ付何々區裁判所(何々出張所)ニ出
頭其登記取消願ニ關スル一切ノ件ヲ處辨
スル事
右代理ノ委任狀依テ如件
年月日 郡村大字番地
備考 何ノ誰
連借人アルトキハ地所ノ下ニ持主記入ノ

事 一 初行拙者義ヲ拙者共義ト改メ連署
スル事

◎名刺

地所變更登記願

此手數料金五錢

何郡村大字番地

年月日

願人何

某

◎委任狀

拙者義地所變更登記請求事件ニ付郡村大
字番地何某ヲ以テ部理代人ト相定メ左ノ
權限ノ事ヲ代理爲致候事

何縣何郡村大字何々地内

○二千五百番 一畑八反七畝十三步

○字何 二 二千五百番 一畑九反二畝十五步

字何 内反別五畝貳步 丈量増

右地所私所有ニシテ既ニ朱書ノ通リ登記
相成候處明治二十二年十月二十二日地押
調査上前書墨書ノ通リ訂正相成候ニ付何

區裁判所何々出張所ニ出頭其變更願ニ關
スル一切ノ件ヲ處辨スル事

右代理ノ委任狀仍テ如件

年月日

何郡村大字番地

某

◎地所變更登記願

何國何郡村大字番地内

○二千五百番 一畑八反七畝十三步

○字何 二 二千五百番 一畑九反二畝十步

字何 内反別五畝二步 丈量増

右地所私所有ニシテ既ニ朱書ノ通リ登記
相成候處明治二十一年十月二十二日地押
調査上前書墨書ノ通リ訂正相成候ニ付變
更ノ登記被成下度此段奉願候也

年月日

何郡村大字番地

某

何區裁判所

何々出張所御中

●名刺

何郡何村大字番地
遺産人亡何 誰

地所 遺産相續ニ付登記願
建家 此筆數何筆

此建物價格金何圓
此登記料金何圓

何郡村大字何番地ノ實父
何誰亡跡 相續人何 某

年月日

●死亡及相續證明願

何郡村大字番地

年月日死亡

亡何 某

年月日相續

相續人何 某

右御證明被成下度奉願候也

年月日

村長氏名殿

●委任狀

印紙

拙者該遺產相續登記請求事件ニ付何郡何
村大字何々番地何某ヲ以テ部理代人ト爲
シ左ノ權限ノ事ヲ代理爲致候事
何縣郡村大字番地内

何番字何々

一何反別何歩

外何筆

右地所建物何郡何村大字何々番地死亡父
何之誰所有ノ處明治何年何月何日死亡候

ニ付全年何月何日私義遺跡相續隨テ前記

ノ地所相續致候間何々區裁判所何々出張

所ニ出頭其登記願ニ關スル一切ノ件

右代理ノ委任狀仍テ如件

年月日

何郡何村大字何々番地

年月日

●遺產相續ニ付登記願

何郡何村大字何

●名刺

何郡何村大字何々番地
讓渡人何 之 誰

地所 家督相續ニ付登記願
建家 此筆數何筆

此建物價格金何程

此登記料金何圓

年月日

何郡何村大字何々番地
讓受人何 之 誰

●退隱跡相續證明願

何郡何村大字何々番地

何年何月何日相續

何 某

何年何月何日退隱

何 某

年月日

右御證明被成下度奉願候也

村長氏名殿

●委任狀

何番 一地目反別何程
字何

(以下此式ニ依リ列記スヘシ)

右地所建家何郡何村大字何々番地死亡父何
之誰所有ノ處何人義ハ明治何年何月何日

死亡ニ付親族協議止今年何月何日私義

遺跡相續隨テ前記ノ地所相續致候間遺產

相續ノ登記被成下度親戚連署ヲ以テ此段

奉願候也

年月日

何縣何村大字何々番地
相續人何 之 誰

何郡何村大字何々番地

亡何某從弟(甥)

何 某

何郡何村大字番地

亡何之誰從弟

何 某

何々區裁判所

(何々出張所)御中

拙者義家督相續登記請求事件ニ付何郡何村大字何々番地何ノ誰ヲ以テ部理代人ト爲シ左ノ權限ノ事ヲ代理爲致候事

何郡何村大字何地内
字何 一 地目反別何程
番

外何筆

右地所建物何郡何村大字何々番地何之誰
(又ハ私)所有ノ處全人義ハ明治何年何月何日退隱全年全月全日私義家督相續致候
(又ハ何ノ誰)(家督相續爲致)隨テ前記ノ地所讓受(讓渡)候ニ付何々區裁判所(何々出張所)ニ出頭其登記願ニ關スル一切ノ件

右代理ノ委任狀依テ如件

年月日

何郡何村大字何々番地
何ノ誰

備考

此外地所讓渡證ヲ正副二通ヲ要スレトモ前葉賣買(讓與)ノ證書ト同様ノ書体ニ依リ該文ニ依リ作製スヘシ
家屋ハ宅地境界線及ヒ建家ノ圖形ヲ記載シタル繪圖ヲ付スヘシ
證書文中無代價ト明示スヘシ

◎名刺

何郡何村大字何登記第何號

地所登記簿謄本下付願

此手數料金拾五錢

年月日

何郡何村大字何々番地
何ノ誰

備考

一本願ハ右名刺ノミニテ其謄本下付セラ
ル但シ登記番號壹號ニ付金拾五錢トス

欠

MISSING

明治三十年七月廿七日印刷
明治三十年七月三十日發行

著作兼
發行人

市川 宇之太郎

茨城縣水戸市大字上
市南三ノ丸二番地

印刷人

柴

謙吉

茨城縣水戸市大字上
市南三ノ丸二番地

印刷所

弘

文

社

同市同字同番地

禁電子式複写

公民寶典 全

前福嶋縣知事 小倉信近君題字
前福嶋縣書記官 尾越悌輔君題字
福嶋縣警部長 增永洋吾君序文

水戸 弘文社 藏版

031375-000-2

CZ-1113-24-03

公民寶典

市川 宇之太郎 / 編

M30

BBD-0651

